

# 2019年度 授業概要(シラバス)



山陽学園短期大学



# 2019(平成31)年度 授業概要(シラバス)

## — 山陽学園短期大学 —

◇ 目次	.....	1	~	2
◇ 食物栄養学科 (一般教育科目)	.....	3	~	12
(専門教育科目)	.....	13	~	36
◇ 幼児教育学科 (一般教育科目)	.....	37	~	42
(専門教育科目)	.....	43	~	74

※ 各学科の履修系統図はホームページに掲載しています。  
本学ホームページ > 学生支援 > 講義・シラバス・履修系統図  
<http://www.sguc.ac.jp/student/syllabus>

## シラバスについて

「シラバス」には、今年度開講する授業科目名や担当教員、学習内容について記載されています。各項目の内容は次のとおりです。

授業科目名 ①		担当者 ②	
単位数 ③	単位	開講期 ④	区分 ⑤
		配当年次 ⑥	
【授業概要】		【学習内容(各回の授業予定)】	
⑦		1.	
		2.	
		3.	
		4.	
		5.	
		6.	
【到達目標】		7. ⑫	
⑧		8.	
		9.	
【予習・復習等準備学習の内容】		10.	
⑨		11.	
		12.	
【留意事項】		13.	
⑩		14.	
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験 (レポート等含む)へのフィードバックの方法】		【テキスト】	
⑪		⑬	
		【参考図書】	
		⑭	

- ① 授業科目の名称。クラス分けや授業についての補足事項が併記されることもあります。
  - ② 担当する教員氏名。複数担当の場合は連名で記載しています。
  - ③ この授業科目によって修得することができる単位数。通年科目などはシラバスが2つに分かれています。単位数を合算しないよう注意してください。
  - ④ 開講する時期を記載しています。「前期」「後期」。集中講義の場合は「集中」など。
  - ⑤ 必修科目、選択科目といった科目の区分。
  - ⑥ 対象となる学科及び学年を記載。
  - ⑦ 授業科目の概要を記載しています。
  - ⑧ 授業のねらい、修得できる内容など。
  - ⑨ 履修するにあたっての準備学習などについて記載しています。
  - ⑩ 履修するにあたって留意すべきことを記載しています。
  - ⑪ 試験、レポート、小テスト等、どのような方法・基準をもって成績を評価するのかを記載。
  - ⑫ 各授業毎の学習内容。週1コマの授業であれば、15週分の授業内容を記載。
  - ⑬ 授業で使用する教科書(教材を含みます)。記載のある授業科目では受講の際に支障のないよう、教科書販売やブックセンターなどで入手してください。
  - ⑭ 学習の参考となる図書などを掲載。担当教員から適宜提示されることもあります。
- ※ 各授業科目の授業形態(講義・演習・実習等)については、「履修便覧」を参照してください。

## 食物栄養学科 開設科目

※担当者・開講期については変更になることがあります。

### 一般教育科目

知的生き方概論	3
倫理学	3
歴史	4
人間学	4
日本語表現法	5
社会学	5
生活と経済・金融	6
生活と科学・技術	6
統計学	7
心理学	7
現代ニュース概論	8
インターンシップ I	8
社会人入門	9
一般教養基礎	9
英語表現 I	10
英語表現 II	10
英語表現 III	11
スポーツ・健康科学 I	11
スポーツ・健康科学 II	12
異文化理解	(語学研修認定科目)
英語表現 IV	(語学研修認定科目)
英語表現 V	(語学研修認定科目)
日本国憲法	(開講せず)
国際関係論	(開講せず)
インターンシップ II	(開講せず)
日本語文書処理演習	(開講せず)

### 専門教育科目

公衆衛生学	13
社会福祉概論	13
解剖組織学	14
栄養生理学	14
栄養生理学実験	15
運動生理学	15
生化学	16
生化学実験	16
食品学総論	17
食品学各論	17
食品学実験	18
食品衛生学	18
食品衛生学実験	19
栄養学総論	19
栄養学各論	20
栄養学実習	20
臨床栄養学 I	21
臨床栄養学 II	21
臨床栄養学実習	22
栄養指導論 I	22
栄養指導論 II	23
栄養指導実習 I	23
栄養指導実習 II	24
公衆栄養学	24
給食計画論	25
給食実務論	25
給食管理実習・学内	26
給食管理実習・学外	27
調理学	27
調理学実習	28
調理学実験	28
食料経済	29
健康管理概論	29
情報処理演習	30
基礎化学	31
子どもと食育	31
専門演習 I	32
専門演習 II	33~35
消費者科学	(開講せず)

# 幼児教育学科 開設科目

※担当者・開講期については変更になることがあります。

## 一般教育科目

知的生き方概論	37
国語	37
日本国憲法	38
情報処理	38
キャリアデザインⅠ(社会人入門Ⅰ)	39
社会人入門Ⅱ	39
英語表現ⅠA	40
英語表現ⅠB	40
スポーツ・健康科学Ⅰ(1年/2年)	41～42
スポーツ・健康科学Ⅱ(1年/2年)	41～42
英語表現Ⅱ	(語学研修認定科目)
英語表現Ⅲ	(語学研修認定科目)
英語表現Ⅱ('18)2年カキュラム	(開講せず)
人間学	(開講せず)
美術	(開講せず)
一般教養基礎	(開講せず)
日本語文書処理演習	(開講せず)
哲学	(開講せず)
歴史	(開講せず)
政治学	(開講せず)
生活と経済・金融	(開講せず)
生物学	(開講せず)
インターンシップⅠ	(開講せず)
インターンシップⅡ	(開講せず)
心理学	(開講せず)
社会学	(開講せず)
公衆衛生	(開講せず)
異文化理解	(開講せず)

## 専門教育科目

音楽Ⅰ[理論]	43
音楽ⅡA[器楽]	43～44
音楽ⅡB[器楽]	44～45
音楽Ⅲ[歌唱・ソルフエージュ]	45
図画	46
工作	46
国語表現法	47
子どもの保健Ⅰ	47
子どもの保健Ⅱ(1年/2年)	48
子どもの食と栄養	49
社会福祉	49
保育ソーシャルワーク	50
子ども家庭福祉	50
保育原理	51
社会的養護Ⅰ	51
教育原理	52

教育心理学(1年/2年)	52～53
子ども家庭支援の心理学	53
発達心理学Ⅰ	54
臨床心理学	55
家庭支援論Ⅱ	55
教育課程総論	56
保育内容総論	56
表現ⅠA[音楽表現]	57
表現ⅠB[音楽表現]	57
表現ⅡA[造形表現]	58
表現ⅡB[造形表現]	58
表現ⅢA[身体表現]	59
表現ⅢB[身体表現]	59
健康A	60
健康B	60
言葉B	61
環境A	61～62
環境B	62
人間関係A	63
人間関係B	63
社会的養護Ⅱ	64
乳児保育Ⅰ	64
乳児保育	65
障がい児保育	65
教育方法論	66
保育・教職実践演習(幼稚園)	66
教職論	67
教育実習指導	67
教育実習Ⅰ[観察]	68
教育実習Ⅱ[総合]	68
保育所実習指導Ⅰ	69
保育所実習指導Ⅱ	69
保育所実習Ⅰ	70
保育所実習Ⅱ	70
施設実習指導Ⅰ	71
施設実習Ⅰ	71
行事企画実践演習	72
Sanyo子育てサポート実習	72
子どもと食育	73
専門演習	73
言葉A(2年)	74
特別支援教育・障がい児保育	74
幼児体育	(開講せず)
社会心理学	(開講せず)
施設実習Ⅱ	(開講せず)
施設実習指導Ⅱ	(開講せず)
家庭支援論Ⅰ	(開講せず)
養護原理	(開講せず)
発達心理学Ⅱ	(開講せず)
行事企画実践演習Ⅰ・Ⅱ	(開講せず)

# 食物栄養学科

(一般教育科目)





授業科目名 <b>知的生き方概論</b>			担当者 <b>齊藤 育子 他</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 人間として「よく生きる」とはどのようなことなのか。この根源的な問いについて、山陽学園の教育の基礎を築いた上代淑をはじめ、学園と深いにかかわりのあった人物の生き方を知ることを通して考える。さらに、本学園の教育理念「愛と奉仕」を実践する人間として、学生それぞれが地域の中でどのような役割を果たすことができるのか「岡山の諸地域」の学びを通して考える。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 開講趣旨の説明、受講の心得、山陽学園の歴史と建学の精神(齊藤学長) 2. 山陽学園の教育理念①上代淑の生涯(齊藤学長) 3. 山陽学園の教育理念②上代淑の「日めくり」(齊藤学長) 4. 門田界限の人々①石井十次と岡山孤児院(濱田元副学長) 5. 門田界限の人々②アリス・ベティ・アダムスと岡山博愛会運動(濱田元副学長) 6. 門田界限の人々③エドワード・ガントレットと山田耕作(濱田元副学長) 7. 岡山の歴史・文化・地理的背景(谷一副学長) 8. 和気町の人々の生活と課題(特別講師：地域包括連携協定先和気町役場職員) 9. 真庭市の人々の生活と課題(特別講師：地域包括連携協定先真庭市役所職員) 10. 平井学区の人々の生活と課題(特別講師：平井学区連合町内会関係者) 11. ボランティアの勧め(澁谷) 12. 学科特性①(学科担当者) 13. 学科特性②(学科担当者) 14. 学科特性③(学科担当者) 15. 自らの理想の生き方を語る、グループ討議(学科担当者)		
<b>【到達目標】</b> 1. 山陽学園の歴史と教育理念を理解する。 2. 「愛と奉仕」を実践した人々の生き方を知る。 3. 地域の人々の生活を知り、その課題を理解する。 4. 奉仕の具体的方法を知る。			<b>【テキスト】</b> なし。必要に応じて、資料を配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 各テーマについて図書館等を利用して予習する。返却されたレポートを再読し学びを深める。			<b>【参考図書】</b> 山陽学園『山陽学園百年史』、山陽学園『愛と奉仕 山陽学園創立130周年記念誌』(吉備人出版)その他、授業時に紹介する。		
<b>【留意事項】</b> 「山陽スタンダード」としての位置づけの授業です。授業に出席しなければレポートを提出できません。講義の順序を変更する場合があります。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 各授業では、講義後にレポートを作成し提出する。15回のレポートによって、成績を評価する。なお、学科特性の時間として、上代皓三記念講演会等の公開講演会等の出席に充てることがある。希望者には、各担当者が採点基準やコメントについて解説や説明を行う。					

授業科目名 <b>倫理学</b>			担当者 <b>入江 祐加</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：一
<b>【授業概要】</b> 本授業のテーマは現代ドイツの平和主義を倫理学と結びつけて論じていることである。近年日本でもグローバル化が進行し、多民族との共生の課題が生じている。このような現代のドイツおよびヨーロッパの状況および課題は、20世紀のそれらの歴史を考察することで明確に理解できる。本授業では、「第一次世界大戦」、「第二次世界大戦」、「戦後」と3つに分けてドイツの歴史や思想、時代背景を説明しながら、同時に映像教材を用い、平和とはいかに形づくられるか、人権とは何かについて意見交換を行う。ドイツの倫理や社会思想を深く理解するとともに日本の歴史やそこから生じる倫理的課題にも言及する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. イントロダクション：ドイツという国について 2. 日本とドイツの比較 (1) 少子化、教育、女性の社会進出について 3. 日本とドイツの比較 (2) 社会保障、医療、老人介護について 4. 日本とドイツの比較 (3) 歴史意識とそこから生み出されてきた思想 5. 第一次世界大戦 (1) 第一次世界大戦を生み出した状況の説明 6. 第一次世界大戦 (2) 映画『西部戦線異状なし』の鑑賞 7. 第一次世界大戦 (3) 映画『西部戦線異状なし』の意見交換 8. 第二次世界大戦 (1) 第二次世界大戦を生み出した状況の説明 9. 第二次世界大戦 (2) 映画『白バラの祈り』の鑑賞 10. 第二次世界大戦 (3) 映画『白バラの祈り』の意見交換 11. 戦後 (1) 戦後のドイツの東西分裂の状況の説明 12. 戦後 (2) 映画『東ベルリンから来た女』の鑑賞 13. 戦後 (3) 映画『東ベルリンから来た女』の意見交換 14. これからのドイツ (1) 移民・難民問題 15. これからのドイツ (2) ドイツとヨーロッパ		
<b>【到達目標】</b> ドイツの20世紀の歴史の流れを把握し、特に大戦が引き起こされた理由や大戦の内容について説明できること。また、それらの歴史をふまえたうえで、現在のドイツおよびヨーロッパが抱える問題を理解し、日本の歴史やそこから生じる課題を客観化できること。			<b>【テキスト】</b> プリントを配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 各回で話すテーマについて、事前に知らせておくのでテレビやインターネットなどで各自で知識を深めると同時に、ドイツという国について調べた内容を、自由に各回シートに書いてもらう。			<b>【参考図書】</b> 授業で適宜紹介する。		
<b>【留意事項】</b> 特になし					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 15回の出席30%、15回のリフレクションシートの内容(授業の終わり、または家で書いてきてもよい、家で書く場合は形式自由、授業の感想や各自で調べてきた授業と関連するテーマの内容を書いてほしい)40%、および期末試験(持ち込み可)30%。期末試験の問題内容は事前に周知する。各自で各回ごとに提出したリフレクションシートはコメントをつけて返すとともに、授業で適宜紹介する。					

授業科目名 <b>歴史</b>			担当者 <b>小柳 智裕</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 近世における幕藩制社会の特質およびその展開過程、崩壊過程を考察し、近代社会の形成を理解するとともに、岡山藩・備中松山藩などのような当時の地域の歴史についても素養を深める。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 歴史を学ぶ意義・歴史の時代区分 2. 近世幕藩体制の基礎(安土桃山時代～江戸時代) 3. 〃(江戸時代) 4. 幕藩制国家の成立 5. 幕藩制社会の特質 6. 藩校と教育 7. 産業の発達と専売制 8. 備中松山藩と山田方谷(概説・陽明学) 9. 〃(備中松山藩の藩政改革) 10. 一揆と儉約令 11. 岡山藩と民衆宗教 12. 野崎家の事例 13. 明治維新 14. 工業化と産業構造の変化 15. 近世・近代史のまとめ		
<b>【到達目標】</b> 日本近世史・近代史についての理解を深めるとともに、岡山藩・備中松山藩についての素養も身につける。			<b>【テキスト】</b> 太田健一『山田方谷のメッセージ』(吉備人出版)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 授業前にはシラバスを参考に自分なりに関連項目について調べ、授業後には時代の流れを理解できるように、復習すること。			<b>【参考図書】</b> 特になし		
<b>【留意事項】</b> 特になし。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業に取り組む姿勢(20%)、小テスト(20%)、期末試験の成績(60%)により評価する。試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>人間学</b>			担当者 <b>北岡 宏章</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 物質文明の爛熟と科学技術の無節操な利用の中で、人間らしさとは何かますます見えにくくなっていく現代にあって、人間とは何か、人間性とは何かを問うことをその本質的役割とする人間学の意義にはますます大きいものがある。授業では、まず人間学の歴史や人間学的視点について概観し、そこから現代を生きる人間の諸相を捉え、考えていく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 人間学とは何か 2. 人間学の歴史と人間学の対象 3. 人類の進化(1)類人猿からホモ属へ 4. 人類の進化(2)ホモ・サピエンスの登場と人間らしさのめばえ 5. 人類の進化(3)ホモ・サピエンスと人間性の獲得 6. 人類の進化と脳の発達および今日の脳科学研究 7. 進化の隣人チンパンジーと人間 8. 人間と言葉 9. 人間とシンボル 10. 人間と対話 11. 生殖医療と生命工学 12. AIの可能性と危うさ 13. 人間と道徳 14. 人間と宗教 15. まとめ		
<b>【到達目標】</b> 人間学的視点について理解し、自らも人間学的なものを見方や考え方がある程度できるようになる。			<b>【テキスト】</b> 毎回プリントを配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 配布するプリントをよく読んで、人間学的視点を身に付けるよう努力すること。			<b>【参考図書】</b> 授業の中で指示する。		
<b>【留意事項】</b> 変化のスピードが著しい現代社会とそこに生きる人間の在り方に積極的に関心を寄せ、新聞やニュースで人間学的に重要と考えられる問題を追い続け、自分の考えを持つようにしてほしい。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 1. 授業への積極的な参加 2. リフレクション・ペーパー 3. 定期試験					

授業科目名 <b>日本語表現法</b>			担当者 <b>山根 智恵</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 意図したことを相手に正確に伝えたり、相手に印象づけたりするには、またTPO(時・場所・場合)に応じた表現をするにはどうしたらよいのだろうか。この授業では、大学生にふさわしい日本語能力のうち、特に「話す」「書く」技能のレベル向上をめざし、スピーチ・電話対応の仕方、小論文・レポート・レジュメ・手紙の書き方を、実践を通して身に付けていく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. シラバス説明、第1課(日本語の話し方 振り返り) 2. 第1課(日本語の話し方 本文) 3. 第4課(スピーチをしよう) 4. 自己PR(第1グループ)、第2課(日本語の表記 振り返り) 5. 自己PR(第2グループ)、第2課(日本語の表記 本文) 6. 自己PR(第3グループ)、第3課(文章表現と文章構成 振り返り) 7. 自己PR(第4グループ)、第3課(文章表現と文章構成 本文) 8. 自己PR(第5グループ)、第5課(小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 振り返り) 9. 自己PR(第6グループ)、第5課(小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 振り返り) 10. 第6課(敬語を学ぼう 振り返り 本文) 11. 第6課(敬語を学ぼう 練習問題) 12. 第7課(手紙を書こう 振り返り 本文) 13. 第7課(手紙を書こう 練習問題) 14. 第8課(電話をかけよう)、第9課(ディベートをしよう) 15. 自己評価、他者評価		
<b>【到達目標】</b> (1)レポート・レジュメの書き方を理解し、実践できるようにする。 (2)成人にふさわしい話し方や敬語の正しい使用法を身に付ける。			<b>【テキスト】</b> 山根智恵・久木田恵『新版 基礎から学ぶ日本語表現法』(大学教育出版)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎回授業後に提出された課題を、原則次の授業までにこなし、提出する。			<b>【参考図書】</b> 授業中に適宜紹介する。テキストにも記載されているので、参照のこと。		
<b>【留意事項】</b> 特になし。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> (1)授業態度(課題への取り組みなど) 15% (2)ポートフォリオ 85%(第4課 15% 第1課～第8課 10%) フィードバックの方法:ポートフォリオチェック、返却					

授業科目名 <b>社会学</b>			担当者 <b>今井 英文</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 現代社会にみられるさまざまな現象について学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 授業のガイダンス 2. 現代社会とは何か 3. 現代社会と青年の生き方 4. 家族の社会学 5. 学校の社会学 6. 地域の社会学(1)都市の種類としくみ 7. 地域の社会学(2)国際観光 8. 地域の社会学(3)商業 9. 災害と地域社会(1)東日本大震災 10. 災害と地域社会(2)西日本豪雨 11. 世界の食料問題 12. 世界の人口問題 13. 世界の環境問題 14. 社会調査の方法 15. まとめー社会学からみた現代とは		
<b>【到達目標】</b> 現代社会にみられるさまざまな現象を、社会学の立場から考えることができる。			<b>【テキスト】</b> なし		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 新聞やニュースなどをみて、現在起きている社会現象への関心を高めておくこと。			<b>【参考図書】</b> 授業中に指示する		
<b>【留意事項】</b> プリントをたくさん配るので、授業終了後に必ずファイリングしておくこと。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 定期試験70%と、授業中のミニペーパー30%で行う。希望者には、試験問題の解説を行う。					

授業科目名 <b>生活と経済・金融</b>			担当者 <b>神戸 康弘</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：-
<b>【授業概要】</b> 本講義では、栄養士として働くことを前提に、誰にとっても必要な金融の基礎知識について解説する。例えば、金融の主要なトピックをあらかじめ3つほど設定し、意欲ある者が事前に調べレポートを提出し、優秀者のレポートを中心に講義するというスタイルを予定している。そのため、優秀者のレポートの書き方も同時に学べる。また現実を知るためビデオ教材を使った講義や、ゲストを迎えた講義も予定している。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. イントロダクション 2. 金融とは：知らなければいけない3つの数字 3. 円高円安(1)：円高円安とは 4. 円高円安(2)：円高円安の理由と影響 5. 金融機関(1)：都市銀行と地方銀行 6. 金融機関(2)：銀行が利益を出す仕組み 7. 地元企業を知る：岡山の人気企業 8. 地元企業を知る：岡山の上場企業 9. 株式－新聞の株式欄の読み方 10. 株式－配当金、株主優待、株価が決まる仕組みなど 11. 金融商品－様々な金融商品 12. 食に携わる職業－栄養士として働くとは 13. 学生優秀レポート紹介：「企業」編 14. 学生優秀レポート紹介：「感動した本」編 15. 生活と経済金融、講義の活かし方[総括]		
<b>【到達目標】</b> 社会人として必要な基礎知識のマスター：受講者の声「はじめて円高円安の意味がわかった」「新聞の株式欄が読めるようになった」「TVの経済ニュースの意味がわかった」「親と経済の話ができるようになった」等。			<b>【テキスト】</b> 特になし(毎回プリント配布)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎回の授業内容を日常生活で活かして欲しい。例、ニュースを見る、新聞を見る、親や友人と経済の会話をする等。			<b>【参考図書】</b> 『USJを劇的に変えたたった1つの考え方 成功を引き寄せるマーケティング入門』森岡毅(著) 『渋井真帆の日経新聞読みこなし隊』渋井真帆(著)		
<b>【留意事項】</b> 任意のレポート課題を出す予定なので積極的に提出してほしい。発言を歓迎するので議論できるよう日頃からテレビ、ネットなどの経済ニュースに触れて欲しい。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 1、授業への参加度・貢献度、2、課題・提出物、毎回の小テスト、3、期末試験、を総合して判断する。単位認定試験のフィードバックは、講評(正解、誤答の多かった問題、意見の紹介等)をPC上で閲覧可能にする予定。					

授業科目名 <b>生活と科学・技術</b>			担当者 <b>小野 和夫・廣田 幸子・國本 あゆみ</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：-
<b>【授業概要】</b> 現代の生活は、科学と科学技術に支えられている。身の回りの生活にある科学について学ぶ。日常生活に活かすことのできる知識として身近な問題を取り上げ、毎日のヒトとモノ、環境との相互作用について学ぶ。 さらに健康な食生活や栄養学について理解し、自分の健康や食生活について考える。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 水と生活(小野) 2. 生活と環境破壊(小野) 3. 生活に利用されるエネルギー(小野) 4. 清潔さの科学(小野) 5. 食品の消費問題(廣田) 6. 食物アレルギー(國本) 7. 食の安全性(遺伝子組み換え食品、食品添加物など)(廣田) 8. サプリメントの効用(廣田) 9. 食品の保存と管理(廣田) 10. 日本および世界の食糧事情(食品ロス)(小野) 11. おいしさの科学(廣田) 12. 食事の環境(國本) 13. 食生活の変遷(國本) 14. 日本の伝統的食文化(郷土料理等の紹介)(國本) 15. 生活の質のとらえ方(國本)		
<b>【到達目標】</b> ①生活の中で科学的に考える力を養う。 ②現代の食の問題について考えられる。 ③健康の維持増進のための正しい食生活について理解する。			<b>【テキスト】</b> 適宜、資料を配布する		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> ①授業内容に関連する書籍、新聞などを読んで学習しておく。 ②受講票を用いて授業の復習を行う。			<b>【参考図書】</b> 授業時に紹介する。		
<b>【留意事項】</b> 第14回日本の伝統的食文化では、郷土料理等の紹介をしてもらう。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 試験70%、受講票・課題30% 毎回の授業終了後に受講票の提出を課す。					

授業科目名 <b>統計学</b>				担当者 <b>小林 伸行</b>	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 統計学は、一部のデータ(標本)を用いて全体(母集団)の特徴を調べたり、予測したりする学問である。大量データを処理できるコンピュータが発達したことで、統計学の手法は様々なところで応用されている。この講義では、データの整理、確率分布、相関係数、推定・検定などの統計手法を演習しながら解説していく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 統計学とは、平均値・中央値・最頻値の計算 2. 分散・標準偏差の計算 3. データのグラフ化 4. 度数分布表とヒストグラム 5. 散布図と相関係数(1) 6. 相関係数(2) 7. 推測統計とは、点推定 8. 母平均の区間推定 9. 母比率の区間推定 10. Excelによる区間推定 11. 母平均の検定 12. 母平均の差の検定(対応なし) 13. Excelによる母比率・母比率の差の検定(t検定) 14. 母比率の検定 15. 無相関の検定		
<b>【到達目標】</b> ・度数分布表とヒストグラムを作成できる。 ・相関係数と散布図を理解している。 ・区間推定を行うことができる。 ・母平均や母比率の検定を行うことができる。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 次回の授業範囲を予習し、理解を深めておくこと。次回授業までに課題を行うこと。					
<b>【留意事項】</b> ・高校の数学Iの「数と式」数学Aの「順列と組み合わせ・確率・統計」を使います。 ・Excelを使い計算します。			<b>【テキスト】</b> やさしく学べる統計学		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 課題30%、期末試験70%により評価する。評価について、希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。			<b>【参考図書】</b>		

授業科目名 <b>心理学</b>				担当者 <b>大橋 康宏</b>	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 心理学入門として心の科学の基礎的諸問題について講述する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. イントロダクションー心理学の諸問題と歴史 2. こころの科学としての心理学 3. 人格の理解と測定法 4. 知能の構造と発達 5. 発達過程の諸問題 6. 知覚と認知 7. 学習と転移 8. 記憶の構造と過程 9. 概念と問題解決、推論と意思決定 10. 感情・情動の理論と発達 11. 動機づけと行動 12. 適応と不適応 13. 社会的認知・態度と行動 14. 脳と心(1) 15. 脳と心(2) まとめ		
<b>【到達目標】</b> 心理学の面白さや心のメカニズムを知り、これらを基礎として心理学の各領域に応用・発展できるようにする。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 次回の授業範囲を予習し、理解を深めておくこと。					
<b>【留意事項】</b> 特になし			<b>【テキスト】</b> 毎回、プリントや資料を用意する。		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 平常の授業への参加態度・小テスト・期末試験等で総合的に評価する。総授業数の1/3以上欠席した者は、期末試験を受ける資格を失うので注意すること。			<b>【参考図書】</b> 『心理学ーこころを科学する』(笹野完二 編) ナカニシヤ出版 『心理学』(ジリアン・バトラー、フリーダ・マクマナス著、山中康裕訳) 岩波書店		

授業科目名 <b>現代ニュース概論</b>			担当者 <b>小野 和夫 他</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> これからの社会を担う人間として、また栄養士としてのものの見方、考え方、判断力を身につけられるように、食や健康に関する記事や重要な時事問題を中心に取り上げる。授業では、記事の背景も含めて記事の意味を考え、議論することで、自分の意見をまとめていく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション、新聞に学ぶプレゼンテーションの方法 (小野・國本) 2. 新聞記事スクラップから見えてくる現代社会:まとめ (全員) 3. 新聞記事スクラップから見えてくる現代社会:発表 (全員) 4. 子どもの「食」と健康 (國本) 5. 学校給食 (岩崎) 6. 国民の健康・栄養上の問題 (國本) 7. 超高齢社会と食 (松井) 8. 栄養士の仕事と地域との関わりについて (岩崎) 9. 食と安全 (廣田) 10. 食品ロス (小野) 11. 食料自給 (小野) 12. 災害時における栄養士の役割(1) (岩崎) 13. 災害時における栄養士の役割(2) (岩崎) 14. プレゼンテーションー現代社会と栄養士(1)発表準備 (全員) 15. プレゼンテーションー現代社会と栄養士(2)発表 (全員)		
<b>【到達目標】</b> ①新聞を読む習慣を身につける。②時事問題や社会の動向を理解する。③自分の意思や考えをもち、自己判断ができる。④プレゼンテーションの方法を身につける。			<b>【テキスト】</b> なし。必要に応じて、資料を配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 新聞を読むこと。図書館も利用できる。			<b>【参考図書】</b> 図書館で閲覧できる新聞各紙。図書館の蔵書。		
<b>【留意事項】</b> ①グループ内での意見発表など積極的な参加を望む。 ②授業の順序が変更される場合がある。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> レポート(80%)、発表・討論(20%)・レポートは評価後、返却時に解説を行う。					

授業科目名 <b>インターンシップ I</b>			担当者 <b>小野 和夫 他</b>		
単位数	1 単位	開講期	集中	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> インターンシップは、就職活動へ向けて企業等で就業体験を行うことである。前期にインターンシップの事前準備を行い、夏期休暇中を活用してインターンシップに取り組む。インターンシップ終了後には報告会を行い、自身の学修成果をまとめるとともに、他の学生の学修成果を聞き、学びを深める。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション、インターンシップの目的 2. 事前準備(1)挨拶等のマナー 3. 事前準備(2)企業研究 4. 事前準備(3)企業研究のプレゼンテーション 5. 事前準備(4)研究課題の設定 6. 事前準備(5)事前準備事項の確認 7. 【夏期休暇中】インターンシップ(5日間以上) 8. 事後指導(1)お礼状、学修成果のまとめ 9. 事後指導(2)報告会		
<b>【到達目標】</b> 1. 栄養士の職場と業務の内容を理解し、就職活動に活かすことができる。 2. 自信を持って栄養士として就職する。			<b>【テキスト】</b> 適宜、資料を配布する		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> インターンシップの目的を明確にし、目的をもって取り組めるよう、事前学習を十分に行うこと。			<b>【参考図書】</b> 管理栄養士・栄養士になるための国語表現 田上貞一郎・田中ひさよ著 萌文書林		
<b>【留意事項】</b> 授業予定が変更となる場合がある。 主体的に学修すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 事前学習の取り組み状況、企業側の評価、報告会の発表を加味し、評価を行う。					

授業科目名 <b>社会人入門</b>			担当者 <b>岩崎 由香里・國本 あゆみ</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 社会人としての一般常識、基本的なマナーを修得する。また、就職活動へ向けて、必要な知識・能力を演習を交えながら身に付ける。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 2. 専門職講座(1)栄養士の職域 3. 専門職講座(2)栄養士の業界研究 4. 専門職講座(3)活躍する栄養士① 5. 専門職講座(4)活躍する栄養士② 6. 適性検査の実施、結果の見方とその活用 7. 専門職講座(5)自己分析 8. 履歴書とその書き方 9. グループディスカッション対策・指導 10. 面接とその対策・指導 11. 応募書類の書き方 12. 就職活動に向けて 13. 栄養士業界研究会(1) 14. 栄養士業界研究会(2) 15.		
<b>【到達目標】</b> 1. 栄養士の職域や仕事内容について理解する。 2. 就職活動に必要な知識・能力を身に付ける。 3. 社会人としての一般常識やマナーを身に付ける。			2月上旬に行う栄養士業界研究会は、2回分の授業とする。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 1. 日頃から新聞を読み、社会の動きを知るように心がける。 2. 関心をもった企業について、企業研究を十分に行う。					
<b>【留意事項】</b> 1. 就職希望者は必ず履修すること。2. キャリアガイドブックを毎回持参すること。3. 提出物は期限内に提出をすること。4. 進路登録カードおよび履歴書を必ず提出すること。			<b>【テキスト】</b> キャリアガイドブック(キャリアセンター作成、授業時に配布する) 必要に応じて、資料を配布する。		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 課題の提出状況および、授業態度で総合的に評価する。			<b>【参考図書】</b> 授業時に紹介する。		

授業科目名 <b>一般教養基礎</b>			担当者 <b>小野 和夫・國本 あゆみ</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 大学での学び方の基本的事項として、ノートの書き方、レポートの書き方を学ぶ。さらに社会人として求められる文章作成について学ぶ。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション、ノートの取り方①メモの取り方(小野) 2. ノートの取り方②要点のまとめ方(小野) 3. ノートの取り方③メモと要点からのノートのつくり方(小野) 4. レポートの書き方①レポートの構造(國本) 5. レポートの書き方②文章の原理原則(國本) 6. レポートの書き方③テーマから問題提起へ(國本) 7. レポートの書き方④3部構成で書く(國本) 8. レポートテーマの設定、資料の検索の方法(國本)		
<b>【到達目標】</b> 大学での学びの姿勢について学習し、他の授業にも活かせるようにする。社会人として必要な文章作成能力を身に付ける。			<b>【テキスト】</b> 資料を配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎回の授業内容を復習し、次回の授業につなげる。					
<b>【留意事項】</b> 1. 提出物は、期日を守り提出すること。 2. 授業中に質疑を行うので、積極的に取り組むこと。			<b>【参考図書】</b> 授業時に紹介する。		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> レポート(50%)、課題プリント・授業への取り組み度(50%)で評価する。レポート等は評価後、返却時に解説を行う。					

授業科目名 <b>英語表現 I</b>			担当者 <b>江藤 由香里</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 英語をより身近なものとして感じることができるよう、日常生活や食に関する会話をペアワークやグループワークを中心に語彙・表現を学習する。また、英語圏で行われる行事に関連する食文化にも触れる。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 授業の説明 2. 自己紹介（ペアー、グループにて会話練習） 3. 国と国籍（ペアー、グループにて会話練習） 4. 英語圏の行事と食文化 その1: イースター（体験学習） 5. 果物（単語・発音）、色と形 6. 果物（単数形と複数形） 7. 果物（ペアー、グループにて会話練習） 8. 野菜（単語・発音）、数え方 9. 野菜（野菜の歌） 10. 野菜（ペアー、グループにて会話練習） 11. 英語圏の行事と食文化 その2: アメリカ合衆国の独立記念日（レシピを和訳） 12. 英語圏の行事と食文化 その2: アメリカ合衆国の独立記念日（調理実習） 13. 野菜・果物の買い方（ペアー、グループにて会話練習） 14. 野菜・果物の買い方（会話演習テスト） 15. 授業の振り返り、復習問題		
<b>【到達目標】</b> 1) 日常生活や食に関する会話に必要な語彙・表現を身につける。 2) 英語圏の食文化を知る。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 授業の配布物をファイルに整理し、発音・語彙の復習をしておくこと。					
<b>【留意事項】</b> 積極的に授業内アクティビティに参加すること。英英辞書をなるべく使用すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】</b> 期末試験70%、課題・小テスト10%、会話演習テスト10%、授業態度や意欲10%（フィードバックの方法：希望する学生には、問題解説や採点基準などの説明を行う。）			<b>【テキスト】</b> 資料を配付する。		
			<b>【参考図書】</b> ケンブリッジインターナショナル英英辞書 The Concise Oxford Dictionary		

授業科目名 <b>英語表現 II</b>			担当者 <b>江藤 由香里</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 「英語表現 I」に引き続き、日常生活や食に関する会話をペアワークやグループワークを中心に、必要な語彙・表現を学習する。また、英語圏で行われる行事に関連する食文化にも触れる。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 授業の説明 2. 食べ物（単語・発音） 3. 食べ物（ペアー、グループにて会話練習） 4. 英語圏の行事と食文化 その1（文化紹介・レシピの和訳） 5. 英語圏の行事と食文化 その1（調理実習） 6. デザートと飲み物（単語・発音） 7. デザートと飲み物（ペアー、グループにて会話練習） 8. アイスcreamの注文の仕方（ペアーにて会話練習） 9. レストランにて（テーブルマナー） 10. レストランにて（注文の仕方、ペアーにて会話練習） 11. 英語圏の行事と食文化 その2（文化紹介・レシピの和訳） 12. 英語圏の行事と食文化 その2（調理実習） 13. 料理道具 14. 料理用語 15. 授業の振り返り、復習問題		
<b>【到達目標】</b> 1) 日常生活や食に関する会話に必要な語彙・表現を身につける。 2) 英語圏の食文化を知る。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 授業の配布物をファイルに整理し、発音・語彙の復習をしておくこと。					
<b>【留意事項】</b> 積極的に授業内アクティビティに参加すること。英英辞書をなるべく使用すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】</b> 期末試験70%、課題・小テスト15%、授業態度や意欲15% 期末試験のフィードバックのためのオフィスアワーを設け、問題解説や採点の基準などの説明を行う。			<b>【テキスト】</b> 資料を配付する。		
			<b>【参考図書】</b> ケンブリッジインターナショナル英英辞書 The Concise Oxford Dictionary		



授業科目名 <b>英語表現Ⅲ</b>			担当者 <b>江藤 由香里</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 世界各国のさまざまな食文化や料理をテーマに、日本ではあまり目にすることがない食材や調理法について学習する。また、英語で書かれた料理ブックの中から興味を持ったレシピを和訳し、実際に調理をする。なお、この授業では新型LL教室を使用し、発音練習にも力を入れる。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 授業の説明、世界の食文化について 2. The Buckeye State (和訳、発音練習) 3. The Buckeye State (アメリカの食文化について) 4. Marvelous Mexican Burritos (和訳、発音練習) 5. Marvelous Mexican Burritos (メキシコの食文化について) 6. "Guest in Home. God in the Home." (和訳、発音練習) 7. "Guest in Home. God in the Home." (ポーランドの食文化について) 8. 選択1 (和訳、発音練習) 9. 選択1の食文化について 10. 選択2 (和訳、発音練習) 11. 選択2の食文化について 12. 調理実習にむけてレシピの選択、和訳 13. 調理実習のプラン作成 (グループワーク) 14. 世界の食文化(グループにて調理実習) 15. 授業の振り返り、復習問題		
<b>【到達目標】</b> 1) 世界各国の食文化や料理への知識を深める。 2) 食に関する語彙・表現を身につける。			<b>【テキスト】</b> おいしい世界の食文化 (The Wonderful World of Food)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 各授業のテーマを一読し、分らない語彙は事前に調べておくこと。発音・語彙の復習をしておくこと。			<b>【参考図書】</b> ・Betty Crocker Cook Book ・Around the World in 450 recipes		
<b>【留意事項】</b> 積極的に授業内アクティビティに参加すること。英英辞書をなるべく使用すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験 60%、 課題・小テスト 20%、 授業態度や意欲 20% 期末試験のフィードバックのためのオフィスアワーを設け、問題解説や採点の基準などの説明を行う。					

授業科目名 <b>スポーツ・健康科学Ⅰ</b>			担当者 <b>三好 靖子</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> スポーツ種目のハンドボール、キックベースボール、バドミントン、ソフトバレーボールを実施することにより、技術構成の解明と特徴を科学的に分析する。また現段階での個人それぞれの体力評価と、体力の維持増進のため基礎的なトレーニングを取り入れ実施する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス スポーツ、健康に関する諸注意 2. スポーツテスト 体力診断テスト(自己体力の確認) 3. スポーツテスト 運動能力テスト(自己体力の確認) 4. ソフトバレーボール パス、サーブ練習 5. ソフトバレーボール ルール説明、グループ練習、試合 6. ソフトバレーボール グループ練習、試合 (実技テスト) 7. ハンドボール パス、ステップシュート練習 8. ハンドボール ルール説明、試合 9. ハンドボール グループ練習、試合 (実技テスト) 10. キックベースボール ルール説明、試合 11. キックベースボール グループ練習、試合 12. バドミントン サーブ、ハイクリアー練習 13. バドミントン サーブ、ヘアピン、スマッシュ練習 14. バドミントン ルール説明、シングルス・ダブルス試合(実技テスト) 15. バドミントン シングルス・ダブルス試合 (実技テスト)		
<b>【到達目標】</b> スポーツ文化の理解、スポーツ科学の理解、心身の健康・体力増強、情緒の安定と体力回復、好ましい人間関係、社会性・道徳性の高揚。			<b>【テキスト】</b> なし		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 一日一回のストレッチング、体幹トレーニング。			<b>【参考図書】</b> 岩崎英人他、「トレーニングサイエンス」 不味堂出版 学習指導要領 「体ほぐし」の運動アイデア130今すぐ使えて楽しい授業ができる 洋和泉社 「ニューススポーツ百科」 大修館書店		
<b>【留意事項】</b> スポーツウェア、屋内、屋外シューズの用意。資格取得希望者を優先する。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業への活動意欲、小テスト、実技テストなど総合的に評価する。 活動意欲50% 小テスト20% 実技テスト30%					

授業科目名 <b>スポーツ・健康科学Ⅱ</b>			担当者 <b>三好 靖子</b>					
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	食物栄養：1年～	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 球技系のスポーツ種目を主として行い、ニュースポーツも加えて実施する。また、体力の維持増進のために各種ストレッチングと基礎的なトレーニングも実施する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス スポーツ、健康に関する諸注意</li> <li>2. スポーツテスト 新体力テスト</li> <li>3. インディアカ ルール説明、フォーメーション練習、試合</li> <li>4. インディアカ グループ練習、試合</li> <li>5. フットサル ルール説明、パス練習、試合</li> <li>6. フットサル グループ練習、試合</li> <li>7. フットサル グループ練習、試合 (実技テスト)</li> <li>8. ユニホック ルール説明、グループ練習、試合</li> <li>9. ユニホック グループ練習、試合</li> <li>10. バasketボール ルール説明、ドリブルシュート、三角パス、試合</li> <li>11. バasketボール 四角パス、試合 (実技テスト)</li> <li>12. 卓球 ストローク・サーブ練習、ルール説明、シングルス試合</li> <li>13. 卓球 シングルス試合 (実技テスト)</li> <li>14. 野外走 (小テスト)</li> <li>15. フリー種目</li> </ol>					
<b>【到達目標】</b> スポーツ文化の理解、スポーツ科学の理解、心身の健康・体力増強、情緒の安定と体力回復、好ましい人間関係、社会性・道徳性の高揚。								
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 一日一回のストレッチング、体幹トレーニング。								
<b>【留意事項】</b> スポーツウェア、屋内、屋外シューズの用意。資格取得希望者を優先する。								
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業への活動意欲、小テスト、実技テストなど総合的に評価する。 活動意欲50% 小テスト20% 実技テスト30%			<b>【テキスト】</b> なし					
			<b>【参考図書】</b> 岩崎英人他、「トレーニングサイエンス」 不昧堂出版 学習指導要領 「体ほぐし」の運動アイデア130今すぐ使えて楽しい授業ができる 洋和泉社 「ニュースポーツ百科」 大修館書店					

# 食物栄養学科

(専門教育科目)



授業科目名 <b>公衆衛生学</b>			担当者 <b>高木 二郎</b>					
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 近代国家が、健康を構築し、国民・市民の希求の権利としてきた経緯を理解し、これからの地球規模での健康な社会の実現について学習する。日本は世界の中では最も健康な社会を、戦後の何十年かという短期間で作り上げてきたが、そのポイントは何かを理解しておくことが、現在のレベルを今後も維持することにつながるのであり、謂わば不断の努力の必要性を理解する。環境汚染のボーダーレス化、超高齢化など時事的な問題にも目を向ける。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 公衆衛生と健康の概念(予防医学など) 2. 公衆衛生と健康の概念(ヘルスプロモーションなど) 3. 保健統計(人口静態統計など) 4. 保健統計(人口動態統計など) 5. 保健統計(死亡率など) 6. 医の倫理と患者の人権 7. 終末期医療と死の概念 8. 医療体制、医療費 9. 成人保健と健康増進 10. 障害者福祉、精神保健福祉 11. 感染症対策(感染症法など) 12. 感染症対策(予防接種など) 13. 感染症対策(院内感染対策など)、食品保健 14. 産業保健 15. 環境保健、国際保健				
<b>【到達目標】</b> 理念としての公衆衛生を理解し、それぞれが果たすべき役割を考えることができるようになる。								
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 公衆衛生は社会の問題であり、時事問題への理解なしにはあり得ないので、ニュースなどの報道にも関心をもつこと。								
<b>【留意事項】</b> 自分自身や家族、地域の人々等の健康問題と関連づけて学習する姿勢が重要である。								
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験による予定。				<b>【テキスト】</b> 公衆衛生がみえる				
				<b>【参考図書】</b> 特になし				

授業科目名 <b>社会福祉概論</b>			担当者 <b>担当者未定</b>					
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 社会福祉の歴史的背景や社会福祉の仕組み、援助方法などについて理解するとともに、社会福祉は特別な人のための制度・政策ではないこと、誰もが必要ときに必要なサービスを利用できるものであることを理解する。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 社会福祉とは何か 2. 日本の社会福祉の歴史 3. 社会保障制度と社会福祉を展開する組織 4. 子ども福祉 5. 障害者福祉 6. 高齢者福祉 7. 介護保険制度と専門職の役割 8. 低所得者福祉 9. 地域福祉 10. 医療福祉 11. 精神保健福祉 12. 社会福祉施設の役割 13. 社会福祉を担う人々 14. 社会福祉の相談援助技術 15. 社会福祉の実践事例とこれからの課題				
<b>【到達目標】</b> 社会福祉の制度、サービスの種類を知識として学ぶだけでなく、それらの制度、サービスを活用しながら具体的にどのような対人援助を提供することができるかを理解する。								
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> テキストの「社会福祉概論」を事前に読んでおくこと。								
<b>【留意事項】</b> 欠席の届け、レポート提出は厳しく管理します。								
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 15回の授業の中間あたりにレポート提出を課す。レポートについて、必要とされる記載事項などについては授業中に指示をする。また、15回の授業終了後、期末試験を行う。成績評価：期末試験 70%、レポート 30%				<b>【テキスト】</b> 「コメディカルのための社会福祉概論」第3版				
				<b>【参考図書】</b> 特になし				

授業科目名 <b>解剖組織学</b>			担当者 <b>洲崎 悦子</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：1年～	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 何故、私達は食物からの栄養が必要なのだろうか？ 栄養について理解するためには、まず、人体について知ることが大切であり、私達が生きていく仕組みが分かれば、栄養についても自然にその重要性が理解できるようになる。 この科目では、人体を構成している構造とその果たす機能について学び、私達が生きていく仕組みを理解することを目指す。 講義は、配布プリントに従って進め、教科書の図を参考にしながら、板書をしっかり行って説明する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. はじめに：解剖組織学とは、および、人体を構成する単位 2. 血液と循環器系(1) 3. 循環器系(2) 4. 神経系(1) 5. 神経系(2) 6. 内分泌系 7. 消化器系(1): 消化 8. 消化器系(2): 吸収 9. 消化器系(3): 肝臓と膵臓 10. 筋・骨格系 11. 外皮系と体性感覚 12. 感覚器系 13. 呼吸器系 14. 泌尿器系 15. 生殖器系(女性生殖器系を中心に)		
<b>【到達目標】</b> 人体の基本的な構造とその果たす役割を説明できる。また、私達が生きていく仕組みを機能グループごとに説明できる。そして、栄養や病気との関わりについても概説できるようになる。			<b>【テキスト】</b> なるほどなっとく解剖生理学 多久和典子、多久和陽 著		
<b>【留意事項】</b> 教科書・ノートを準備して出席すること。 また、復習問題で分からない所はそのままにしないで質問をすること。			<b>【参考図書】</b> ガイドライン準拠 エキスパート 管理栄養士養成シリーズ「解剖生理学」 高野康夫編 ぜんぶわかる人体解剖図 系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説 坂井建雄・橋本尚詞著		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験80%、復習問題の習熟度・提出状況20%で評価する。 期末試験の問題は、毎回の復習問題をもとに作成する。 また、他の課題を加えて総合的な評価をする場合がある。					

授業科目名 <b>栄養生理学</b>			担当者 <b>村田 幸治</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目 (栄養士必修)
			配当年次	食物栄養：1年～	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 臨床栄養学などの専門的な科目で健康増進や疾病の予防・治療などを理解するために必要となる基礎知識を学習する。栄養生理学では、栄養学との関連が深い呼吸器系や消化器系などの機能の他に、人体を構成している各器官の機能について全般的に概説する。また、生命活動の基本であるエネルギー代謝や体温調節についても概説する。授業中に特定のテーマについて、学生との質疑応答を行う予定。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 骨の生理学 2. 筋肉の生理学、栄養評価の基本 3. 神経系の生理学 4. 感覚器系の生理学、内分泌・代謝系の生理学(1) 5. 内分泌・代謝系の生理学(2)(糖尿病と食品交換表) 6. 血液の生理学 7. 循環器系の生理学 8. 呼吸器系の生理学 9. リンパ系と生体防御 10. 食物アレルギー 11. 消化器系の生理学(食物の消化と吸収について) 12. 腎臓の生理学、体液の恒常性 13. 生殖器系の生理学 14. 精子と卵子の発生、染色体とその異常(特に、常染色体トリソミーについて) 15. エネルギー代謝		
<b>【到達目標】</b> 1. 人体の各器官の機能について理解する。 2. エネルギー代謝について理解する。			<b>【テキスト】</b> ・配布資料(プリント)		
<b>【留意事項】</b> 「栄養生理学実験」の履修前に、必ず履修しておくこと。代返や代筆などの不正行為が発覚した場合は、出席無効や受講停止などの処分の対象となるので留意すること。			<b>【参考図書】</b> ・田中越郎著「好きになる生理学 からだについての身近な疑問」講談社(2003) ・河田光博、三木健寿編「解剖生理学 人体の構造と機能(第2版)」講談社(2007)		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 小テスト30%と期末試験70%で評価する(予定)。 必要に応じて、レポートを課すこともある。 小テストについては、授業の中で講評と解説を行う。期末試験については、特に正答率の低かった問題があれば講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>栄養生理学実験</b>			担当者 <b>小野 和夫</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 前半は、血液や尿成分に関する実験を行い、栄養摂取や健康との関連について考える。後半は、エネルギー消費量の測定を行う。健康を維持していくには、摂取エネルギー量と消費エネルギー量のバランスがとれていなければならない、エネルギー消費量を把握することが重要となる。そこで、生活時間調査にもとづくエネルギー消費量の測定を行う。また、身体活動の強弱がエネルギー消費にどのような影響を及ぼすかについても調べる。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション(実験を始める前の予備知識) 2. 唾液の緩衝能に関する実験 3. 血液に関する実験1－血清アルブミン・グロブリン比の測定 4. 血液に関する実験2－血糖値の測定 5. 血液に関する実験3－血液型の判定 6. 尿の分析1－定性試験 7. 尿の分析2－尿素、尿酸、クレアチニンの定量 8. 感覚に関する実験-重量感覚 9. 生活時間調査にもとづくエネルギー消費量の測定 10. エネルギー消費量の測定結果の整理と評価 11. エネルギー代謝量の測定－呼気ガスの測定 12. エネルギー代謝量の測定－呼気ガス分析結果の整理と評価 13. 身体機能の測定 14. 身体機能の測定結果の分析と評価 15. 課題学習についての発表と解説		
<b>【到達目標】</b> ①実験および実体験から人体の働きについて理解を深める。 ②エネルギー消費量の測定の具体的な方法について理解する。③活動や生命維持に消費されるエネルギー量を測定し、必要な摂取エネルギーを推定できる。			<b>【テキスト】</b> 1. 配布された実験書		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 事前に実験書を読み、実験の目的・内容をよく理解しておくこと。			<b>【参考図書】</b> 附属図書館の生理学関連の図書を中心に適宜紹介する。		
<b>【留意事項】</b> 特になし					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> レポート70%、課題20%、小テスト10% レポートは、点検後、不備な箇所があれば指摘し、たうえで再提出をもとめる。課題と小テストについては、評価後、解説を行う。					

授業科目名 <b>運動生理学</b>			担当者 <b>松枝 秀二</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 近年、体力の低下や生活習慣病の増加が問題になっている。わが国では、1978年から国民健康づくり対策に取り組み、健康づくりの3要素として栄養・運動・休養を挙げている。運動生理学では運動によって身体にどのような変化が生じるのか、その現象と仕組みについての基礎を理解することを目的とする。体力の向上、健康の維持・増進、生活習慣病の予防に重要な運動療法についても概説する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 運動と健康 2. 筋収縮のしくみ 3. 運動時の生理機能 4. 運動時のエネルギー代謝 5. 運動と栄養素代謝 6. 運動と食事(1)運動時の食事内容 7. 運動と食事(2)運動選手の食生活 8. 運動と疲労 9. 運動と環境 10. メディカルチェック 11. 運動処方の実際 12. 運動基準 13. 身体トレーニング 14. 運動療法(1)循環器疾患、呼吸器疾患 15. 運動療法(2)神経・筋疾患		
<b>【到達目標】</b> 1. 運動による身体の変化について理解する。 2. 健康増進のための運動処方について理解する。 3. 生活習慣病の予防や治療に用いられる運動療法について理解する。			<b>【テキスト】</b> 岸恭一・上田伸男・塚原丘美編「運動生理学(第2版)」講談社サイエンティフィク		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 教科書を読んで下さい。			<b>【参考図書】</b> 杉晴夫編「運動生理学(改訂第3版)」南江堂		
<b>【留意事項】</b> 特になし。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験、学習態度等により総合的に評価する。必要があれば、レポートを課す。					

授業科目名 <b>生化学</b>			担当者 <b>小野 和夫</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 生物は常に外界から栄養物を吸収し、それを自己の体内で他の物質に転換すること(代謝)によって生体成分の合成や生命活動に必要なエネルギーの産生を行っている。生化学では、これらの生命現象を分子レベルに遡って学習する。生体内での物質代謝の流れは複雑に入り組んでいるが、個体の生命を維持する方向でホルモンなどで巧みに調節されており、この機構についても学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 細胞の基本構造と機能(生体膜、細胞の基本構造と細胞小器官) 2. 生体成分の構造と機能(炭水化物、脂質、タンパク質、核酸) 3. 酵素(一般的な性質) 4. ビタミンと補酵素、補酵素の働き 5. 酵素作用の調節(ホルモンの作用、細胞内情報伝達、フィードバック調節) 6. 糖質の代謝(1) 解糖とATP産生 7. 糖質の代謝(2) アセチルCoAの生成とクエン酸回路、電子伝達系とATP産生 8. 糖質の代謝(3) ペントースリン酸回路、グリコーゲン代謝 9. 脂質の代謝(1) 脂肪の合成・貯蔵・動員、脂肪酸代謝、ケトン体の生成と利用 10. 脂質の代謝(2) コレステロール代謝、リポタンパク質、エイコサノイド 11. アミノ酸の代謝(1) 脱アミノ反応、尿素回路 12. アミノ酸の代謝(2) 炭素骨格の代謝、糖新生、生理活性物質の合成 13. 三大栄養素－血糖調節を軸にした代謝の統合と調節 14. スクレオチドの代謝、ボルフィリンと胆汁色素の代謝 15. 遺伝情報とその発現		
<b>【到達目標】</b> ①生体内の栄養素の代謝を動的、かつ総合的に理解する。②各器官の代謝特異性を知り、個体の正常な機能維持との関連を理解する。③代謝と代謝調節の異常が、種々の疾患や病態と関係することを理解する。			<b>【テキスト】</b> N ブックス 三訂 生化学 木元・後藤(編) 建帛社(2016)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 教科書の関連箇所を読んでおくこと。			<b>【参考図書】</b> 特になし		
<b>【留意事項】</b> 卒業必修科目 受講票を活用して復習すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験70%、受講票・課題30% 毎回、授業終了時に受講票による確認を行う。また、必要に応じて課題を課すこともある。これらについては評価後、返却し解説を行う。15回の授業終了後、期末試験を行う。期末試験の不合格者については再試験前に学習課題を課す。					

授業科目名 <b>生化学実験</b>			担当者 <b>小野 和夫</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 生体を構成する成分(糖質、タンパク質、脂質、核酸)や酵素について実験を通して理解を深める。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス：正確な実験をするために(基本操作と測定原理) 2. 比色定量法 3. 糖質：鶏肝からのグリコーゲンの分離 4. グリコーゲンの酸加水分解 5. グリコーゲンの $\alpha$ アミラーゼによる加水分解 6. 脂質：鶏肝臓からの脂質の分離 7. 鶏肝臓脂質の定性試験 8. 鶏肝臓脂質のTLC分析 9. アミノ酸の定性試験 10. タンパク質の定性試験 11. タンパク質の分子量測定－SDS電気泳動 12. 核酸：鶏肝からのDNAの分離 13. DNAの性質(紫外外部吸収スペクトル、DNAの定量) 14. 酵素活性の調節:TAT活性に及ぼすグルコシルコイドの影響 15. 課題学習についての発表と解説		
<b>【到達目標】</b> ①生体成分の性質や機能について、実験を通して理解する。②生体成分の分離や定量法などの基本的な原理を理解する。③基礎的な実験技術を習得する。④実験の結果を論理的に解析し、適切な様式で表現する方法を身につける。			<b>【テキスト】</b> 1. 配布された実験書 2. 生化学で用いた教科書(コンパクト生化学 大久保・賀佐編、南江堂)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 事前に実験書を読み、実験の目的・内容をよく理解しておくこと。			<b>【参考図書】</b> 生化学データブック(日本生化学会編)		
<b>【留意事項】</b> 特になし					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> レポート70%、課題20%、小テスト10% レポートは、点検後、不備な箇所があれば指摘したうえで再提出をもとめる。課題と小テストについては、評価後、解説を行う。					



授業科目名 <b>食品学総論</b>			担当者 <b>廣田 幸子</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：－		
<b>【授業概要】</b> 食品学総論では、ヒトと食べ物の関係を理解するために、①食品中の栄養にかかわる成分、②嗜好性(おいしさ)にかかわる成分、③食品成分間の相互作用を学びます。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 食文化、食料と環境問題について学ぶ 2. 食品の3つの機能と食品中の水分の状態を理解する。 3. たんぱく質1、アミノ酸の種類と構造、性質について学ぶ。 4. たんぱく質2、たんぱく質の種類と構造、変性について学ぶ。 5. 炭水化物1、糖類の種類と性質について学ぶ。 6. 炭水化物2、多糖類の種類と性質、でんぷんの糊化と老化について学ぶ。 7. 食品成分の相互作用の褐変について学ぶ。 8. 脂質1、脂肪酸の種類と性質について学ぶ。 9. 脂質2、油脂の特性と脂質の変化について学ぶ。 10. 脂溶性ビタミンの種類と性質について学ぶ。 11. 水溶性ビタミンの種類と性質について学ぶ 12. 無機質の種類と性質について学ぶ。 13. 食品中の色素成分の種類と構造、性質について学ぶ。 14. 食品中の呈味成分、匂い成分の種類と性質について学ぶ。 15. 食品の物性、テクスチャーについて学ぶ。		
<b>【到達目標】</b> 1)ヒトと食べ物の関わりを自然環境や食料環境、食文化より理解する。 2)食品の成分である化学的性質を理解する。 3)食品の味、色、香り、物性が食品においしさと関連することを理解することを目標とします。			<b>【テキスト】</b> ステップアップ栄養・健康科学シリーズ「食品学Ⅰ」食品成分とその機能を正しく理解するために 佐藤薫・中島肇 編、化学同人		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎回の授業内容を確認し、その内容に相当する部分の教科書を必ず読んで下さい。			<b>【参考図書】</b> 日本食品標準成分表(七訂)		
<b>【留意事項】</b> 教科書を持参して下さい。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 理解度確認小テストと課題提出 20% 期末テスト 80%  試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行います。					

授業科目名 <b>食品学各論</b>			担当者 <b>廣田 幸子</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：－		
<b>【授業概要】</b> 食品学各論では、日常よく用いられる各食品の特徴や含まれる成分の特性、その加工への応用について講義します。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 日本人の食生活の変遷 2. 食品成分表を使いこなすために 3. 穀類、いも類の種類と特性について学ぶ。 4. 豆類、種実類の種類と特性について学ぶ。 5. 野菜類、果実類の種類と特性について学ぶ。 6. きのこと類、海藻類の種類と特性について学ぶ。 7. 植物性食品の特性について学ぶ。 8. 魚介類の種類と特性について学ぶ。 9. 肉類の種類と特性について学ぶ。 10. 卵類の種類と特性について学ぶ。 11. 乳類の種類と特性について学ぶ。 12. 油脂類、甘味料の種類と特性について学ぶ。 13. 調味料と香辛料の種類と特性について学ぶ。 14. し好飲料類の種類と特性について学ぶ。 15. 保健機能食品の概要と機能性成分について学ぶ。		
<b>【到達目標】</b> 1)食品成分表を理解する。 2)食品の種類とその加工品を理解する。 3)食品表示法を理解する。			<b>【テキスト】</b> ステップアップ栄養・健康科学シリーズ「食品学Ⅱ」食品成分とその機能を正しく理解するために 佐藤薫・中島肇 編、化学同人		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎回の授業内容を確認し、その内容に相当する部分の教科書を必ず読んで下さい。			<b>【参考図書】</b> ステップアップ栄養・健康科学シリーズ「食品学Ⅰ」(化学同人) 日本食品標準成分表(七訂)		
<b>【留意事項】</b> 教科書を持参して下さい。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 理解度確認小テストと課題提出 20% 期末テスト 80%  試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行います。					

授業科目名 <b>食品学実験</b>			担当者 <b>廣田 幸子</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 食品学実験では、実験機器の正しい取扱い方や試薬の秤量法、実験において使用する計算方法や単位に関する知識を習得します。その上で、食品分析の基本的な技法の習得を学びます。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション(実験時の注意事項・実験器具について等) 2. 溶液濃度の表し方-1 3. 溶液濃度の表し方-2 4. 酸とアルカリ 5. 中和 6. 糖の呈色と還元反応 7. 食品におけるたんぱく質の特性 8. 食品における脂質の特性 9. 食品成分の分離・特性 10. 食品成分の分離・検出 11. 植物色素の化学的性質 12. 食品の食塩定量 13. 食品の褐変 14. 食品の鮮度鑑別 15. 食品学実験のまとめ		
<b>【到達目標】</b> 1) 実験を安全に行うための実験操作と器具の扱いを理解する。 2) 食品中の成分について、定性実験と定量実験の結果から性質や特性を理解する。 3) 日本食品標準成分表の分析方法を理解する。			<b>【テキスト】</b> 毎回プリントを配布します。		
<b>【留意事項】</b> 白衣を持参し、スニーカーなどの靴で受講して下さい。レポート課題は、食品学の教科書を参考に作成して下さい。			<b>【参考図書】</b> ステップアップ栄養・健康科学シリーズ「食品学Ⅰ」(化学同人) 日本食品標準成分表(七訂)		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 実験レポート提出 80% 授業態度 20%					
レポートについては、必要とされる記載事項などについて講評を掲示等により行います。					

授業科目名 <b>食品衛生学</b>			担当者 <b>田中 晃一</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 食品衛生学は、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、健康な生活を確保することを目的とした学問である。食に関する専門家である栄養士として、社会で活躍するための基礎的な衛生知識を習得する。すなわち、食品衛生の概論、食品の安全に関する関連法令、食中毒等の健康危害の種類と特徴、食品添加物の有効性と安全性および食品の表示等について学ぶ。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 食品衛生法と関係法規 2. 食品と微生物-1(微生物の種類) 3. 食品と微生物-2(微生物の増殖条件・食環境と微生物) 4. 食品の変質とその防止 5. 食中毒-1(食中毒の発生状況・マイコトキシン中毒) 6. 食中毒-2(細菌性食中毒) 7. 食中毒-3(ウイルス性食中毒・自然毒食中毒) 8. 第1回～第7回のまとめと復習問題 9. 寄生虫および衛生動物 10. 有害物質による食品汚染-1(有害金属・動物用医薬品や飼料添加物) 11. 有害物質による食品汚染-2(農薬・その他の有害物質) 12. 食品添加物 13. 食品の器具・容器包装 14. 食品衛生対策 15. 第9回～第14回のまとめと復習問題		
<b>【到達目標】</b> ①食品を介して発生する健康危害要因を理解する。 ②食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法についての知識を深める。 ③食品衛生に関連する法規の概要を知る。			<b>【テキスト】</b> エキスパート管理栄養士養成シリーズ 食品衛生学[第3版] 白石淳・小林秀光 編、化学同人		
<b>【留意事項】</b> 疑問点や理解できなかった部分は、講義後に質問するなどして速やかに解決しておくこと。			<b>【参考図書】</b> 絵でわかる 食中毒の知識 伊藤武・西島基弘 著 講談社		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 毎回の講義開始時に前回の講義内容についての復習テストをおこなうとともに、中間試験および期末試験をおこなう。 成績評価法: 復習テスト 20%、中間試験 40%、期末試験 40% 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示板等により行う。					

授業科目名 <b>食品衛生学実験</b>			担当者 <b>福田 伸治</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 食品衛生学の講義で得た内容をより実践的にするため、微生物や食品添加物等に関する検査および実務的な食品衛生検査の手技を実験により習得する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 実験時の注意事項、実験ノートの書き方 2. 魚類からの寄生虫(アニサキス)の検出 3. 食品からのアレルギー物質(ヒスタミン)の検出 4. 落下細菌、落下真菌の検出 5. 手指の細菌検査 6. 細菌のグラム染色と形態観察 7. 体表からの黄色ブドウ球菌の検出 8. 惣菜からの細菌の検出 9. 作業台(調理台)の細菌検査 10. 食品添加物の検査(発色剤) 11. 食品添加物の検査(漂白剤) 12. 食品添加物の検査(着色料) 13. 食品添加物の検査(保存料) 14. 食器の残留物質検査、残留中性洗剤の検査 15. 全体のまとめ、実験ノートの整理		
<b>【到達目標】</b> ・衛生微生物検査の基礎的な技術を説明することができる。 ・食品添加物などの基礎的な検査技術を説明することができる。 ・実験データを整理し、レポートにまとめることができる。			<b>【テキスト】</b> 配布プリント		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 配布プリントによる予習をした上で実験に臨むこと。実験後は実験ノートを整理すること。			<b>【参考図書】</b> なし		
<b>【留意事項】</b> 細菌や化学物質など危険なものも取り扱うので、十分に説明を聞き真剣に実験に臨むこと。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業への取り組みの姿勢・態度 30% 実験ノート 40% 確認テスト 30%					

授業科目名 <b>栄養学総論</b>			担当者 <b>國本 あゆみ</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 栄養学総論は、これから栄養士を目指して専門科目を学習していく上で大切な基礎となる科目である。この授業では、まず栄養素の種類とその働きについて学習する。次いで、各栄養素の消化と吸収、体内動態などについて学ぶ。また、食物のエネルギーを生命活動を維持するために必要なエネルギーに変換し、利用するエネルギー代謝についても学ぶ。いずれも栄養士の常識として身に付けておくべき重要な事項である。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 栄養の意義・栄養学の歴史 2. 栄養素とその働き(1)糖質 3. 栄養素とその働き(2)脂質 4. 栄養素とその働き(3)タンパク質 5. 栄養素とその働き(4)ビタミン 6. 栄養素とその働き(5)ミネラル 7. 水・電解質とその働き 8. 食物繊維とその働き 9. 栄養素の消化と吸収の機構 10. 吸収された栄養素の体内での利用－糖質 11. 吸収された栄養素の体内での利用－脂質 12. 吸収された栄養素の体内での利用－タンパク質 13. エネルギー代謝 14. 食事摂取基準 15. 栄養と健康(グループワーク)		
<b>【到達目標】</b> ①栄養素とその働きを理解する。②栄養素の消化と吸収について理解する。③エネルギー代謝について理解する。④食事摂取基準を理解する。			<b>【テキスト】</b> 三訂 栄養学総論 林淳三 編著 建帛社		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 授業範囲の関連箇所について教科書を読んで予習しておくこと。受講票を用いて復習を行うこと。			<b>【参考図書】</b> 基礎栄養学 第3版 田地 陽一(編) 羊土社		
<b>【留意事項】</b> 卒業必修科目					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験70%、受講票・小テスト30% 毎回の授業終了時に受講票による確認を行う。また、習熟度の確認のため小テストを行うこともある。これらについては評価後、返却し解説を行う。15回の授業終了後、期末試験を行う。期末試験の不合格者については再試験前に学習課題を課す。					

授業科目名 <b>栄養学各論</b>			担当者 <b>國本 あゆみ</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 健康な人のライフステージ毎の人体の形態や機能の特性を理解するとともに、健康的に生活を送るための栄養の役割を考える。栄養が胎児期から高齢期までの人の一生にいかに関係するかを知るにより、栄養士の使命について洞察を深めていく。また、自分自身の食生活を振り返り改善していくことにも導いていく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 栄養ケア・マネジメント 2. 食事摂取基準 3. 成長、発達、加齢に伴う変化 4. 妊娠期の栄養 5. 授乳期の栄養 6. 新生児期・乳児期の生理的特徴 7. 新生児期・乳児期の栄養 8. 幼児期の栄養 9. 学童期・思春期の栄養 10. 成人期の栄養 11. 高齢期の生理的特徴 12. 高齢期の栄養 13. 運動時の生理的特徴 14. 運動と栄養 15. 環境(ストレス、特殊環境)と栄養		
<b>【到達目標】</b> それぞれのライフステージにおいて、栄養学的な問題点をとりあげ、どのように対処していったらよいか考えられるようになる。			<b>【テキスト】</b> 栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 栢下淳、上西一弘編著 羊土社		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> ①授業内容の範囲を読んで予習しておくこと。 ②毎回小テストを行うので、必ず授業内容の復習をしておくこと。			<b>【参考図書】</b> ステップアップ栄養健康科学シリーズ 応用栄養学 北島幸枝編 化学同人 日本人の食事摂取基準(2015年版)の実践・運用		
<b>【留意事項】</b> ①解剖組織学、栄養生理学、栄養学総論で学んだ内容を復習しておいてほしい。②栄養学各論で学んだ知識を栄養学実習で実践できるようにする。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験70%、受講票・小テスト30% 毎回の授業終了時に受講票の提出を課す。また、前回授業内容の習熟度の確認のため、毎回小テストを行う。これらについては評価後、返却し解説を行う。15回の授業終了後、期末試験を行う。期末試験については、特に正答率の低かった問題の解説を掲示にて行う。					

授業科目名 <b>栄養学実習</b>			担当者 <b>庄野 三友紀・國本 あゆみ</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 自身の生活活動や食事を記録し振り返ることで、基本的なアセスメントの方法を習得する。 妊娠期(胎児)、乳幼児期から高齢期までのそれぞれのライフステージに応じた必要な栄養素量や食生活における留意点について学習する。その知識を基に対象者に適した食事摂取量や食事形態について考え、献立を立案する力を養う。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ライフステージ別の栄養管理、栄養アセスメント(1) 食事調査等の方法 2. 栄養アセスメント(2) 身体計測、生活時間調査の結果評価 3. 栄養アセスメント(3) 食事調査の栄養価計算および結果評価 4. 栄養アセスメント(4) 問題点の抽出と改善策立案 5. 離乳期の献立実習とその評価 6. 幼児期の献立実習とその評価 7. 幼児期の献立作成 8. 妊娠期の献立実習とその評価 9. 妊娠期の献立作成(鉄・カルシウム強化) 10. 高齢期の献立実習とその評価 11. 栄養アセスメントに基づいた献立作成 12. 栄養アセスメントに基づいた献立実習とその評価 13. 栄養アセスメントに基づいた献立の見直し、改善献立作成 14. 栄養アセスメントに基づいた改善献立実習とその評価 15. 献立の改善点や作成上の留意点等の発表、まとめ		
<b>【到達目標】</b> ①各ライフステージに応じた必要な栄養や食生活について理解する。②健康増進につながる食生活を提案する能力を習得する。③栄養計算、献立作成能力を習得する。			<b>【テキスト】</b> 応用栄養学実習 第3版 ライフステージ別の栄養管理 東 愛子他編 講談社 五訂増補 調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版部		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 栄養学各論と連動するので、よく復習しておいてほしい。食事調査、生活時間調査、献立作成などを課題とする。			<b>【参考図書】</b> 栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 栢下淳、上西一弘編著 羊土社		
<b>【留意事項】</b> 積極的に授業に参加すること。 摂取栄養素や食事を把握できるよう、日々の食事に興味を持って生活する。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 食事調査、献立、栄養価計算などの提出物 80%、小テスト10%、授業態度10%					

授業科目名 <b>臨床栄養学Ⅰ</b>			担当者 <b>村田 幸治</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目 (栄養士必修)
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 近年、管理栄養士・栄養士を取り巻く状況はめまぐるしく変化している。活躍の場も保健・医療・福祉などの多方面に広がり、それぞれの領域で高い専門性が求められている。臨床栄養学Ⅰでは、前半11回で管理栄養士・栄養士に求められる役割や病態・栄養状態に基づいた栄養管理などについて概説し、後半4回でいくつかの病態別の臨床栄養管理について症例提示などを行いながら概説する。授業中に特定のテーマについて、学生との質疑応答を行う予定。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 臨床栄養の基礎 2. 栄養ケアマネジメントの概要 3. 栄養アセスメント① 4. 栄養アセスメント② 5. 栄養ケア計画のプロセス(栄養ケアの記録、栄養ケアのアセスメントを含む) 6. 薬と栄養・食物の相互作用 7. チーム医療における管理栄養士の役割 8. 在宅医療における管理栄養士の役割 9. 栄養教育の実施(特に、2型糖尿病について) 10. 食事療法、栄養補給の方法① 11. 食事療法、栄養補給の方法② 12. 病態別臨床栄養管理①(術前・術後の栄養管理) 13. 病態別臨床栄養管理②(代謝・内分泌疾患:肥満症・小児肥満) 14. 病態別臨床栄養管理③(糖尿病:食品交換表の使い方) 15. 病態別臨床栄養管理④(腎臓疾患:糖尿病性腎症の保存期・透析期)		
<b>【到達目標】</b> 1. 病態や栄養状態に基づいた栄養管理の理解。 2. 栄養状態の評価・栄養補給法・栄養教育・食品と医薬品の相互作用の理解。 3. 医療・介護、チーム医療での栄養管理の理解。			<b>【テキスト】</b> ・配布資料(プリント) ・本田佳子他編「栄養学イラストレイテッド 臨床栄養学基礎編(改訂第2版)」羊土社(2016)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 「解剖組織学、栄養生理学」で学習した内容を復習しておくこと。また、各回の授業テーマに関連する事項を、新聞やインターネットなどで調べてくること。			<b>【参考図書】</b> ・井上修二,上原誉志夫,岡純,田中 弥生編著「最新 臨床栄養学(第2版)」,光生館(2015) ・糖尿病の食品交換表(学習内容14)、糖尿病性腎症の食品交換表(学習内容15)		
<b>【留意事項】</b> 代返や代筆などの不正行為が発覚した場合は、出席無効や受講停止などの処分の対象となるので留意すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 毎回の授業のレポート15%、期末試験85%で評価する。授業のレポートについては、必要に応じて、授業の中で講評と解説を行う。期末試験については、特に正答率の低かった問題があれば講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>臨床栄養学Ⅱ</b>			担当者 <b>川上 祐子</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 傷病者の疾病を理解して、栄養学的にどのような問題があり、その問題を解決するための栄養学的アプローチを理解することが必要である。臨床栄養学Ⅰで学んだ栄養ケアマネジメントの流れにそって解説していく。実践の場において栄養素から食品選択、調理法まで広く解説する。また、患者の気持ちを理解しながら実践することの重要性も解説する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 代謝系疾患・栄養障害(糖尿病・脂質異常症)の栄養管理 2. 代謝系疾患・栄養障害(肥満症・高尿酸血症)の栄養管理 3. 内分泌系疾患の栄養管理 4. 消化器疾患(上部消化管)の栄養管理 5. 消化器疾患(下部消化管)の栄養管理 6. 肝・胆・膵疾患の栄養管理 7. 循環器疾患の栄養管理 8. 腎・泌尿器疾患の栄養管理 9. 神経・精神系疾患の栄養管理 10. 呼吸器系疾患の栄養管理 11. 血液・造血器疾患の栄養管理 12. 免疫・アレルギー・感染症の栄養管理 13. 周術期、がん・ターミナルケアの栄養管理 14. 高齢期(運動器障害・嚥下障害含む)の栄養管理 15. クリティカルケアー・小児疾患の栄養管理		
<b>【到達目標】</b> 各疾患の病態と栄養管理の重要性を学び、栄養ケアマネジメントの方法を理解する。さらに、患者の気持ちを理解できる能力を身につける。			<b>【テキスト】</b> 本田佳子他編「栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学疾病編」羊土社		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 事前に授業予定内容について教科書などで予習しておく。			<b>【参考図書】</b> 中村丁次他編「事例・症例に学ぶ栄養管理」南山堂		
<b>【留意事項】</b> 臨床栄養学Ⅰ、食品学、栄養学などの学習内容を復習し授業に臨む。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験70%、ミニテスト30%					

授業科目名 <b>臨床栄養学実習</b>			担当者 <b>富岡 加代子</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－
<p><b>【授業概要】</b></p> <p>各疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養管理を行うために、具体的な栄養食事療法を学び、食事計画を立て、調理をする実習です。また、各種多様な治療食の調整を効率よく行うために医療機関で広く用いられている献立の展開方法について理解する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>各種疾病にに対する具体的な栄養食事療法を理解したうえで、一般治療食や特別治療食の献立作成や調理ができる。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b></p> <p>予習として臨床栄養学のテキストで該当するところを読んでおくこと。授業後は提示するレポートを提出すること。</p> <p><b>【留意事項】</b></p> <p>健康・衛生面に充分配慮して実習に臨むこと。調理実習室使用上の規則に従う。実習は少人数のグループで行うことが多いが、積極的に取り組んでほしい。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】</b></p> <p>レポート60%、実習・課題40% 調理実習等終了時に講評を行う。レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める。</p>			<p><b>【学習内容(各回の授業予定)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 栄養補給法 食品構成を利用した献立作成・展開</li> <li>2. 軟菜食(全かゆ食、五分かゆ食、三分かゆ食)の実習、全かゆ・おもゆ・分かゆの調理</li> <li>3. 基本食からの献立展開 常食から全かゆ食、分かゆ食への献立展開</li> <li>4. 糖尿病の食事療法① 糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方</li> <li>5. 糖尿病の食事療法② 食事計画(食品交換表の活用と献立作成)</li> <li>6. 糖尿病の食事療法③ 糖尿病食の実際と評価</li> <li>7. 経腸栄養剤の種類・特徴と試飲</li> <li>8. エネルギーコントロール食、脂質コントロール(低脂質)食① 基本食からの献立展開</li> <li>9. エネルギーコントロール食、脂質コントロール(低脂質)食② 実際と評価</li> <li>10. たんぱく質・食塩コントロール食① 献立の立て方、腎疾患治療用特殊食品の使い方</li> <li>11. たんぱく質・食塩コントロール食② 腎不全食、透析食の実際と評価</li> <li>12. 献立展開の実際 常食から各コントロール食への展開① (症例検討・作業計画)</li> <li>13. 献立展開の実際 常食から各コントロール食への展開② (作業計画)</li> <li>14. 摂食・嚥下障害について 嚥下調整食の試食・実習</li> <li>15. 献立展開の実際 常食から各コントロール食への展開③ (実際と評価)</li> </ol> <p><b>【テキスト】</b></p> <p>宗像伸子他編「ビジュアル治療食300栄養食事療法」医歯薬出版 日本糖尿病学会編・著「糖尿病食事療法のための食品交換表」文光堂</p> <p><b>【参考図書】</b></p> <p>栄養科イラストレイテッド臨床栄養学基礎編・疾病別編 黒川清監修「腎臓病食品交換表」医歯薬出版</p>		

授業科目名 <b>栄養指導論 I</b>			担当者 <b>岩崎 由香里</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
			配当年次	食物栄養：1年～	幼児教育：－
<p><b>【授業概要】</b></p> <p>栄養指導では、人々が健康を維持増進するための食行動を提案し、健康的な食行動に修正、変容できるように支援することが求められる。栄養指導の変遷および栄養指導の場について社会構造とあわせて概説し、栄養指導の目的や意義を理解できるようにする。また栄養指導に必要な基礎知識や栄養指導マネジメントの目的、意義、プロセスについて解説する。さらに栄養指導に必要とされる行動科学や栄養カウンセリングについても解説する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>人々の食行動を修正、変容できるように支援する栄養指導を行うために必要な基礎的理論と方法を修得する。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b></p> <p>授業範囲を予習し、疑問に思う点をノートにまとめておくこと。</p> <p><b>【留意事項】</b></p> <p>授業概要は、授業の展開によっては、変更の可能性はある。変更の場合には随時、知らせる。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】</b></p> <p>・筆記試験70% ・課題および授業への積極性30% ・授業開始時にフィードバックを行う ・試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。</p>			<p><b>【学習内容(各回の授業予定)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス:授業概要、授業の進め方、評価について説明、栄養指導の概念</li> <li>2. 健康教育論を基礎とする栄養指導</li> <li>3. 健康教育の指導方法:ブレインストーミング、ロールプレイング</li> <li>4. 行動科学理論の栄養指導への適用</li> <li>5. 食行動の形成と栄養指導</li> <li>6. 栄養カウンセリングの基本</li> <li>7. 栄養カウンセリングの応用</li> <li>8. 食環境づくりと栄養教育</li> <li>9. 栄養指導マネジメント:健康・食物摂取状況アセスメント</li> <li>10. 栄養指導プログラムの作成(1)-目標設定の意義と方法-</li> <li>11. 栄養指導プログラムの作成(2)-カリキュラムの作成-</li> <li>12. 栄養指導に必要なスキル:コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル</li> <li>13. 栄養指導の評価:評価の目的、種類</li> <li>14. 栄養指導の評価:信頼性と妥当性</li> <li>15. 栄養指導の基礎知識のまとめ</li> </ol> <p><b>【テキスト】</b></p> <p>春木 敏編「エッセンシャル栄養教育論」医歯薬出版</p> <p><b>【参考図書】</b></p> <p>菱田 明・佐々木敏監修「日本人の食事摂取基準2015版」第一出版、食品成分表 管理栄養士・栄養士必携-データ・資料集-(2019年度版) 第一出版、栄養学各論の教科書</p>		

授業科目名 <b>栄養指導論Ⅱ</b>			担当者 <b>岩崎 由香里</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 栄養指導は、一人ひとりのQOLを高めるため、栄養学及び関連の科学を基礎にしながら、各人の意識・行動変容を促すことを目的に行われる。対象者の特性(ライフステージ)や栄養健康管理上の問題点や課題について把握し、問題点を改善するための栄養指導について解説する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス:授業概要、授業の進め方、評価について説明、栄養指導に活用する基礎知識 2. 食事摂取基準の栄養指導への活用 3. 健康・栄養指導教材として活用する指針等 4. ライフステージ別栄養指導(1)-妊娠・授乳期- 5. ライフステージ別栄養指導(2)-乳幼児期- 6. ライフステージ別栄養指導(3)-学童期- 7. ライフステージ別栄養指導(4)-思春期(ボディイメージとメディアリテラシー)- 8. ライフステージ別栄養指導(5)-成人期- 9. ライフステージ別栄養指導(6)-高齢期- 10. 対象別栄養指導(1)-傷病期- 11. 対象別栄養指導(2)-障害者- 12. 対象別栄養指導(3)-アスリート- 13. ヘルスカウンセリングの栄養指導への適用 14. コーチングの栄養指導への適用 15. 対象者の特性に適した栄養指導のまとめ		
<b>【到達目標】</b> 栄養指導論Ⅰや各教科の学修から獲得した知識を基に、対象者の特性(ライフステージ)に適した栄養指導プログラムの作成、実施、評価を総合的にマネジメントする技術を修得する。			<b>【テキスト】</b> 春木 敏編「栄養教育論」医歯薬出版(栄養指導論Ⅰで使用したテキスト)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 授業範囲を予習し、疑問に思う点をノートにまとめてくること。			<b>【参考図書】</b> 菱田 明・佐々木敏監修「日本人の食事摂取基準2015版」第一出版、食品成分表管理栄養士・栄養士必携-データ・資料集-(2019年度版) 第一出版、栄養学各論の教科書		
<b>【留意事項】</b> 授業概要は、授業の展開によっては、変更の可能性がある。変更の場合には随時、知らせる。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・筆記試験70% ・課題および授業への積極性30% ・授業開始時にフィードバックを行う ・試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>栄養指導実習Ⅰ</b>			担当者 <b>岩崎 由香里</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 行動科学理論や行動変容技法、カウンセリング技法を活用し、模擬授業、ロールプレイング等のアクティブラーニングを行う。食環境づくりにおける栄養指導に関する課題を取り上げ、考察する。また、科学的に正しい情報を収集し、実態把握すべき問題を抽出できるようにする。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス:授業概要、授業の進め方、評価について説明、プレゼンテーション原稿作成 2. プレゼンテーション:自己表現技術(3分間スピーチ) 3. 栄養指導方法の実践:ブレインストーミング 4. 栄養指導方法の実践:モデリング学習 5. 栄養指導方法の実践:カウンセリング技法 6. 個人の実態把握:食事調査①食事調査の方法を理解する 7. 個人の実態把握:食事調査②食事調査の精度を高める方法を理解する 8. エネルギーおよび栄養素摂取量の把握:栄養価計算とエネルギー消費量の推測 9. エネルギーおよび栄養素の適正な摂取量の把握:食事摂取基準との比較 10. 個人の栄養診断:栄養状態の総合的な評価、判定 11. 食環境づくり(1)-フードファディズム、食を取り巻く課題抽出- 12. 食環境づくり(2)-抽出課題のプレゼンテーション- 13. 食環境づくり(3)-外食等の改善方法の検討- 14. 食環境づくり(4)-外食等の改善計画のプレゼンテーション- 15. 栄養指導方法のまとめ		
<b>【到達目標】</b> 対象者が健康を保持・増進するための食行動の栄養指導方法を習得する。			<b>【テキスト】</b> 栄養指導論Ⅰで使用したテキスト 適宜、プリントを配布する		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 次回の授業前までに、指示された課題について調べておくこと。 指導に活用できる資料を調べておくこと。			<b>【参考図書】</b> 菱田 明・佐々木敏監修「日本人の食事摂取基準2015版」第一出版、食品成分表管理栄養士・栄養士必携-データ・資料集-(2019年度版) 第一出版、栄養学各論の教科書		
<b>【留意事項】</b> 授業概要は、授業の展開によっては、変更の可能性がある。変更の場合には随時、知らせる。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・ファイル、レポート、課題提出70% ・課題および授業への積極性30% ・発表等終了時に講評を行う。 ・提出課題の採点結果については、講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>栄養指導実習Ⅱ</b>			担当者 <b>岩崎 由香里</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：2年 幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 対象者に適した問題抽出、栄養指導プログラムの立案、実施、評価、フィードバックと展開する栄養指導の一連の過程を実習する。グループワークや模擬授業等のアクティブラーニングを用いて、コミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルについて学べるようにする。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス:授業概要、授業の進め方、評価について説明、栄養指導マネジメント 2. 集団の実態把握:食事調査 食事調査の方法を理解する 3. 集団の栄養診断:栄養状態の総合的な評価、判定 4. 学童期の栄養指導プランニングの実際 5. 学童期の栄養指導の実践(1)-問題行動の抽出- 6. 学童期の栄養指導の実践(2)-学習・行動目標の設定- 7. 学童期の栄養指導の実践(3)-学習指導案の作成- 8. 学童期の栄養指導の実践(4)-教材、教育法の作成- 9. 学童期の栄養指導の実践(5)-模擬授業の実施、評価- 10. 乳幼児期、成人期、高齢者、アスリートの栄養指導の実践(1)-問題行動の抽出- 11. 乳幼児期、成人期、高齢者、アスリートの栄養指導の実践(2)-学習・行動目標の設定- 12. 乳幼児期、成人期、高齢者、アスリートの栄養指導の実践(3)-学習指導案の作成- 13. 乳幼児期、成人期、高齢者、アスリートの栄養指導の実践(4)-教材、教育法の作成- 14. 乳幼児期、成人期、高齢者、アスリートの栄養指導の実践(5)-プレゼンテーション- 15. 栄養指導の評価とまとめ		
<b>【到達目標】</b> 栄養指導論実習Ⅰ及び各教科の学修から獲得した知識や技術を活用し、対象者の特性(ライフステージ)に応じ、栄養指導マネジメントができる能力を修得する。			<b>【テキスト】</b> 栄養指導論Ⅰで使用したテキスト 適宜、プリントを配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 次回の授業前までに、指示された課題について調べておくこと。 指導教材の参考となる資料を調べておくこと。			<b>【参考図書】</b> 菱田 明・佐々木敏監修「日本人の食事摂取基準2015版」第一出版、食品成分表 管理栄養士・栄養士必携-データ・資料集-(2019年度版) 第一出版、栄養学各論の教科書		
<b>【留意事項】</b> 授業概要は、授業の展開によっては、変更の可能性がある。変更の場合には随時、知らせる。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・ファイル、レポート、課題提出70% ・課題および授業への積極性30% ・発表等終了時に講評を行う。 ・提出課題の採点結果については、講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>公衆栄養学</b>			担当者 <b>逸見 眞理子・岩崎由香里</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：2年 幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 地域・職域といった集団を構成し生活を営んでいる人間の健康・栄養状態に環境の変化がどのような影響を与えているかを明らかにすると同時に、世界・国・地域等の集団レベルで行われている種々の公衆栄養活動に理論的根拠を与える。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 公衆栄養学の概念 2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題(1)-社会環境と健康・栄養問題- 3. わが国の健康・栄養問題の現状と課題(2)-食事・食生活・食環境の変化- 4. わが国の栄養政策(1)-公衆栄養活動の組織・法規・栄養士制度- 5. わが国の栄養政策(2)-国民健康・栄養調査、実施に関連する指針・ツール- 6. わが国の栄養政策(3)-健康増進計画- 7. わが国の栄養政策(4)-食育推進計画- 8. 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題 9. 諸外国の健康・栄養政策、栄養疫学(1)-栄養疫学の概要- 10. 栄養疫学(2)-食事摂取量の測定方法・評価方法- 11. 公衆栄養マネジメント、アセスメント 12. 公衆栄養プログラム計画と目標設定 13. 公衆栄養プログラムの実施と評価 14. 公衆栄養プログラムの展開(1)-地域特性に対応したプログラム- 15. 公衆栄養プログラムの展開(2)-地域集団の特性別プログラム-		
<b>【到達目標】</b> 地域や職域等の健康・栄養問題を総合的に評価・判定する能力を習得し、公衆栄養活動を企画・実践できる知識・スキルを得る。			<b>【テキスト】</b> カレント 公衆栄養学[第3版] 建帛社		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 授業日までに授業予定の項目に目を通して概要や疑問点を把握したうえで出席する。			<b>【参考図書】</b> 公衆衛生の動向 厚生統計協会、公衆衛生がみえる 2016-2017 医療情報科学研究所 日本人の食事摂取基準(2015年版) 第一出版、栄養調理六法 新日本法規出版		
<b>【留意事項】</b> 公衆衛生学を十分理解しておくこと。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験 60%、小テスト30%、課題 10%					



授業科目名 <b>給食計画論</b>			担当者 <b>岩崎 由香里・松井 佳津子</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：－		
<b>【授業概要】</b> 特定給食施設における栄養士業務は、給食の運営やその関連の資源を総合的に判断し、栄養面、衛生面、経済面を有効に活用して給食の運営実践能力を必要とされる。そのためには給食システムの理解、栄養・食事管理、衛生管理を中心に実践できる知識と技能を養う。 また、栄養士実力認定試験に対応した内容を盛り込みながら給食管理の基礎基本にアプローチしていく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 給食管理へのアプローチ:オリエンテーション(給食の概念 給食の目的と管理栄養士・栄養士の役割) 2. 給食の概念:給食のシステム 3. 特定給食施設の種類と関連法規:給食の特定給食の違い 4. 栄養管理計画・献立作成計画:(1)献立作成の基本的な考え方を学ぶ 5. 栄養管理計画・献立作成計画:(2)献立に基づく作業工程表の作成 6. 栄養管理計画・献立作成計画:(3)献立に基づく発注表の作成と食材管理 7. 品質管理:体調調理特有の変動要因と標準化の手法を学ぶ 8. 衛生・安全管理:大量調理施設衛生管理マニュアル 施設設備、調理機器の用途と合理的な運用を学ぶ 9. 衛生・安全管理:危機管理対策と食中毒発生時の対応 10. 調理作業管理:食材の購買管理、検収方法 11. 経営管理:会計管理、給食とマーケティングについて学ぶ 12. 献立計画:給与栄養目標量の算出、学生を対象にした100人分の献立作成 13. 献立作業計画:発注表の作成、作業工程表、作業動線図の作成 14. 献立計画:栄養教育媒体の作成、アンケート調査の作成 15. 人事・労務管理と事務管理:人事管理、教育・訓練、諸帳簿の記入		
<b>【到達目標】</b> ・給食管理の項目を理解し、給食提供における基本的内容を修得する。 ・給食施設における栄養士の業務内容を理解し、理論と実際を結びつけることができる。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 給食管理に関連科目(調理学、食品学、食品衛生学、栄養指導論)での学習内容を確実に習得しておく。					
<b>【留意事項】</b> 私語、講義に関係ない作業をすること、無断退席などは厳に慎むこと。10回以上出席すること。この条件を満たさない場合は、評価の対象外とする。			<b>【テキスト】</b> イラスト給食経営管理論<第2版> 東京教学社 日本人の食事摂取基準(2015年版)実践・運用 第一出版 必要に応じて、プリントや資料を配布する。		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 評価方法:定期試験(80%)、提出課題(10%)、小テスト(10%)を総合的に評価する。 フィードバック:授業終了時に毎回小テストを行い、授業の要点を確認する。次回の授業で解説を行う。			<b>【参考図書】</b> イラストでみるはじめての大量調理 学建書院 Plan-Do-Checkにそった給食運営・経営管理実習のてびき 医歯薬出版株式会社		

授業科目名 <b>給食実務論</b>			担当者 <b>岩崎 由香里・松井 佳津子</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年 幼児教育：－		
<b>【授業概要】</b> 特定給食施設における施設別の給食管理の実務について修得する。特定の人々に継続的に食事を提供する給食サービスとは、喫食者が属する組織集団の諸条件の基で運営管理を行うことが重要となる。 本授業では、給食を実施する組織集団の特性の理解を深め、その特性に合った給食実務について学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 給食管理へのアプローチ:オリエンテーション(授業概要、学習の意義、目指す栄養士像) 2. 給食運営の外部委託:外部委託の目的、外部契約の種類と概要、施設の種類別の委託状況と関連法規 3. 事業所における給食:事業所給食の目的、特徴、栄養・食事管理、栄養教育 外食産業における栄養士の役割 4. 事業所における給食:事業所給食の実際 5. 高齢者・介護福祉施設における給食:給食の意義と対象者の特性、献立・食事形態の特徴 6. 高齢者・介護福祉施設における給食:高齢者福祉施設の概要と栄養士の配置規程、介護報酬における加算の種類と算定要件 7. 高齢者・介護福祉施設における給食:栄養・食事管理、栄養教育 8. 学校における給食:給食の意義と対象者特性 関連法規 衛生管理 9. 学校における給食:栄養・食事管理、献立・食事形態の特徴 10. 学校における給食:給食と栄養教育、食に関する指導 11. 保育所における給食:給食の意義と対象者特性 保育所における食事の提供ガイドライン 12. 保育所における給食:栄養・食事管理 給与栄養目標量の算出 対象者に合わせた調理内容 13. 保育所における給食:栄養・食事管理 献立作成、栄養教育 14. 医療施設(病院)における給食:給食の意義と対象者特性 関連法規 献立・食事形態の特徴 15. 医療施設(病院)における給食:入院時食事療法制度 給食と栄養教育		
<b>【到達目標】</b> ・特定給食施設別の目的に応じた給食の提供の理論を理解する。 ・栄養士の役割や仕事内容の実際を理解し、専門職としての自覚と使命感をもつ。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 給食計画論を履修し、特定給食施設の種類と関連法規を復習しておく。					
<b>【留意事項】</b> 私語、講義に関係ない作業をすること、無断退席などは厳に慎むこと。10回以上出席すること。この条件を満たさない場合は、評価の対象外とする。			<b>【テキスト】</b> イラスト給食経営管理論<第2版> 東京教学社 日本人の食事摂取基準(2015年版)実践・運用 第一出版 必要に応じて、プリントや資料を配布する。		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 評価方法:定期試験(80%)、提出課題(10%)、小テスト(10%)を総合的に評価する。 フィードバック:授業終了時に毎回小テストを行い、授業の要点を確認する。次回の授業で解説を行う。			<b>【参考図書】</b> 給食経営管理論 医歯薬出版株式会社		

授業科目名 <b>給食管理実習・学内</b>			担当者 <b>松井 佳津子</b>		
単位数	2 単位	開講期	通年(前期)	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 本授業において、栄養士と調理担当者業務を体験し、給食の役割を理解するとともに栄養士の実務を体得する。そのために、事業所給食を想定し、食物栄養学科1年、教職員に食事提供を行い、栄養・食事管理、衛生管理、生産管理等の給食運営に関する専門知識と技術を修得する。学生自ら食事の計画や大量調理を含めた給食提供サービスの実施を展開することで、理論と技術を統合した実務を体得する。クラスを4グループに分けて、4回繰り返し集団給食に関するあらゆる役割を分担し、体験する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 給食管理実習オリエンテーション:実習概要説明、給食管理実習室の施設・設備の確認、実習全体の献立計画 2. 衛生管理の方法と実際:予定献立試作準備、食器の確認、給食室整備 3. 衛生管理の方法と実際:予定献立試作 実施献立決定 食券の作成 給食室整備 4. 衛生管理の方法と実際:作業工程表完成 役割分担確認 発注書の作成 栄養教育の資料作成 5. 事業所給食提供の実施:4班のグループが、栄養士役、調理師役に分かれて100食を提供 6. 事業所給食提供の評価・反省:提供後、各グループで後片づけ、帳票整理、アンケート集計、反省会 7. 事業所給食提供の実施:4班のグループが、栄養士役、調理師役に分かれて100食を提供 8. 事業所給食提供の評価・反省:提供後、各グループで後片づけ、帳票整理、アンケート集計、反省会 9. 事業所給食提供の実施:4班のグループが、栄養士役、調理師役に分かれて100食を提供 10. 事業所給食提供の評価・反省:提供後、各グループで後片づけ、帳票整理、アンケート集計、反省会 11. 事業所給食提供の実施:4班のグループが、栄養士役、調理師役に分かれて100食を提供 12. 事業所給食提供の評価・反省:提供後、各グループで後片づけ、帳票整理、アンケート集計、反省会 13. 給食のサービス提供のまとめ:諸帳簿類の整理、給食管理実習ノートの整理、給食室整備 14. 給食のサービス提供のまとめ:アンケート、残菜調査の検証、報告会の準備、給食室整備 15. 給食管理実習報告会:事業所給食のまとめ、評価		
<b>【到達目標】</b> ○事業所における給食提供システムを理解し、食事の提供と栄養教育が実践できる。 ○栄養士の仕事や役割を理解し、給食管理の内容を体得する。			<b>【テキスト】</b> 授業概要を自作プリントとして配布する イラストでみるはじめての大量調理 学建書院		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 大量調理施設衛生管理マニュアルを熟読して、実践が出来るようにしておくこと。			<b>【参考図書】</b> 日本人の食事摂取基準(2015年版)実践・運用 第一出版 Plan-Do-Checkにそった給食運営・経営管理実習のてびき 医歯薬出版株式会社		
<b>【留意事項】</b> 班単位で実習を行うため、グループ内で実習内容を共通理解し、各自が役割分担を自覚し協力して有意義な実習になるようにしたい。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 評価方法:課題点(60%)、授業参加度(40%)を総合的に評価する。 フィードバック:授業終了時に授業の要点として、確認・課題・予習に分けて、学習の手立てとなるようにアナウンスする。					

授業科目名 <b>給食管理実習・学内</b>			担当者 <b>松井 佳津子</b>		
単位数	2 単位	開講期	通年(後期)	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 本授業において、栄養士と調理担当者業務を体験し、給食の役割を理解するとともに栄養士の実務を体得する。そのために、幼稚園給食を実施し、幼稚園児に食事提供を行い、栄養・食事管理、衛生管理、生産管理等の給食運営に関する専門知識と技術を修得する。学生自ら食事の計画や大量調理を含めた給食提供サービスの実施を展開することで、理論と技術を統合した実務を体得する。クラスを4グループに分けて、4回繰り返し集団給食に関するあらゆる役割を分担し、体験する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 給食管理実習オリエンテーション:実習概要説明、給食管理実習室の施設・設備の確認、実習全体の献立計画 2. 衛生管理の方法と実際:予定献立試作準備、食器の確認、給食室整備 3. 衛生管理の方法と実際:予定献立試作 実施献立決定 食券の作成 給食室整備 4. 衛生管理の方法と実際:作業工程表完成 役割分担確認 発注書の作成 栄養教育の資料作成 5. 幼稚園給食提供の実施:4班のグループが、栄養士役、調理師役に分かれて100食を提供 6. 幼稚園給食提供の評価・反省:提供後、各グループで後片づけ、帳票整理、アンケート集計、反省会 7. 幼稚園給食提供の実施:4班のグループが、栄養士役、調理師役に分かれて100食を提供 8. 幼稚園給食提供の評価・反省:提供後、各グループで後片づけ、帳票整理、アンケート集計、反省会 9. 幼稚園給食提供の実施:4班のグループが、栄養士役、調理師役に分かれて100食を提供 10. 幼稚園給食提供の評価・反省:提供後、各グループで後片づけ、帳票整理、アンケート集計、反省会 11. 幼稚園給食提供の実施:4班のグループが、栄養士役、調理師役に分かれて100食を提供 12. 幼稚園給食提供の評価・反省:提供後、各グループで後片づけ、帳票整理、アンケート集計、反省会 13. 給食のサービス提供のまとめ:諸帳簿類の整理、給食管理実習ノートの整理、給食室整備 14. 給食のサービス提供のまとめ:アンケート、残菜調査の検証、報告会の準備、給食室整備 15. 給食管理実習報告会:事業所給食のまとめ、評価		
<b>【到達目標】</b> ○児童福祉施設の給食提供システムを理解し、食事の提供と栄養教育が実践できる。 ○栄養士の仕事や役割を理解し、給食管理の内容を体得する。			<b>【テキスト】</b> 授業概要を自作プリントとして配布する イラストでみるはじめての大量調理 学建書院		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 給食実務論で習得した内容を本実習で応用できるように復習・確認しておくこと。			<b>【参考図書】</b> 日本人の食事摂取基準(2015年版)実践・運用 第一出版 Plan-Do-Checkにそった給食運営・経営管理実習のてびき 医歯薬出版株式会社		
<b>【留意事項】</b> 班単位で実習を行うため、グループ内で実習内容を共通理解し、各自が役割分担を自覚し協力して有意義な実習になるようにしたい。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 評価方法:課題点(60%)、授業参加度(40%)を総合的に評価する。 フィードバック:授業終了時に授業の要点として、確認・課題・予習に分けて、学習の手立てとなるようにアナウンスする。					

授業科目名 <b>給食管理実習・学外</b>			担当者 <b>松井 佳津子・岩崎 由香里</b>		
単位数	2 単位	開講期	通年	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：2年 幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 給食業務を行うために必要な給食提供サービスに関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得することを目的とする。実習施設は、病院、高齢者施設、事業所、学校、保育所などの給食施設とし、主にその内容は、給食管理の実際を体得するとともに、給食対象者にあわせた栄養教育の方法を修得する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. } 2. } 3. } 4. } 5. } ◆校外実習オリエンテーション:前期・後期毎に事前事後指導として設定する。 6. } 7. } ◆実習期間:7月(45時間)、11月(45時間) 8. } 9. } ◆実習施設:学外の特定給食施設において給食の運営として実習を行う。 10. } (学校、保育所、高齢者福祉施設、病院、事業所) 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }		
<b>【到達目標】</b> ○給食の管理・運営の実際を体験し、給食の果たす役割を理解する。 ○栄養士の役割や業務内容を実践的に体得する。			<b>【テキスト】</b> ステップアップ 臨地・校外実習 建帛社 給食管理実習ノートに沿ってオリエンテーションを行い、実習中は実習ノートを使用する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 校外実習オリエンテーション及び校外実習報告会を受講すること。また、実習に向けて実習先におけるガイダンス受講を必須とする。			<b>【参考図書】</b> 別途、校外実習オリエンテーションにおいて紹介する。		
<b>【留意事項】</b> 実習先からの課題等に真剣に取り組み、事前準備を怠ることなく実習に臨むこと。体調管理に留意し、校外実習オリエンテーション欠席5回以上は実習不可とする。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 成績評価:校外実習オリエンテーションの授業参加度、実習へ取り組む姿勢、実習先からの評価、校外実習ノート(給食管理実習・学外)、校外実習報告会における報告の内容等を総合的に評価する。 フィードバック:授業概要により周知徹底を図る。					

授業科目名 <b>調理学</b>			担当者 <b>治部 祐里</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 短期間で調理の技術、コツを会得するためには、食品の調理性を知り、調理操作を科学的に解明し理解する必要がある。また、調理においては「おいしさ」の追求も重要である。食べ物のおいしさには色、味、香り、テクスチャー、盛りつけ、配膳などの外観、温度、音の他、食文化、食習慣なども関与している。 食品の調理性、調理操作を科学的に解説するのみでなく、献立論、調味論、供食論にも言及し、食生活に役立つ理論を提供する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 調理学の概要(意義、文化、料理様式と食卓構成、食器・食具) 2. 食事計画論(成分表の理解と活用、献立作成と栄養) 3. 食物のおいしさとその評価(要因、味と調味料) 4. 食物のおいしさとその評価(香りと香辛料、テクスチャーとレオロジー、おいしさの評価) 5. 非加熱調理操作と調理器具(計量、洗浄、浸漬、切断・成形) 6. 非加熱調理操作と調理器具(磨砕・粉砕、混合・攪拌、圧搾・濾過、冷却・冷凍・解凍) 7. 加熱調理操作と調理器具(エネルギー源、機器、器具、伝熱法、湿式加熱) 8. 加熱調理操作と調理器具(乾式加熱、誘電・誘導加熱、新調理システム) 9. 調理操作中の栄養成分の変化 10. 植物性食品の調理特性(米、小麦粉、雑穀、いも、豆、種実類) 11. 植物性食品の調理特性(野菜、果実、海藻、キノコ類) 12. 動物性食品の調理特性(食肉、魚介類) 13. 動物性食品の調理特性(卵、牛乳・乳製品) 14. 成分抽出素材の調理特性(デンプン、砂糖類、油脂、ゲル化材料) 15. 嗜好飲料、これからの調理、食生活の行方		
<b>【到達目標】</b> 講義内容を理解し、実際の調理に役立つ。			<b>【テキスト】</b> 「テキスト食物と栄養科学シリーズ5 調理学」 洲上倫子編著、朝倉書店 「新食品成分表FOODS」 新食品成分表編集委員会編者、東京法令出版株式会社		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 当日の講義箇所(教科書の該当部分)を事前に読んでおく。 講義の重要箇所をノートにまとめて復習し、理解を深める。			<b>【参考図書】</b> 「新版調理学」 下村道子、和田淑子 編著、光生館 「健康・調理の科学-おいしさから健康へ-」 和田淑子、大越ひろ 編著、建帛社		
<b>【留意事項】</b> 同時期に開講している調理学実習と関連させて学習すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験60%、小テスト40% 期末試験を行う。試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。試験の不合格者については、再試験の前に、類似の課題等を与える。					

授業科目名 <b>調理学実習</b>			担当者 <b>治部 祐里</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 日本料理、西洋料理、中国料理の調理の基礎を実習する。献立立案、食品材料の選択、調理操作、衛生管理、調味、料理の完成、食器の選択、盛りつけ、配膳、食事作法に至るまでの一連の実習を行う。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 2. 日本料理(1) 炊飯、だしの取り方 3. 日本料理(2) 煮物、和え物 4. 日本料理(3) 魚の調理 5. 日本料理(4) 揚げ物、菓子 6. 日本料理(5) 寿司、焼き物 7. 西洋料理(1) オードブル、スープ 8. 西洋料理(2) 卵料理、サラダ 9. 西洋料理(3) 肉料理、デザート 10. 西洋料理(4) パンの調理 11. 中国料理(1) 前菜、湯 12. 中国料理(2) 炒菜 13. 中国料理(3) 蒸菜 14. 中国料理(4) 天心 15. まとめ、献立立案について		
<b>【到達目標】</b> 風土、文化を異にする様々な国や地域の代表的な調理様式、料理文化に理解を深める。基礎的な調理技術を習得する。			<b>【テキスト】</b> なし。プリント等、資料配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 料理への関心を高め、調理技術の習得を目指し、日常生活において積極的に調理に携わること。			<b>【参考図書】</b> 「調理学実習」大羽和子、和田治子、淵上倫子、佐々木敦子、西崎純代、大倉聖子著、ナカニシヤ出版		
<b>【留意事項】</b> 食材の都合で、実習内容が変更になることがある。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 15回の授業終了後、レポートを課す。実習に取り組む姿勢・態度(50%)、レポート(50%)により総合的に評価する。レポートについては、必要とされる記載事項などについての講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>調理学実験</b>			担当者 <b>治部 祐里</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 実際の調理に役立つ基礎的実験を行う。調理のコツを科学的に理解し、食品の調理性と扱い方を習得する。調理の技術の要点を体得し、技術の向上をはかる。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 米に関する実験 2. 小麦粉に関する実験 3. 小麦粉、でんぷんに関する実験 4. 卵に関する実験 5. 肉に関する実験 6. 魚に関する実験 7. 野菜・果実に関する実験 8. いもに関する実験 9. 豆に関する実験 10. 乳・乳製品に関する実験 11. 砂糖に関する実験 12. 砂糖、飲み物に関する実験 13. 寒天、カラギーナン、ゼラチンに関する実験 14. 油脂、飲み物に関する実験 15. 出し汁に関する実験、官能検査		
<b>【到達目標】</b> 実験を通して、物事を科学的に捉える力を習得し、よりよい調理作業ができるようになる。			<b>【テキスト】</b> プリント等、資料配布する。 テキスト食物と栄養科学シリーズ5 調理学(1年次に購入・使用したもの)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 実験ではあるが、調理技術のさらなる習得を目指し、日常生活において積極的に調理に携わること。			<b>【参考図書】</b> 「調理学実験書」下村道子、和田淑子著、光生館		
<b>【留意事項】</b> 調理学のテキストを持参すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 毎回の授業中に、レポートを課す。実習に取り組む姿勢・態度(50%)、レポート(50%)により総合的に評価する。レポートについては、必要とされる記載事項などについての講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>食料経済</b>			担当者 <b>西村 武司</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：－	
<b>【授業概要】</b> 日本のカロリー・ベースでの食料自給率は40%を割り込んでいる。この背景を理解するためには、フードシステムに関する理解が必要である。そこで、第1に、日本の食料生産を担う農業がどのような状況におかれているのか、第2に、食料がどのように流通しているのか、第3に、日本の消費者の消費行動はどのようになっているのかを、ミクロ経済学の理論ならびに統計データを用いて、分かりやすく講述する。 <b>【到達目標】</b> 人間が生きていく上で食料は不可欠である。食料の生産、流通、消費の流れを捉え、日本の農業問題、食料流通の現状と課題を理解する。 <b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 授業テーマに関連する事項を、新聞や参考図書などで調べてくること。 <b>【留意事項】</b> 資料をMoodleにアップロードするので、適宜ダウンロードすること。 <b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】</b> 期末試験70%、小テスト30%で評価する。試験のフィードバックのためのオフィスアワーを設け、問題や採点基準等について解説する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 食料経済とフードシステム 2. 食料経済の理論 3. 食生活の成熟 4. 食料消費パターンの変化 5. 家族の変化と食生活 6. 日本の農業 7. 食料の安全保障と自給率 8. 食品工業の構造 9. 食品流通業の革新 10. 生鮮食品の流通 11. 外食・中食の成長 12. 食品ロスの問題 13. 世界の人口と食料 14. 食生活と政府の役割 15. 食料経済の将来展望  <b>【テキスト】</b> 時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博『フードシステムの経済学 第5版』医歯薬出版、2013、ISBN: 978-4-263-70606-0  <b>【参考図書】</b> 授業中に参考図書を紹介する。		

授業科目名 <b>健康管理概論</b>			担当者 <b>小野 和夫 他</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：2年 幼児教育：－	
<b>【授業概要】</b> 健康の概念・健康に関する基礎的知識や国民の健康の現状などについて学ぶ。また生活習慣病についての学びや国の健康づくりの施策などをと、健康増進管理についての理解を図る。栄養士として健康と食事(栄養)との関係を考え、健康管理にどのように関わっていきけるのかを考える機会とする。 <b>【到達目標】</b> ①健康の概念が理解できる。②日本における健康の現状が理解できる。③生活習慣が健康に与える影響を理解できる。④健康づくりは日常生活の中で実践されるものであることを理解できる。⑤健康管理の基本的な知識が理解できる。 <b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 課題・復習・予習の内容について指示がある場合には積極的に取り組むこと。 <b>【留意事項】</b> 学習内容は、授業の展開によっては、変更の可能性がある。変更の場合には随時、知らせる。 <b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】</b> 小テスト20%・課題20%・期末テスト60% 小テスト・課題については事後に解説を行う。期末試験については、正答率が低い設問について解説を掲示する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 健康の概念(健康とは、健康の定義、健康の成立条件) 2. 健康の指標(個人の健康判定、集団の健康判定:WHOの健康指標) 3. 健康の現状①(人口の特徴、出生・死亡の特徴、健康状態と受療状況) 4. 健康の現状②(食生活の現状) 5. 生活習慣と健康(健康阻害要因としての生活習慣、健康増進の三原則) 6. 生活習慣病の現状 7. 生活習慣病の予防 8. 健康増進 健康づくり対策①(健康日本21(第二次)) 9. 健康増進 健康づくり対策②(健康づくりのための身体活動基準2013) 10. ライフステージからみた健康管理①(乳幼児期) 11. ライフステージからみた健康管理②(学童期・思春期) 12. ライフステージからみた健康管理③(高齢期) 13. 健康食品 14. 健康情報管理 15. 健康管理の実際、まとめ  <b>【テキスト】</b> 保健・栄養系学生のための健康管理概論(三訂) 宮城重二著 光生館  <b>【参考図書】</b> 管理栄養士・栄養士必携—データ・資料集—(2018年度版) 第一出版		

授業科目名 <b>情報処理演習</b>			担当者 <b>片岡 武</b>		
単位数	2 単位	開講期	通年(前期)	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：1年～	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 大学で情報機器を使用するための基礎を学習する。具体的には、パソコン操作の基礎、インターネットを安全に利用する方法、学生用電子メールの使用法、日本語入力とワープロの操作を、演習形式で学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 履修の規則、キーボード操作、パスワードの変更、身体にやさしい利用方法 2. キーボード操作、Windowsの操作、ファイルの操作 3. キーボード操作、Windowsの操作、ファイル操作、拡張子、USBメモリの利用 4. キーボード操作、日本語入力 5. キーボード操作、文章の入力、印刷、複写・削除・移動 6. Wordの操作(文字位置、フォントサイズ、文字飾り、箇条書き、太字、ルビ 等) 7. 電子メール、ドメイン名 8. 電子メール、ビットとバイト、文字コード、クラウド、Wordの操作(表の作成と編集) 9. Wordの操作(クリップアート、ワードアート、図形描画) 10. Wordの操作(図形描画、スマートアート) 11. Wordの操作(段組み、ドロップキャップ、はがき作成、差し込み印刷 等) 12. 文字の基礎知識、インターネットのしくみ、大学のネットワーク環境 13. インターネットの活用(WWWとHTML、検索サイト、Wikipedia、SNS) 14. インターネットの活用(SNS)、ネットワークの脅威とセキュリティ 15. 倫理とルール、情報関係の資格試験		
<b>【到達目標】</b> ・インターネット・電子メールを安全に使用できる ・ワープロで様々な文書の作成ができる					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎週復習のための課題を出すので、Moodleで提出すること					
<b>【留意事項】</b> 特になし					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業中の活動への参加と作業成果物の提出を毎回1点(遅刻は0.7点)で合計15点、課題を合計15点、前期末筆記試験を20点で評価する。最終成績は後期の成績との合計で行う。 筆記試験や実習課題についての講評を、授業のページまたはmoodleにて提示する。			<b>【テキスト】</b> 30時間でマスター Word2010 実教出版 キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 久野、佐藤、辰巳、中野 監修 日経BP社		
			<b>【参考図書】</b> 特になし。		

授業科目名 <b>情報処理演習</b>			担当者 <b>片岡 武</b>		
単位数	2 単位	開講期	通年(後期)	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：1年～	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> プレゼンテーションと表計算ソフトを使用したデータ処理の方法を学習する。Microsoft PowerPoint を使用し、プレゼンテーションのためのスライド作成の方法とそのときの留意するべき点について学習する。またMicrosoft Excelを使用し、Excelの操作方法、大学での学習において必要となる様々なデータの処理方法、ビジネスデータの処理方法などについて学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 前期試験の復習 2. プレゼンテーション プレゼンテーションの作成、ワードアート、アニメーション 3. プレゼンテーション SmartArt、図形と図、グラフ 4. プレゼンテーション 図形機能の応用、テーマ、マスター、スライドショー、発表の基礎知識 5. Excelの基礎知識、合計の計算(SUM関数) 6. グラフの作成、印刷、行と列の操作、平均の計算(AVERAGE関数) セル番地の相対参照 7. 便利なデータ入力の方法、罫線、オートカルク 8. セル番地の絶対参照 最大・最小(MAX・MIN)、カウント(COUNT、COUNTA) 9. 四捨五入(ROUND・ROUNDUP)、条件による処理(IF) 10. グラフ(1) 棒グラフ・積み上げグラフ・折れ線グラフ 11. グラフ(2) 円グラフ・3-Dグラフ・複合グラフ 12. グラフ(3) ドーナツグラフ・レーダーチャート・散布図 データベース入門 13. データベース処理 検索・置換・抽出・データの集計 14. Excelの応用(1) 順位づけ 行と列の検索 15. Excelの応用(2) 文字列の操作 データベース関数 条件付き集計		
<b>【到達目標】</b> ・スライド作成を作成して、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・専門の授業で出てくる様々なデータを、書籍やヘルプを参考にして自分の力で処理できる。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎週復習のための課題を出すので、Moodleで提出すること					
<b>【留意事項】</b> 特になし					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業中の活動への参加と作業成果物の提出を毎回1点(遅刻は0.7点)で合計15点、課題を合計15点、前期末筆記試験を20点で評価する。最終成績は前期の成績との合計で行う。 筆記試験や実習課題についての講評を、授業のページまたはmoodleにて提示する。			<b>【テキスト】</b> 30時間でマスター Excel2010 実教出版(PC教室更新により変更の可能性あり) キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 久野、佐藤、辰巳、中野 監修 日経BP社		
			<b>【参考図書】</b> 特になし。		

授業科目名 <b>基礎化学</b>			担当者 <b>小野 和夫</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 生命現象に伴う多くの生体内反応や生体機能が分子レベルで説明されるようになり、それらを理解するうえで化学は重要な手段となっている。基礎化学では、生命活動を支える物質の構造や性質を理解するために必要な基礎知識を習得する。また、授業内容と関連する日常生活や健康上の問題をとりあげて化学の立場から解説し、理解の助けとしたい。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 2. 原子の構造 3. 電子配置 4. 化学式 5. 化学結合(1)イオン結合 6. 化学結合(2)共有結合 7. 原子、分子、イオンの重さ 8. 酸と塩基 9. 酸化と還元 10. コロイド 11. 溶解度 12. 溶液の濃度(3種類の%濃度) 13. 溶液の濃度(モル濃度) 14. 溶液の希釈 15. 有機化合物の特徴と構造		
<b>【到達目標】</b> ①主要元素の電子配置を理解する。②電子配置に基づき化学結合を理解する③コロイド溶液の特徴を理解する。④溶液の濃度表示を理解し、調製ができる。⑤基本的な官能基の性質を理解する。			<b>【テキスト】</b> わかる化学ー知っておきたい食と暮らしの基礎知識 松井・小野(化学同人)		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 教科書の関連箇所を事前に読んでおく。課題プリントは、次回の授業前までに解答しておく。			<b>【参考図書】</b> 特になし。		
<b>【留意事項】</b> 配布プリントと受講票で復習すること。生化学を履修する際の基礎となる。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 理解度を計るために毎回の授業終了時に受講票による確認を行う。また、課題を課すこともある。これらについては評価後、返却し解説を行う。15回の授業終了後、期末試験を行う。期末試験70%、毎回の受講票・課題30% 試験の不合格者については再試験前に学習課題を課す。					

授業科目名 <b>子どもと食育</b>			担当者 <b>仲田輝康・米倉孝・田中節夫・森英子・中川淳子</b>		
単位数	1 単位	開講期	集中	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：1年～		幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 乳幼児に対する食育の実践力を身に付けることを目的とする。子どもの心身の発達に応じた教材活用法や展開の仕方について、事例検討およびグループワークなどのアクティブラーニングを用いて学ぶ。併せて、保育・教育現場における食育の現状と課題を理解し、他職種連携など食育実践に必要な事柄を学ぶ。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 2. 保育所における食育実践計画 (荒島) 3. 保育所における食育実践事例 (荒島) 4. 保育所における行事と遊び (荒島) 5. 食育教材の制作① (児玉) 6. 食育教材の制作② (児玉) 7. 野菜の歌を歌おう① (米倉・田中) 8. 野菜の歌を歌おう② (米倉・田中) 9. 絵本を通して考える食育① (森) 10. 絵本を通して考える食育② (森) 11. 乳幼児期の運動発達① (中川) 12. 乳幼児期の運動発達② (中川) 13. 食育の現状と課題(幼稚園) 14. 食育の現状と課題(保育園) 15. 食育の現状と課題(栄養士)		
<b>【到達目標】</b> ①乳幼児の発達に応じた教材選択ができる。 ②教材活用法を理解した展開ができる。 ③保育現場での現状と課題から、専門職としての役割が理解できる。			<b>【テキスト】</b> なし		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 次回の授業範囲を学習し、理解を深めておくこと			<b>【参考図書】</b> 必要に応じて資料などを配布する。		
<b>【留意事項】</b> 第12回～第14回は幼児教育学科と共同で行う					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業態度・レポートを基に評価する。授業態度10%、レポート90%とし、希望者には結果を説明する。					

授業科目名 <b>専門演習 I</b>			担当者 <b>小野 和夫 他</b>		
単位数	2 単位	開講期	通年(前期)	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－	
<b>【授業概要】</b> 栄養士として修得すべき知識を確実に身につけ、統合、応用する力を養う内容とする。 前期には、1年次に学修した科目について演習を交えながら復習を行う。習熟度の確認のため、授業中に小テストを実施する。後期には、2年次に学修した科目を中心に復習を行い、学修事項を総合的に理解する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション (小野) 2. 食品とその成分(1)穀類 (廣田) 3. 食品とその成分(2)魚介、卵、肉類 (廣田) 4. 食品とその成分(3)油脂類、水分 (廣田) 5. 食品とその加工性 (廣田) 6. 食品表示基準について (廣田) 7. 調理法の種類 (松井) 8. 調理特性(1)穀類・でんぷん (松井) 9. 調理特性(2)魚・肉 (松井) 10. 臓器の機能 (小野) 11. ホルモンの役割 (小野) 12. 酵素の役割 (小野) 13. 三大栄養素の代謝 (國本) 14. ビタミン・ミネラルの効用 (國本) 15. エネルギー代謝 (國本)		
<b>【到達目標】</b> 苦手科目を克服し、栄養士として必要な知識を身に付けることができる。			<b>【テキスト】</b> 必要に応じて資料を配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 事前に授業内容に関連する教科書などを読み、質問ができるようにしておく。授業後に、必ず復習をすること。			<b>【参考図書】</b> 授業時に紹介する。		
<b>【留意事項】</b> 1. 栄養士免許取得を目指す者は必ず受講すること。 2. 各科目の教科書を必ず持参すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験60%、課題・小テスト40%					

授業科目名 <b>専門演習 I</b>			担当者 <b>小野 和夫 他</b>		
単位数	2 単位	開講期	通年(後期)	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－	
<b>【授業概要】</b> 栄養士として修得すべき知識を確実に身につけ、統合、応用する力を養う内容とする。 前期には、1年次に学修した科目について演習を交えながら復習を行う。習熟度の確認のため、授業中に小テストを実施する。後期には、2年次に学修した科目を中心に復習を行い、学修事項を総合的に理解する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 栄養アセスメントの方法 (國本) 2. 食事摂取基準の活用 (國本) 3. 公衆栄養活動の変遷について (岩崎) 4. 国民健康・栄養調査結果の推移 (岩崎) 5. 栄養指導の技術と方法 (岩崎) 6. 日本における健康づくり対策(健康日本21他) (岩崎) 7. 食生活指針の活用 (岩崎) 8. ライフステージ別の栄養上の問題 (國本) 9. 運動時の栄養上の問題 (國本) 10. 食中毒の現状 (松井) 11. 衛生管理の方法 (松井) 12. 給食の運営管理 (松井) 13. 給食施設の特徴 (松井) 14. 給食の食事管理 (松井) 15. 各分野の統合 (小野)		
<b>【到達目標】</b> 苦手科目を克服し、栄養士として必要な知識を身に付けることができる。			<b>【テキスト】</b> 必要に応じて資料を配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 事前に授業内容に関連する教科書などを読み、質問ができるようにしておく。授業後に、必ず復習をすること。			<b>【参考図書】</b> 授業時に紹介する。		
<b>【留意事項】</b> 1. 栄養士免許取得を目指す者は必ず受講すること。 2. 各科目の教科書を必ず持参すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験60%、課題・小テスト40%					



授業科目名 <b>専門演習Ⅱ</b>			担当者 <b>岩崎 由香里</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 地域の健康・栄養問題の実態を把握し、問題点を改善するための指導方法を学修できるようにする。特に、地域での食育活動や災害時の食支援等の実践を通じて、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルを養成する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス:授業概要、授業の進め方、評価について説明、地域における実践活動について 2. 地域の問題抽出(食育):調査用紙作成、分析方法検討 3. 地域の目標設定:食育活動 4. 地域の活動内容検討:食育プログラム編成 5. 地域における食育実践活動(1)-指導教材案の作成- 6. 地域における食育実践活動(2)-指導教材の作成- 7. 地域を想定したプレゼンテーションの実施、評価 8. 地域の問題抽出(災害時):調査用紙作成、分析方法検討 9. 地域の目標設定:災害時の食支援 10. 地域の活動内容検討:災害時の食支援プログラム編成 11. 災害食の考案(1)-材料の検討- 12. 災害食の考案(2)-調理方法の検討- 13. 災害食の考案(3)-栄養価計算- 14. 災害時の食支援のプレゼンテーションの実施、評価 15. 地域での実践活動のまとめ		
<b>【到達目標】</b> 人びとの健康を維持・増進するための食育活動や災害時の食支援等を立案できる。実践を通じて、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルを修得する。			<b>【テキスト】</b> 栄養指導論Ⅰで使用したテキスト 適宜、プリントを配布する。		
<b>【留意事項】</b> 授業概要は、授業の展開によっては、変更の可能性がある。変更の場合には随時、知らせる。材料費の負担がある。			<b>【参考図書】</b> 菱田 明・佐々木敏監修「日本人の食事摂取基準2015版」第一出版、食品成分表		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・ファイル、レポート、課題提出70% ・課題および授業への積極性30% ・発表等終了時に講評を行う。 ・提出課題の採点結果については、講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>専門演習Ⅱ</b>			担当者 <b>廣田 幸子</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 演習(ゼミ)を通じて、これまでに得た食品学と加工学の知識や技術について理解を深め、実践的な場面においても活用できる能力を習得すること学びます。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション(今後のゼミの内容を説明する) 2. ゼミテーマの説明 3. ゼミ計画の作成とテーマに関する情報収集1 4. ゼミ計画の作成とテーマに関する情報収集2 5. ゼミ計画の作成とテーマに関する情報収集3 6. ゼミ計画の作成とテーマに関する情報収集4 7. 基本的な実験技術の習得1 8. 基本的な実験技術の習得2 9. 基本的な実験技術の習得3 10. 基本的な実験技術の習得4 11. 調査ならびに実験データの集計と表作成1 12. 調査ならびに実験データの集計と表作成2 13. 調査ならびに実験データのまとめ1 14. 調査ならびに実験データのまとめ2 15. ゼミテーマの報告(発表)		
<b>【到達目標】</b> 問題(テーマ)を発見し、その問題解決に向けて調べる・まとめる方法を習得することにより、栄養士業務に役立つ能力を習得できることを目的とします。			<b>【テキスト】</b> 適宜プリントを配布します		
<b>【留意事項】</b> ゼミ活動を行うためには、ゼミ時間以外の自主的な取り組みが必要となります。			<b>【参考図書】</b> ステップアップ栄養・健康科学シリーズ「食品学Ⅰ」(化学同人) ステップアップ栄養・健康科学シリーズ「食品学Ⅱ」(化学同人)		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 各自が用意した資料(50%)と発表や討論(50%)によって総合的に評価します。					

授業科目名 <b>専門演習Ⅱ</b>			担当者 <b>國本 あゆみ</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 文部科学省は、「スポーツ振興計画」の中で競技スポーツのみならず、部活動や体育スポーツレベルにおいて、サポートの必要性を示している。本授業は、小児期から青年期の運動選手に対する栄養サポートの役割や具体的な方法を学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 2. スポーツ栄養マネジメントについて 3. スポーツ・栄養と体のリズム 4. スポーツ選手における栄養素の働き(1)糖質 5. スポーツ選手における栄養素の働き(2)脂質 6. スポーツ選手における栄養素の働き(2)たんぱく質 7. スポーツ選手の基本の食事 8. スポーツ選手の試合期・トレーニング期の食事 9. スポーツ選手の体づくりウエイトコントロール 10. スポーツ選手の障害予防－鉄欠乏性貧血、炎症－ 11. スポーツ選手の障害予防－骨障害、摂食障害、月経障害－ 12. 熱中症予防と水分補給 13. サプリメントの考え方 14. 発表テーマ決定、発表準備 15. 発表、まとめ		
<b>【到達目標】</b> ①スポーツ栄養の分野における栄養士に必要な知識と技術を修得する。 ②対象者別(年齢・運動種目別等)の特性を理解し、栄養分野のサポートを体験する。			<b>【テキスト】</b> 必要に応じて資料を配布する。		
<b>【留意事項】</b> 日頃からスポーツ栄養に関する最新情報を収集し、授業に積極的に取り組むこと。			<b>【参考図書】</b> 基礎から学ぶ！スポーツ栄養学 鈴木志保子著 ベースボールマガジン社 栄養科学シリーズNEXT スポーツ・運動栄養学 第3版 加藤秀夫他編 講談社		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> レポート40%、発表30%、受講票・課題30% 毎回の授業後に受講票を提出する。また、必要に応じて課題を課す。15回目には、各自テーマを設定し、発表を行う。					

授業科目名 <b>専門演習Ⅱ</b>			担当者 <b>松井 佳津子</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：2年	幼児教育：－
<b>【授業概要】</b> 「製菓の理論と実習」で、菓子の由来と材料の特性を調べ制作し、その内容をレシピ集としてまとめる。また、食物栄養学科オリジナルクッキーの考案に取り組む。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション、季節の和菓子① 桜餅、大福 2. " " 3. 食物栄養学科オリジナルクッキーの考案 4. 食物栄養学科オリジナルクッキーの試作 5. " " 6. 洋菓子① タルト 7. " " 8. 洋菓子② ババロア・ムース 9. " " 10. 洋菓子③ シフォンケーキ 11. " " 12. 季節の和菓子② 饅頭 13. " " 14. 洋菓子④ シュークリーム レシピ集の完成など実習のまとめ 15. " "		
<b>【到達目標】</b> 製菓の基本的な知識・技術を身につけ、給食施設の特性に応じたおやつ作りができるようになる。			<b>【テキスト】</b> NEW調理と理論 同文書院		
<b>【留意事項】</b> ・材料費の負担がある。 ・製菓実習は、時間割を変更し実施する。			<b>【参考図書】</b> 随時、紹介する。		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・出席状況および実習態度(60%)、課題(40%) ・提出課題の採点結果については、講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>専門演習Ⅱ</b>			担当者 <b>村田 幸治・柳田 元継</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：2年 幼児教育：－		
<p><b>【授業概要】</b>            一般用医薬品(OTC 医薬品)を利用するセルフメディケーションに対する国民意識の高まりなどの社会的背景をもとに、平成21年度からOTC 医薬品の適切な選択と適正な使用のため、OTC 医薬品の販売に従事できる「登録販売者」の配置を定めた新医薬品販売制度が実施された。この授業では、登録販売者の資格取得に向けて受験が必要なる「登録販売者試験」についての講義と演習(演習課題への主体的な取り組み)を行う。</p> <p><b>【到達目標】</b>            1. 登録販売者とその制度について理解する。            2. 登録販売者試験の受験に当たり、必要な内容を修得する。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b>            「解剖組織学」「栄養生理学」の内容を復習しておくこと。また、事前にテキストの該当箇所を読み、分からない用語を調べておくこと。</p> <p><b>【留意事項】</b>            履修者は8名程度まで(希望多数の場合は1年後期までの成績により選抜)。テキストは、履修が確定した学生のみ購入。            登録販売者試験の手続きは、各自で受験を希望する都道府県に行くこと。また、別途に受験費用が必要(詳細は、後日説明)。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b>            演習課題への取り組み(100%)で評価する。</p>			<p><b>【学習内容(各回の授業予定)】(【テキスト】欄の注を参照)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第1日：Ⅰ 交感神経と副交感神経、Ⅱ アドレナリン様作用、Ⅲ 抗コリン作用</li> <li>第1日：Ⅳ 抗ヒスタミン作用、Ⅴ プロスタグランジンと解熱鎮痛薬</li> <li>第2日：Ⅰ 人体の構造と働き①</li> <li>第2日：Ⅰ 人体の構造と働き②</li> <li>第2日：Ⅱ 薬の働く仕組み、Ⅲ 症状から見た主な副作用</li> <li>第2日：Ⅳ 医薬品の基本的な知識</li> <li>第3日：Ⅰ かぜ薬、Ⅱ 鎮咳去痰薬・口腔咽喉薬、Ⅲ アレルギー用薬・鼻炎用内服薬</li> <li>第3日：Ⅳ 催眠鎮静薬・眠気防止薬、Ⅴ 乗物酔い防止薬(鎮暈薬)</li> <li>第4日：Ⅰ 胃腸薬等、Ⅱ 痔疾用薬</li> <li>第4日：Ⅲ 滋養強壮保健薬等</li> <li>第5日：Ⅰ 皮膚に用いる薬、Ⅱ 毛髪用薬</li> <li>第5日：Ⅲ 目に用いる薬、Ⅳ 鼻に用いる薬、Ⅴ 歯や口中に用いる薬、Ⅵ 禁煙補助薬</li> <li>第5日：Ⅶ 一般用検査薬、Ⅷ 公衆衛生用薬</li> <li>APPENDIX: 生薬成分と漢方処方 ①生薬成分</li> <li>APPENDIX: 生薬成分と漢方処方 ②漢方処方製剤</li> </ol> <p><b>【テキスト】</b>            7日間であかる! 登録販売者テキスト&amp;問題集2019年度版、日本経済新聞出版社            (注:上記の学習内容(各回の授業予定)は、テキストの目次(第〇日等)を示している。)            なお、【テキスト】の以下の関係法規等の項目は自己学習とし授業では扱いません。            「第6日(薬事関係法規・制度)」、「第7日(医薬品の適正使用・安全対策)」、「APPENDIX(別表)」</p> <p><b>【参考図書】</b>            うかる! 登録販売者過去問題集 2019年度版、日本経済新聞出版社</p>		



# 幼兒教育學科

(一般教育科目)



授業科目名 <b>知的生き方概論</b>			担当者 <b>齊藤 育子 他</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：1年～ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 人間として「よく生きる」とはどのようなことなのか。この根源的な問いについて、山陽学園の教育の基礎を築いた上代淑をはじめ、学園と深いにかかわりのあった人物の生き方を知ることを通して考える。さらに、本学園の教育理念「愛と奉仕」を実践する人間として、学生それぞれが地域の中でどのような役割を果たすことができるのか「岡山の諸地域」の学びを通して考える。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 開講趣旨の説明、受講の心得、山陽学園の歴史と建学の精神(齊藤学長) 2. 山陽学園の教育理念①上代淑の生涯(齊藤学長) 3. 山陽学園の教育理念②上代淑の「日めくり」(齊藤学長) 4. 門田界限の人々①石井十次と岡山孤児院(濱田元副学長) 5. 門田界限の人々②アリス・ベティ・アダムスと岡山博愛会運動(濱田元副学長) 6. 門田界限の人々③エドワード・ガントレットと山田耕作(濱田元副学長) 7. 岡山の歴史・文化・地理的背景(谷一副学長) 8. 和気町の人々の生活と課題(特別講師：地域包括連携協定先和気町役場職員) 9. 真庭市の人々の生活と課題(特別講師：地域包括連携協定先真庭市役所職員) 10. 平井学区の人々の生活と課題(特別講師：平井学区連合町内会関係者) 11. ボランティアの勧め(澁谷) 12. 学科特性①(学科担当者) 13. 学科特性②(学科担当者) 14. 学科特性③(学科担当者) 15. 自らの理想の生き方を語る、グループ討議(学科担当者)		
<b>【到達目標】</b> 1. 山陽学園の歴史と教育理念を理解する。 2. 「愛と奉仕」を実践した人々の生き方を知る。 3. 地域の人々の生活を知り、その課題を理解する。 4. 奉仕の具体的方法を知る。			<b>【テキスト】</b> なし。必要に応じて、資料を配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 各テーマについて図書館等を利用して予習する。返却されたレポートを再読し学びを深める。			<b>【参考図書】</b> 山陽学園『山陽学園百年史』、山陽学園『愛と奉仕 山陽学園創立130周年記念誌』(吉備人出版) その他、授業時に紹介する。		
<b>【留意事項】</b> 「山陽スタンダード」としての位置づけの授業です。授業に出席しなければレポートを提出できません。講義の順序を変更する場合があります。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 各授業では、講義後にレポートを作成し提出する。15回のレポートによって、成績を評価する。なお、学科特性の時間として、上代皓三記念講演会等の公開講演会等の出席に充てることがある。希望者には、各担当者が採点基準やコメントについて解説や説明を行う。					

授業科目名 <b>国語</b>			担当者 <b>仲田 輝康</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 新聞の社説の要約と小論文の作成を中心とする授業である。 保育者として知っておくべき内容を含む文章等を素材として使い、保育の現場で必要とされる読む力、書く力を徹底して練習する。さらに広く社会人として要求される読解力、文章力を付けていく。そのため徹底して小論文を書いてもらう。 教材は新聞の社説を中心として使い、その時々々の時事的話題も取りあげる。また、実践的な漢字練習も行い、漢字能力も付けていく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 2. ニュースの言葉(1) 保育の現場で 3. ニュースの言葉(2) 子どもたちは今 4. ニュースの言葉(3) 子どもの運命 5. ニュースの言葉(4) 日本の社会を考える 6. 論説の言葉(1) 家族を考える 7. 論説の言葉(2) 教育の現場は今 8. 論説の言葉(3) 少子高齢化社会の現実 9. 論説の言葉(4) 子どもの命 10. 論説の言葉(5) 筆者の主張をとらえる 11. 文学の言葉 絵本のおもしろさを考える 12. 意見を伝える(1) 教育の現場で 13. 意見を伝える(2) 日本の家族を考える 14. 意見を伝える(3) 社会規範を考える 15. まとめ 小論文の作成		
<b>【到達目標】</b> 新聞の社説レベルの文章の理解力を付け、論理的な文章を書くための基礎力を付ける。また、漢字能力や一般常識的な知識・語彙も身に付ける。			<b>【テキスト】</b> プリントを配付		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 前時に示される課題をやって授業に臨むこと。			<b>【参考図書】</b> 特になし		
<b>【留意事項】</b> その時々々の時事的内容を中心に扱うので、授業の教材及び順序は入れ替わることもある。毎時間小論文や要約文を書き、提出してもらおう。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業中の作成物 50% 提出課題 10% 期末試験 40% 授業中の作成物については採点をして返却する。試験については希望者に対して答案の不十分な点を説明する。					

授業科目名 <b>日本国憲法</b>			担当者 <b>俵野 英二</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 身近な憲法問題を取り上げ、関係する憲法の基本原理から憲法上の問題の本質を分析し、見解の対立の背景を明らかにする。必要に応じて、歴史・文化的背景をおこなう他国の憲法及び大日本帝国憲法と比較することにより、知識を広げたり理解を深めたりすることを促す。授業は、教科書及び身近な問題から作成した講義資料を素材に、学生各自が憲法問題について体系的に順を追ってワークシートに整理しつつ進め、体系的理解及び憲法的な分析の方法の習得を目指す。随時、重要な論点を取り上げ、学生にグループの話し合い及び発表をさせて、憲法的思考の習得及び見解の対立の理解の深化を目指す。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス・憲法の目的とは—警察官、教員から毛にの源泉足る憲法を考える。 2. 個人の尊重と基本的人権—SNSの書き込みから新しい人権の保障人権の調整を考える。 3. 国民権と参政権—生徒会、学級会の話し合いから民主主義のルールを考える。 4. 教育と各国家機関の関係—生徒の自由研究の発表から各国家機関の役割と関与を考える。 5. 統治機構のまとめ及び小テスト—国家のしくみを鳥瞰的に振り返り、その理解を確認する。 6. 国籍を超えて—公務員の国籍条項から外国人の人権共有主体性を考える。 7. 人格を持つ子どもたち1—いじめ問題を通じて人権保障が生徒に及ぶか考える。 8. 人格を持つ子どもたち2—生徒の人権の行使に学校の指導監督がどこまで許されるか考える。 9. 法の下での平等と家族・個人—障害児の就学問題等を通じ、平等原則について考える。 10. 貧困の連鎖と生存権—進学問題を通じて社会権の保障され方等を考える。 11. 働く者の尊厳—差別的取り扱いやハラスメント等から労働者の尊厳の確保について考える。 12. 適正手続きと少年—刑事事件、少年事件を比較してその違いの意味を考える。 13. 教育権と職業選択の自由—幼稚園の新設問題から人権の複合的性格を考える。 14. 人権のまとめと第2回小テスト—人権保障を鳥瞰的に振り返り、その理解を確認する。 15. 地方自治と平和主義—自衛隊基地の問題から国民の安全と地方分権の関係を考える。		
<b>【到達目標】</b> 憲法の基本原理を理解し、その原理及び資料から得た情報を活用して、主体的に身近な憲法問題を考えることができる。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 事前学習：テキストを読み、意味の分からない用語の意味を調べておく。事後学習：ワークシートの問題を整理する。理解が不十分なところをテキスト等を使用して理解を深めノートに整理しておく。					
<b>【留意事項】</b> 辞書(電子辞書可。但し、通信機能を利用するものは付加)			<b>【テキスト】</b> 現代憲法教育研究会編『憲法とそれぞれの人権 第3版』(法律文化社、2017年) ISBN978-4-589-03871-5		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 1.成績評価の方法:期末試験(50%)、小テスト(30%)、ワークシート(20%)。課題図書に対するレポート(任意)は、20%の範囲で前記に加算する。2.フィードバックの方法:ワークシート及び小テストは返却の上、全体講評を行う。レポートは必要に応じて、講義前後に個別指導を行う。期末試験は問題開設及び採点基準の説明を配布する。			<b>【参考図書】</b> 伊藤真『伊藤真の憲法入門 第6版』(日本評論社、2017年) 橋本勇人『保育と日本国憲法』(みらい、2018年)		

授業科目名 <b>情報処理</b>			担当者 <b>古川 徹</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期・後期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 日本語ワープロおよび表計算ソフトウェアを通して、コンピュータの基本操作、タイピング、文書作成、ファイル操作、データの集計方法などを実習する。また、インターネットの仕組みを学習し、サーチエンジンによる情報の検索方法、電子メールの操作方法を実習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. コンピュータとOSの種類、PCのアカウント配付、ログイン方法 2. ファイルの拡張子、ドライブ名、階層ディレクトリ、課題の提出方法 3. タッチタイピングの練習(英字キー) 4. タッチタイピングの練習(ローマ字入力) 5. ファイル・フォルダの理解と基本操作、絶対パス名 6. Wordの起動・終了、ファイル編集の仕組み、IME 7. Wordの基本操作と文書入力練習 8. ビジネス文書の作成 9. 難しい漢字の入力練習 10. 表の作成の実習 11. インターネットの仕組み、サーチエンジンによる情報の検索練習 12. 電子メールの実習 13. Excel の基本操作 14. Excel の検索関数 15. Excel でグラフの作成		
<b>【到達目標】</b> コンピュータリテラシー(ワープロ、表計算、電子メール、ネット上の検索方法)を身につけ、自力で基本操作ができるようになること。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 特に必要はないが、タッチタイプの練習をしておくこと。復習は必ず行うこと。大学や自宅のパソコンで練習すること。					
<b>【留意事項】</b> 授業中の説明をよく聞き、ノートを取る。遅刻・欠席をすると、授業についていけなくなると注意すること。			<b>【テキスト】</b> ・使用しない。		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 課題の提出状況を100点満点で評価する。授業の5回目以降から、毎回授業中に課題を出す。原則として、課題をすべて提出しないと、評価はD(不合格)になる。			<b>【参考図書】</b> ・特になし。		



授業科目名 <b>キャリアデザイン I</b>			担当者 <b>中川淳子・田中節夫・森英子・権田あずさ</b>				
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 就職活動に向け、社会人として必要な一般常識と基本的マナーを基盤に、保育者に必要な専門性と知識について学習する。本講義をつうじて、就職活動に臨むに際し必要となる、姿勢や態度・意識を養い、必要な知識と技術を習得する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回オリエンテーション・保育者の仕事・合同面談会を終えて</li> <li>2. 人間関係のつくり方（学生相談室）</li> <li>3. 社会人としてのマナー実践1 挨拶・言葉遣い・身だしなみの基本</li> <li>4. 社会人としてのマナー実践2 文章の書き方</li> <li>5. 保育者としての一般教養 漢字検定</li> <li>6. 保育者の常識</li> <li>7. 保育実践の理解</li> <li>8. 専門職に就くことの意義・グループディスカッション</li> <li>9. 就職試験対策1 小論文とは</li> <li>10. 就職試験対策2 就職活動のあらまし</li> <li>11. 就職試験対策3 実技試験とは</li> <li>12. 就職活動の体験談</li> <li>13. 手紙文の書き方</li> <li>14. 履歴書の書き方1</li> <li>15. 履歴書の書き方2</li> </ol>				
<b>【到達目標】</b> 1. 保育者として必要な専門性と知識を身につける 2. 就職活動に臨むに際し必要な姿勢と態度、能力を身につける							
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 新聞・保育関係の専門誌などを読む習慣を身につける							
<b>【留意事項】</b> 配布されたプリントなどの資料はファイルで保管すること							
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 課題・レポート60%、受講態度40%として、総合的に判断する。レポート・課題の不合格者については、問題点を指摘した上で、レポート・課題の再提出を求める。また、原則課題は全ての提出を基本とし、未提出者はD判定とする。			<b>【テキスト】</b> 『これだけは身につけたい「新 保育者の常識67」』一藝社 「保育所保育指針解説書 平成29年」・「幼稚園教育要領解説書 平成29年」フレーベル社 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 平成29年」フレーベル社				
			<b>【参考図書】</b> 山陽学園大学・短期大学 キャリアガイド				

授業科目名 <b>社会人入門 II</b>			担当者 <b>米倉孝・岡田典子・児玉太一・江藤由香里・谷村紀彰</b>				
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> この講義では、1年生の間に身に付けた保育者として必要な専門性と知識、就職活動に必要な姿勢と態度、能力をさらに向上させるとともに、それらを活用し就職活動に臨むことができるようにする。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（社会人入門IIの履修について）・学力テスト(全員)</li> <li>2. 履歴書の書き方（再確認）・専門職就職試験の実際（受験記録の分析）(全員)</li> <li>3. 専門職就職試験対策① 作文(全員)</li> <li>4. 専門職就職試験対策② 一般教養(全員)</li> <li>5. 幼稚園教諭になるために(全員)</li> <li>6. 卒業生による講話（幼稚園）(全員)</li> <li>7. 卒業生による講話（保育園）(全員)</li> <li>8. グループディスカッション（実習で得たこと）・個別就職相談（クラス会）(全員)</li> <li>9. 面接指導① グループ面接（練習）(全員)</li> <li>10. 面接指導② グループ面接（実践）(全員)</li> <li>11. 面接指導③ 集団討論(全員)</li> <li>12. 合同面接会、企業説明会の参加方法(全員)</li> <li>13. 業界研究の仕方 求人票の見方(全員)</li> <li>14. 業界研究発表・保育士合同面談会に関する説明(全員)</li> <li>15. 保育士合同面談会(全員)</li> </ol>				
<b>【到達目標】</b> 1. 保育者として必要な専門性と知識を身に付ける。 2. 就職活動に必要な姿勢と態度、能力を身に付け、行動に移すことができる。							
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 新聞・保育関係の専門誌等を読む習慣を身につける。							
<b>【留意事項】</b> 配布されたプリントは、ファイルに保存すること。							
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 課題、レポート、提出物の状況、受講態度などから総合的に判断する。レポート・課題の不合格者については、問題点を指摘したうえで、レポート・課題再提出を求める。			<b>【テキスト】</b> 「新 保育者の常識67」 一藝社 「保育所保育指針解説」・「幼稚園教育要領解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
			<b>【参考図書】</b> 山陽学園大学・短期大学 キャリアガイド				

授業科目名 <b>英語表現 I A</b>			担当者 <b>江藤 由香里</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> This course is designed to give students practice in conversational English at a lower-intermediate level. Students will also be introduced to songs and games that may be useful in their nursery school careers.			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. Class introduction and overview 2. Personal information 3. Countries and nationalities 4. Family 5. Appearance 6. Play 7. Fruit and vegetables 8. Foods and drinks 9. Daily routines 10. Places in nursery 11. School supplies 12. Health problems 13. Annual school calendar 14. Family questionnaire 15. Reviewal		
<b>【到達目標】</b> 1. To be comfortable conversing with English speakers at a basic level; 2. To understand the importance of early exposure to English and how they can include that in their work.					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> Please be sure to review the contents of each lesson.					
<b>【留意事項】</b> This is an English conversation class. It is important to participate actively in all discussion activities.			<b>【テキスト】</b> Using handouts		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 20% Attendance & class participation 20% Homework & in class quizzes 60% Final exam (フィードバックの方法: 希望する学生には、問題解説や採点基準などの説明を行う。)			<b>【参考図書】</b> The Concise Oxford Dictionary ケンブリッジインターナショナル英英辞書		

授業科目名 <b>英語表現 I B</b>			担当者 <b>江藤 由香里</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> グローバル化が進む中、小学校での英語教育がスタートするなど、子どもに対する英語教育への関心が高まっている。この授業では、子ども向けの英語教育で扱われる英語の絵本、うた、ゲームといった題材を取り上げ、その中で使われている英語表現への理解を深める。なお、この授業では新型LL教室を使い、発音練習を効果的に行い、グループワークなどにも力を入れる。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. この授業について、クラスルームイングリッシュ (あいさつ) 2. 天気、曜日、クラスルームイングリッシュ (動作) 3. からだ、クラスルームイングリッシュ (ほめる、励ます) 4. 動物、クラスルームイングリッシュ (ゲームの指示) 5. レッスンプランの作り方、クラスルームイングリッシュ (確認) 6. グループワーク: 模擬授業のレッスンプラン作成と練習 7. グループ発表: 模擬授業 8. 英語の絵本の1/3を訳す・読む (Part I) 9. 英語の絵本の1/3を訳す (Part II) 10. 英語の絵本の1/3を訳す (Part III) 11. 英語の絵本を読む練習、歌の発音練習 12. 英語の絵本の読み聞かせ練習、歌の練習 13. 発表: 英語の絵本を読み聞かせる 14. 電子ピアノを使った活動: 伴奏と歌 (幼児教育学科音楽担当の教員) 15. まとめと録音		
<b>【到達目標】</b> 子どものための絵本、うた、ゲームなどに用いられる英語表現について、理解を深める。伝わりやすい発音を意識して、実際に音読したり、歌ったり、ゲームをしたりできるようにする。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 前回の授業の配布物をファイルに整理し、復習をしておくこと。					
<b>【留意事項】</b> 配布プリントを保管するA4ファイルを準備する。			<b>【テキスト】</b> E. Carle (1969) The Very Hungry Caterpillar		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 筆記試験50%、絵本の読み聞かせ(発表・録音)20%、 グループ発表10%、課題・小テスト10%、 授業への取り組み10% (フィードバックの方法: 希望する学生には、問題解説や採点基準などの説明を行う。)			<b>【参考図書】</b> 授業中に紹介する		

授業科目名 <b>スポーツ・健康科学Ⅰ〔1年対象〕</b>				担当者 <b>中川 淳子</b>	
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> スポーツ種目バドミントン、ニュースポーツのソフトバレーボール、インディアカなど多種のスポーツ種目を実施し、各種目の特徴、ルールの理解や基礎的な技術の習得。 現時点の個々の体力評価を確認する。また、幼児でもできる運動を実施。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス (スポーツ、健康に関する諸注意) 2. スポーツテスト (体力診断テスト、運動能力テスト)・現時点での自己体力の確認、 3. スポーツテスト (体力診断テスト、運動能力テスト)、体内脂肪計測定 4. スポーツテストの評価(体形グラフ) 5. バドミントン 基本練習・ルール説明 6. バドミントン シングル・ダブルスゲーム 7. バドミントン シングル・ダブルスゲーム 8. バドミントン 9. ソフトバレーボール ・パス・レシーブ・サーブ練習・ ゲーム(リーグ戦) 10. ソフトバレーボール ・パス・レシーブ・サーブ練習・ ゲーム(リーグ戦) 11. ソフトバレーボール ・パス・レシーブ・サーブ練習・ ゲーム(リーグ戦) 12. インディアカ ・パス・レシーブ・サーブ練習 13. 新聞を使った遊び 14. 色はこを使った遊び 15. 人体を探る		
<b>【到達目標】</b> ・心身の健康・体力の増強 ・情緒の安定と体力回復 ・好ましい人間関係 ・社会性・道徳性の高揚・スポーツ文化・科学の理解					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎日の柔軟運動・ストレッチなどの実施が望ましい					
<b>【留意事項】</b> 定められた体操服を着用 屋内シューズ・屋外シューズの用意					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 総合評価(出席、授業態度、課題テスト、レポート提出等)によって評価を行う。 出席は毎回とる。実技のため遅刻は認めない。 欠席が多い(欠席が1/3に充たない)場合でも再履修になることがある。			<b>【テキスト】</b> 特になし		
			<b>【参考図書】</b> 特になし		

授業科目名 <b>スポーツ・健康科学Ⅱ〔1年対象〕</b>				担当者 <b>中川 淳子</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> スポーツ種目卓球・フットサル・バスケットボールなど多種のスポーツ種目を実施し、各種目の特徴、ルールの理解や基礎的な技術の習得。現時点の個々の体力評価を確認する。 また、幼児の運動遊びも取り入れていく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス (身体作り運動 ) 2. スポーツテスト (体力診断テスト、運動能力テスト)・自己体力の確認・骨密度を測ろう 3. 卓球 <卓球> ルール説明 4. 卓球 ・ストローク練習、サーブ練習 5. 卓球 ・シングルスゲーム (クラスリーグ戦) 6. 鬼遊び グループ活動 多種多様な鬼遊び ・ 年齢による鬼遊びの理解 7. フットサル ・ ルール説明 ・ パス練習 ・ 試合 8. フットサル ・グループ練習 ・ 試合 9. フットサル ・グループ練習 ・ 試合 10. フットサル ・グループ練習 ・ 試合 11. バスケットボール、卓球 <バスケットボール> ルール説明 12. バスケットボール、卓球 ・パス練習・ドリブルシュート練習 13. バスケットボール、卓球 ・ゲーム(チームリーグ戦) 14. フリー種目 (ドッチボール、縄跳び 他) 15. 人体を探る 人体を知る (人体は究極のセンサー)		
<b>【到達目標】</b> ・心身の健康・体力の増強 ・情緒の安定と体力回復 ・好ましい人間関係 ・社会性・道徳性の高揚 ・スポーツ文化・科学の理解					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎日の柔軟運動・ストレッチなどの実施が望ましい					
<b>【留意事項】</b> 定められた体操服を着用 屋内シューズ・屋外シューズの用意					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 総合評価(出席、授業態度、課題テスト、レポート提出等)によって評価を行う。 出席は毎回とる。実技のため遅刻は認めない。 欠席が多い(欠席が1/3に充たない)場合でも再履修になることがある。			<b>【テキスト】</b> 特になし		
			<b>【参考図書】</b> 岩崎英人「新体力診断法」(セリオ社)		

授業科目名 <b>スポーツ・健康科学 I [2年対象]</b>			担当者 <b>中川 淳子</b>					
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> スポーツ種目バドミントン、ニュースポーツのソフトバレーボール、インディアカなど多種のスポーツ種目を実施し、各種目の特徴、ルールの理解や基礎的な技術の習得。 現時点の個々の体力評価を確認する。また、幼児でもできる運動を実施。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス (スポーツ、健康に関する諸注意) 2. スポーツテスト (体力診断テスト、運動能力テスト)・現時点での自己体力の確認 3. スポーツテスト (体力診断テスト、運動能力テスト)、体内脂肪計測定 4. スポーツテストの評価(体形グラフ) 5. バドミントン 基本練習・ルール説明 6. バドミントン シングル・ダブルスゲーム 7. バドミントン シングル・ダブルスゲーム 8. バドミントン 9. ソフトバレーボール ・パス・レシーブ・サーブ練習・ ゲーム(リーグ戦) 10. ソフトバレーボール ・パス・レシーブ・サーブ練習・ ゲーム(リーグ戦) 11. ソフトバレーボール ・パス・レシーブ・サーブ練習・ ゲーム(リーグ戦) 12. インディアカ ・パス・レシーブ・サーブ練習 13. 新聞を使った遊び 14. 色はこを使った遊び 15. 人体を探る					
<b>【到達目標】</b> ・心身の健康 ・体力の増強 ・情緒の安定と体力回復 ・好ましい人間関係 ・社会性・道徳性の高揚			<b>【テキスト】</b> 特になし					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎日の柔軟運動・ストレッチなどの実施が望ましい			<b>【参考図書】</b> 岩崎英人「新体力診断法」(セリオ社)					
<b>【留意事項】</b> 定められた体操服を着用 屋内シューズ・屋外シューズの用意			<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 総合評価(出席、授業態度、課題テスト、レポート提出等)によって評価を行う。 出席は毎回とる。実技のため遅刻は認めない。 欠席が多い(欠席が1/3に充たない)場合でも再履修になることがある。					

授業科目名 <b>スポーツ・健康科学 II [2年対象]</b>			担当者 <b>中川 淳子</b>					
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> スポーツ種目卓球・フットサル・バスケットボールなど多種のスポーツ種目を実施し、各種目の特徴、ルールの理解や基礎的な技術の習得。また、現時点の個々の体力評価			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス (身体を使った運動あそび ) 2. スポーツテスト (体力診断テスト、運動能力テスト)・自己体力の確認、骨密度を測ろう 3. 卓球 <卓球> ルール説明 4. 卓球 ・ストローク練習、サーブ練習 5. 卓球 ・シングルゲーム (クラスリーグ戦) 6. フットサル ・ルール説明 ・パス練習 ・試合 7. フットサル ・グループ練習 ・試合 8. フットサル ・グループ練習 ・試合 9. フットサル ・グループ練習 ・試合 10. バスケットボール、卓球 <バスケットボール> ルール説明 11. バスケットボール、卓球 ・パス練習 ・ドリブルシュート練習 12. バスケットボール、卓球 ・ゲーム(チームリーグ戦) 13. フリー種目 (ドッチボール、他) 14. フリー種目 (ドッチボール 他) 15. 人体を探る 人体を知る (人体は究極のセンサー)					
<b>【到達目標】</b> ・心身の健康・体力の増強 ・情緒の安定と体力回復 ・好ましい人間関係 ・社会性・道徳性の高揚			<b>【テキスト】</b> 特になし					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎日の柔軟運動・ストレッチなどの実施が望ましい			<b>【参考図書】</b> 岩崎英人「新体力診断法」(セリオ社)					
<b>【留意事項】</b> 定められた体操服を着用 屋内シューズ・屋外シューズの用意			<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 総合評価(出席、授業態度、課題テスト、レポート提出等)によって評価を行う。 出席は毎回とる。実技のため遅刻は認めない。 欠席が多い(欠席が1/3に充たない)場合でも再履修になることがある。					

幼兒教育學科

(專門教育科目)



授業科目名 <b>音楽Ⅰ[理論]</b>			担当者 <b>米倉 孝</b>		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 幼児教育に携わる者として必要な音楽理論(表記法、譜表、変化記号、音階、和音「コード」、和音進行、童謡曲の分析等)を主に学ぶことを目的とする。楽譜と実際に鳴り響く音が結びつくようキーボードを使用しながら講義する。又、授業の中でソルフェージュ、童謡の歌も歌い、総合的に応用が付くようにする。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 授業の説明、(基礎)楽典、手作り楽器について、リズム、ソルフェージュ演習 2. 楽典、リズム、ソルフェージュ演習、歌唱表現(歌う) 3. 楽典、リズム、ソルフェージュ演習、歌唱表現(歌う) 4. 楽典、リズム、ソルフェージュ演習、器楽表現(奏でる) 5. 楽典、リズム、ソルフェージュ演習、器楽表現(奏でる)、楽典テスト① 6. 楽典、リズム、ソルフェージュ演習、音と動きの表現(動く)手作り楽器 7. 楽典、リズム、ソルフェージュ演習、器楽表現(奏でる) 8. 楽典、リズム、ソルフェージュ演習、楽典テスト② 9. 楽典、リズム、ソルフェージュ演習、歌唱表現(歌う)あそびの歌、 10. 楽典、リズム、ソルフェージュ演習、グループリズムテスト 11. 器楽表現(奏でる)グループ全員で童謡合奏。楽曲分析 12. 楽典、ソルフェージュ演習、楽曲分析、楽典テスト③ 13. ソルフェージュ演習、楽曲分析 14. 楽曲分析、ソルフェージュテスト 15. 総復習、ノートチェック		
<b>【到達目標】</b> 幼児音楽教育者及び保育者として指導者になる為に必要な音楽基礎知識を得るために、理論と並行して実践実技を学ぶ。音楽基礎知識を学ぶと同時に、保育の場において、音楽の幅広い相続力、表現力ができようとする。			<b>【テキスト】</b> 書名：こどもの歌200曲、続こどもの歌200曲 著者：小林美実 出版社：チャイルド社、署名：やさしく学べる音楽理論 著者：桶谷弘美、熊谷新次郎、杉江正美、高橋悦枝共著 音楽用五線ノート(山陽学園短期大学指定ノート)発売元：長谷川楽器(長谷川楽器のみ発売)B以上の柔らかい鉛筆、大量のプリントを用意するのでA4サイズファイルを各自で用意すること。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> この授業は特に復習に重点を置く。授業においての復習に毎日1時間の復習を必要とする。			<b>【参考図書】</b> 音楽理論研究(荻原省巳著)「山陽学園図書館蔵書」、その他音楽理論書		
<b>【留意事項】</b> 筆記小テストは通常の期末試験に準ずる為、忌引、病欠、公欠等の欠席は証明書提出を必要とする。無断欠席は0点とする。毎回授業で要求される教科書、山陽学園短大指定音楽用五線ノート、筆記用具等を持参すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業時間内で筆記テスト40点(3回の平均点)、グループリズムテスト30点、ソルフェージュテスト20点、ノート提出10点、授業態度等、総合評価で行なう。授業態度が悪い場合は出席を認めない。授業期間中、定期的に個人の進捗を伝え、評価については、希望者には個別に説明を行う。					

授業科目名 <b>音楽ⅡA[器楽]</b>			担当者 <b>田中 節夫 他</b>		
単位数	2 単位	開講期	通年(前期)	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 学生へのアンケートを基にグレード別にクラス分けを行う。クラスレッスンと個人レッスンを交えながら童謡などの弾き歌いを中心に保育現場をシミュレーションしながら弾き歌いの能力の向上を図る。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 弾き歌いの基礎① 2. 弾き歌いの基礎練習② 3. 弾き歌いの基礎練習③ 4. 簡単な弾き歌いの演奏① 5. 簡単な弾き歌いの演奏② 6. 簡単な弾き歌いの演奏③ 7. ピアノ曲の演奏① 8. ピアノ曲の演奏② 9. ピアノ曲の演奏③ 10. 簡単な移調のトレーニング① 11. 簡単な移調のトレーニング② 12. こどもの歌とピアノ曲の演奏① 13. こどもの歌とピアノ曲の演奏② 14. こどもの歌とピアノ曲の演奏③ 15. 弾き歌いとピアノ曲の研究発表と前期のまとめ		
<b>【到達目標】</b> 童謡の弾き歌いを通しピアノ、歌唱の表現活動に関する基礎的な技術を習得し、読譜、演奏技術の向上を目指す。			<b>【テキスト】</b> 標準バイエルピアノ教則本(全音)、こどものうた200、続こどものうた200 初心者でバイエル教則本を持っていない学生は必ず買ってください。上級者は買う必要はありません。こどものうた200、続こどものうた200は必ず買ってください。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 一日15分から20分の自主練習をすること。授業で与えた課題は必ず予習、復習をして授業に臨むこと。			<b>【参考図書】</b> ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ等、必要に応じて与える。		
<b>【留意事項】</b> 基本的に弾き歌いはクラスレッスンで行う。個人レッスンの時でも90分の授業であることをわきまえて個人で自主練習をすること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験の結果(90%)、普段の授業態度(10%)で総合的に判断する。希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。					

授業科目名 <b>音楽ⅡA[器楽]</b>				担当者 <b>田中 節夫 他</b>	
単位数	2 単位	開講期	通年(後期)	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>クラスレッスンと個人レッスンを交えながら童謡などの弾き歌いを中心に保育現場をシミュレーションしながら弾き歌いの能力の向上を図る。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多種多様な弾き歌いの演奏と歌詞の解釈①</li> <li>2. 多種多様な弾き歌いの演奏と歌詞の解釈②</li> <li>3. 多種多様な弾き歌いの演奏と歌詞の解釈③</li> <li>4. 多種多様な弾き歌いの演奏と歌詞の解釈④</li> <li>5. 多種多様な弾き歌いの演奏と歌詞の解釈⑤</li> <li>6. 子どもの歌を使った移調のトレーニング①</li> <li>7. 子どもの歌を使った移調のトレーニング②</li> <li>8. 子どもの歌を使った移調のトレーニング③</li> <li>9. 多種多様なピアノ曲の演奏①</li> <li>10. 多種多様なピアノ曲の演奏②</li> <li>11. 多種多様なピアノ曲の演奏③</li> <li>12. 弾き歌いとピアノ曲の演奏①</li> <li>13. 弾き歌いとピアノ曲の演奏②</li> <li>14. 弾き歌いとピアノ曲の演奏③</li> <li>15. 弾き歌いとピアノ曲の研究発表と1年間のまとめ</li> </ol>		
<b>【到達目標】</b>			<b>【テキスト】</b>		
<p>童謡の弾き歌いを通しピアノ、歌唱の表現活動に関する基礎的な技術を習得し、読譜、演奏技術の向上を目指す。</p>			<p>標準バイエルピアノ教則本(全音)、こどものうた200、続こどものうた200</p>		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b>			<b>【参考図書】</b>		
<p>一日15分から20分の自主練習をすること。授業で与えた課題は必ず予習、復習をして授業に臨むこと。</p>			<p>ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ等、必要に応じて与える。</p>		
<b>【留意事項】</b>					
<p>基本的に弾き歌いはクラスレッスンで行う。個人レッスンの時でも90分の授業であることをわきまえて個人で自主練習をすること。</p>					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b>					
<p>期末試験の結果(90%)、普段の授業態度(10%)で総合的に判断する。希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。</p>					

授業科目名 <b>音楽ⅡB[器楽]</b>				担当者 <b>田中 節夫 他</b>	
単位数	2 単位	開講期	通年(前期)	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>音楽ⅡAの経験を基により高度な演奏技術、歌唱の向上を図る。個人レッスンやグループレッスンを行うことによって、演奏の喜びや表現の幅を広げる。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 弾き歌いの演奏①</li> <li>2. 弾き歌いの演奏②</li> <li>3. 弾き歌いの演奏③</li> <li>4. 弾き歌いの演奏④</li> <li>5. ピアノ曲の演奏①</li> <li>6. ピアノ曲の演奏②</li> <li>7. ピアノ曲の演奏③</li> <li>8. 移調のトレーニング①</li> <li>9. 移調のトレーニング②</li> <li>10. 移調のトレーニング③</li> <li>11. 子どもの歌を使った伴奏型の工夫の練習①</li> <li>12. 子どもの歌を使った伴奏型の工夫の練習②</li> <li>13. 弾き歌いとピアノ曲の演奏①</li> <li>14. 弾き歌いとピアノ曲の演奏②</li> <li>15. 弾き歌いとピアノ曲の研究発表と前期のまとめ</li> </ol>		
<b>【到達目標】</b>			<b>【テキスト】</b>		
<p>音楽ⅡAで習得した童謡の弾き歌いを通し、表現活動に関する応用的な技術を身につける。初見の技術の向上や自ら伴奏型を工夫したりできることを目標とする。就職後、一人で様々な曲の譜読みが出来る力をつける。</p>			<p>標準バイエルピアノ教則本(全音)、こどものうた200、続こどものうた200</p>		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b>			<b>【参考図書】</b>		
<p>一日15分から20分の自主練習をすること。授業で与えた課題は必ず予習、復習をして授業に臨むこと。</p>			<p>ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ等、必要に応じて与える。</p>		
<b>【留意事項】</b>					
<p>基本的に弾き歌いはクラスレッスンで行う。個人レッスンの時でも90分の授業であることをわきまえて個人で自主練習をすること。</p>					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b>					
<p>期末試験の結果(90%)、普段の授業態度(10%)で総合的に判断する。希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。</p>					



授業科目名 <b>音楽ⅡB[器楽]</b>				担当者 <b>田中 節夫 他</b>	
単位数	2 単位	開講期 通年(後期)	区分 選択科目	配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 音楽ⅡAの経験を基により高度な演奏技術、歌唱の向上を図る。個人レッスンやグループレッスンをを行うことによって、演奏の喜びや表現の幅を広げる。  <b>【到達目標】</b> 音楽ⅡAで習得した童謡の弾き歌いを通し、表現活動に関する応用的な技術を身につける。初見の技術の向上や自ら伴奏型を工夫したりできることを目標とする。就職後、一人で様々な曲の譜読みが出来る力をつける。  <b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 一日15分から20分の自主練習をすること。授業で与えた課題は必ず予習、復習をして授業に臨むこと。  <b>【留意事項】</b> 基本的に弾き歌いはクラスレッスンで行う。個人レッスンの時でも90分の授業であることをわきま個人で自主練習をすること。  <b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験の結果(90%)、普段の授業態度(10%)で総合的に判断する。希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. より高度な弾き歌いの演奏① 2. より高度な弾き歌いの演奏② 3. より高度な弾き歌いの演奏③ 4. 子どもの歌を使った伴奏型の工夫の練習① 5. 子どもの歌を使った伴奏型の工夫の練習② 6. ピアノ曲の演奏① 7. ピアノ曲の演奏② 8. ピアノ曲の演奏③ 9. 移調のトレーニング① 10. 移調のトレーニング② 11. 移調のトレーニング③ 12. 弾き歌いとピアノ曲の演奏① 13. 弾き歌いとピアノ曲の演奏② 14. 弾き歌いとピアノ曲の演奏③ 15. 弾き歌いとピアノ曲の研究発表と1年間のまとめ  <b>【テキスト】</b> 標準バイエルピアノ教則本(全音)、こどものうた200、続こどものうた200  <b>【参考図書】</b> ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ等、必要に応じて与える。		

授業科目名 <b>音楽Ⅲ[歌唱・ソルフェージュ]</b>				担当者 <b>谷口 伸枝</b>	
単位数	1 単位	開講期 後期	区分 選択科目	配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> ・ソルフェージュにおいては、正確な音程やリズムを学び読譜力を習得する。 ・「子供のうた200」「続子供のうた200」においては身近な行事や季節感のある曲を学び、豊かに幼児の遊びに対応できる歌唱技術を習得する。  <b>【到達目標】</b> 幼児に歌唱の楽しさを体験させ、音楽的感性を養うために童謡を数多く習得し、読譜力、歌唱法、また学生自身の音楽的感性の向上を目的とする。  <b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> ソルフェージュ、童謡ともに鍵盤楽器にて事前に練習してくること。  <b>【留意事項】</b> 必ずテキストを持参すること、五線譜、プリントを保存するためのファイルを用意すること。  <b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 歌唱の実技テストをする。小テスト2回、期末テストの平均点で評価する。楽譜に正確であること、音楽的に表現されること、を評価基準とする。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 発声の仕方、童謡曲の練習、輪唱または合唱の練習。 2. ソルフェージュのプリント、童謡曲の練習、グループワークによる合唱練習。 3. ソルフェージュのプリント、童謡曲の練習、(園生活、行事の曲、合唱練習) 4. ソルフェージュのプリント、童謡曲の練習、(園生活、行事の曲、合唱練習) 5. ソルフェージュ「ハ長調のミニテスト」、グループワークによる合唱発表。 6. ソルフェージュのプリント、童謡曲の練習、(秋冬の曲) 7. ソルフェージュのプリント、童謡曲の練習、(秋冬の曲) 8. ソルフェージュのプリント、童謡曲の練習、(秋冬の曲、その他) 9. 「秋冬の曲のテスト」、童謡曲の練習。 10. 後期試験課題曲の発表と練習。 11. 童謡曲、卒園ソングの練習。 12. 童謡曲、卒園ソングの練習。 13. 童謡曲、卒園ソングの練習。 14. 試験曲の練習、総合的な復習。 15. 実技試験とまとめ。  <b>【テキスト】</b> ・ソルフェージュはプリントを用意します。 ・「子供のうた200」「続子供のうた200」小林美実 編「チャイルド本社」  <b>【参考図書】</b> ・ダンノーゼルのソルフェージュ「音楽之友社」 ・なみだとえがおの卒園ソング「(有)ケイ・エム・ピー」、母とおさなごの歌「全音楽譜出版社」		

授業科目名 <b>図画</b>				担当者 <b>児玉 太一</b>	
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>幼児教育における造形表現の支援を目的に、特に絵や版画に着目した課題を展開する。自然物を含め、様々な素材や技法によって偶然に表れる色や形に関心を持ち、実際の活動の中で平面の表現手法についての理解を深める。幼児期に取り組みられる造形活動で必要とされる知識と技術を、相互鑑賞活動と作品制作、模擬保育を通じて、実践的に習得する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>ペンやパス、水彩絵具等、幼児教育の現場で使用される各種の描画材料と道具を用いて、絵画と版による様々な表現技法の理解を目指す。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b></p> <p>各課題は、授業時間内の実践のみでは完成に至らない為、課題毎に事前の予習、授業後の復習が必要となる。配布のワークシート(感想と記録)と課題作品は授業時に提示した期限までに進行し、提出する事。</p> <p><b>【留意事項】</b></p> <p>スケッチブック・鉛筆は毎時必ず持参する事。その他、各課題で必要となる準備物は授業内で適宜連絡する。活動に際しては、華美な服装は避け、必要に応じ、エプロンを着用すること。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b></p> <p>作品評価(60%) レポート・ワークシート(20%) 課題への取り組みなど平常点(20%)</p>			<p>1. 幼児の絵と版の造形活動における素材・材料・用具の特性と技法、支援方法の理解</p> <p>2. 形や色であらわす表現活動(1) ペンによる線描、重色・滲みの表現</p> <p>3. 形や色であらわす表現活動(2) パスと水彩絵具による造形遊び(スクラッチ・パチック)</p> <p>4. 絵の表現活動(1) 自然物をモチーフに水彩絵具の重色と混色の技法の理解</p> <p>5. 絵の表現活動(2) 水彩絵具の重色と混色の技法による色・質感の表現理解</p> <p>6. 絵の表現活動(3) 自然の土から絵の具作り、色の観察と採取</p> <p>7. 絵の表現活動(4) 粒子の分別</p> <p>8. 絵の表現活動(5) 展色剤を混合した土絵具による描画</p> <p>9. 版による表現活動(1) 自然物のフロッタージュ</p> <p>10. 版による表現活動(2) 紙版画・凹凸の制作</p> <p>11. 版による表現活動(3) 紙版画の刷り</p> <p>12. 版による表現活動(4) スチレン版画 下絵の制作</p> <p>13. 版による表現活動(5) 凹凸の制作と刷り・模擬保育の実践と考察</p> <p>14. 指導案作成 作品と記録による振り返りから指導案を作成する</p> <p>15. 鑑賞活動 ICT機器を用いた相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する</p> <p><b>【テキスト】</b></p> <p>槇 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林</p> <p>財団法人 幼少年教育研究所 『新版 遊びの指導』 同文書院</p> <p><b>【参考図書】</b></p> <p>必要に応じて適宜、プリントを配布する</p>		

授業科目名 <b>工作</b>				担当者 <b>児玉 太一</b>	
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>保育の現場で実際に使用されている素材や廃材等を用いた工作や絵・版画などの活動を通じて、幼児の豊かな表現活動の基礎となる造形表現を学習する。子どもの発達段階に応じた造形における材料・用具の特性と支援方法を実践的に学ぶと共に、ICTによる相互鑑賞活動について理解する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>保育の現場で実際に使用されている身近な素材や廃材等を用いて様々な工作や絵・版による表現技法の理解を目指す。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b></p> <p>各課題は、授業時間内の実践のみでは完成に至らない為、課題毎に事前の予習、授業後の復習が必要となる。配布のワークシート(感想と記録)と課題作品は授業時に提示した期限までに進行し、提出する事。</p> <p><b>【留意事項】</b></p> <p>スケッチブック・鉛筆は毎時必ず持参する事。その他、各課題で必要となる準備物は授業内で適宜連絡する。活動に際しては、華美な服装は避け、必ずエプロンを着用すること。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b></p> <p>作品評価(60%) レポート・ワークシート(20%) 課題への取り組みなど平常点(20%)</p>			<p>1. 幼児の造形活動における素材・材料・用具の特性と技法、支援方法の理解 ※鉛筆・サイズF4のスケッチブックを持参</p> <p>2. 小麦粉粘土による造形活動 小麦粉粘土の作り方・ICTの活用と理解</p> <p>3. 廃材を用いた表現活動(1) 廃材を生かしたデザイン案制作</p> <p>4. 廃材を用いた表現活動(2) 用具・素材の理解</p> <p>5. 版による表現活動(1) 版の手法の理解</p> <p>6. 版による表現活動(2) 版画制作の用具と使用の理解</p> <p>7. 染めの表現活動 紙染めの手法の理解</p> <p>8. 絵の表現活動(1) 描画材の理解</p> <p>9. 絵の表現活動(2) パス・絵の具による造形活動</p> <p>10. 身近な材料による工作(1) 素材を活かした造形手法について</p> <p>11. 身近な材料による工作(2) 色紙・ペンによる造形の理解</p> <p>12. 自然から発想する表現活動(1) 自然物の色や形から発想する造形の理解</p> <p>13. 自然から発想する表現活動(2) 自然物の造形の観察・模擬保育の実践と考察</p> <p>14. 指導案作成 作品と記録による振り返りから指導案を作成する</p> <p>15. 鑑賞活動 ICT機器を用いた相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する</p> <p><b>【テキスト】</b></p> <p>槇 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林</p> <p><b>【参考図書】</b></p> <p>必要に応じて適宜、プリントを配布する</p>		

授業科目名 <b>国語表現法</b>			担当者 <b>仲田 輝康</b>					
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－	幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 子どもの言葉の発達に対する理解をもとに、言葉の働きについて学ぶ。また幼稚園教諭として知っておくべき国語についての基礎知識を学ぶとともに、絵本等の児童文化財の基本的なことを学ぶ。授業では毎時間、視聴覚教材を利用して、読み聞かせの基礎も学んでいく。また、「絵本100冊読みノート」の作成を課する。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 「絵本100冊読みノート」の説明 2. 絵本との出会い 3. 子どもの言葉の発達概観 4. 言葉の基礎(1)漢字と送り仮名 5. 言葉の基礎(2)伝わる文章と句読点の打ち方 6. 言葉の基礎(3)主語と述語の対応 7. 絵本の読み聞かせ 基礎練習 8. 言葉の基礎(4)修飾と被修飾の関係 9. 言葉の基礎(5)ら抜き言葉と正しい敬語 10. 言葉の基礎(6)論理的に伝える言葉 11. 絵本のおもしろさを考える 12. 言葉の基礎(7)漢字研究 13. お話の基礎練習 14. 文学の言葉について 15. 総まとめ 考えを伝える				
<b>【到達目標】</b> 幼稚園教諭として知っておかなければならない国語の基礎と保育における領域「言葉」の基礎的内容を理解する。				<b>【テキスト】</b> 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』 『漢字ボックス』(浜島書店)、『滴一滴書き写し学習帳』(山陽新聞社)				
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 前時に示される課題をやって授業に臨むこと。また、毎週2～3冊の絵本を読み、「絵本100冊読みノート」を作成する。				<b>【参考図書】</b> 特になし				
<b>【留意事項】</b> 『漢字ボックス』、『滴一滴書き写し学習帳』を毎時間必ず持参すること。授業の順番は変更することもある。				<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業中の作成物等 40% 提出課題 20% 期末試験 40% 授業中の作成物については採点をし、次時に返却する。試験については希望者に対して答案の不十分な点を説明する。				

授業科目名 <b>子どもの保健 I</b>			担当者 <b>田村 裕子・村田 幸治</b>					
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－	幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 子どもたちの健やかな育ちを支援する上で必要な健康の意義と子どもの身体発育や生理機能の特性や発達、子どもの疾病と保健について学ぶ。授業中に特定のテーマについて、学生との質疑応答を行う予定				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 子どもの健康と保健の意義 2. 子どもの発育・発達 3. 生理機能の発達 4. 感覚・神経・精神機能および情緒・行動の発達 5. 栄養と発達 6. 子どもの生活習慣と心身の健康 7. 子どもの事故とその予防 8. 感染症 9. 予防接種 10. 子どもの主な症状 11. 子どもの急性の病気 12. 子どもの慢性の病気 13. アレルギー 14. 子どもの精神保健 15. 期末試験とまとめ				
<b>【到達目標】</b> 1. 子どもたちの健やかな育ちに必要な健康の意義を理解する 2. 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、精神機能の発達について理解する 3. 子どもの疾病とその予防法および適切な対応について理解する				<b>【テキスト】</b> 資料を配付する				
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 各回の授業テーマに関連する事項を、新聞やインターネットなどで調べてくること				<b>【参考図書】</b> 授業中に紹介する				
<b>【留意事項】</b> 特になし。				<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 小テスト20%、期末試験80% ・試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。				

授業科目名 <b>子どもの保健Ⅱ〔1年対象〕</b>				担当者 <b>田村 裕子</b>	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 子どもたちの健やかな育ちを支援する上で必要な保育における子どもの心身両面の健康の保持増進を図る保健活動について概説する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心とからだの異変と健康課題</li> <li>2. 子どもの保健管理(1)健康診断</li> <li>3. 子どもの保健管理(2)健康観察</li> <li>4. 保健調査および保健計画</li> <li>5. 保育環境整備及び衛生管理</li> <li>6. 保育現場において予防すべき感染症とその対策</li> <li>7. 子どもの心の健康問題とその対応</li> <li>8. 子どもの外科的傷病とその対応</li> <li>9. 保育現場における事故及び災害共済給付制度</li> <li>10. 保育現場における安全管理及び安全指導</li> <li>11. 危機管理</li> <li>12. 母子保健対策と保育</li> <li>13. 家庭・専門機関・地域との連携</li> <li>14. 健康教育と家庭への情報発信</li> <li>15. まとめと補足</li> </ol>		
<b>【到達目標】</b> 1. 子どもたちの心身の健康課題について理解する 2. 子どもたちの健やかな育ちを支援する上で必要な保健活動について理解する 3. 保育における環境衛生管理並びに安全管理について理解する					
<b>【準備学習の内容】</b> 講義の内容を毎回復習をし、理解を深めること。					
<b>【留意事項】</b> 特になし					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 小テスト5%、レポート5%、期末試験90% ・試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。			<b>【テキスト】</b> なし 資料を配付する		
			<b>【参考図書】</b> 授業中に紹介する		

授業科目名 <b>子どもの保健Ⅱ〔2年対象〕</b>				担当者 <b>田村 裕子・木下 春美</b>	
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 保育における健康管理ならびに健康問題・異変の早期発見と対処ができるよう、演習をとおして知識や技術について学ぶ。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全点検(点検項目の検討)</li> <li>2. 環境衛生検査(点検項目の追加)</li> <li>3. 安全点検および環境衛生検査(幼稚園での点検・検査)</li> <li>4. 安全点検(まとめ)</li> <li>5. 安全点検(発表)</li> <li>6. 乳児の抱き方、おむつ交換、更衣</li> <li>7. 身体の発育の測定、健康診断</li> <li>8. 沐浴</li> <li>9. 健康状態の把握と健康増進(歯磨き)</li> <li>10. 記録及び連携(保護者・医療機関)</li> <li>11. 感染症・おう吐物の処理(手洗い含む)</li> <li>12. 子どもに起きやすい事故の応急処置</li> <li>13. 情報発信:保健だより作成</li> <li>14. 心肺蘇生法</li> <li>15. まとめと補足</li> </ol>		
<b>【到達目標】</b> 保育者として子どもの健康管理ができるよう、また健康問題・異変への対応に必要な知識や技術を習得する。					
<b>【準備学習の内容】</b> 演習にあたり、「子どもの保健Ⅰ」の復習をしておくこと。					
<b>【留意事項】</b> 持参すべき物品がある場合、事前に指示する。毎授業終了時に、提示するレポートを提出すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 小テスト20% 期末テスト80% ・試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。			<b>【テキスト】</b> なし 資料を配付する		
			<b>【参考図書】</b> 授業中に紹介する		

授業科目名 <b>子どもの食と栄養</b>				担当者 <b>井上 恵子</b>	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 発達段階に応じた子どもの食生活や栄養に関する基礎知識・技術を習得する。また、保育における食育の意義、目的、基本的考え方を理解し、家庭や児童福祉施設での食生活の課題と配慮方法を学ぶ。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 子どもの健康と食生活の意義・炊飯 2. 発育・発達の基礎知識、乳汁期栄養・調乳 3. 栄養と食事の基礎知識、離乳食の進め方・離乳食 4. 離乳期栄養、離乳食開始・離乳食 5. 離乳期栄養、食事摂取基準・離乳食 6. 離乳期栄養の問題・離乳食 7. 食育の基本と内容・離乳食 8. 離乳期栄養、離乳の完了・離乳食 9. 幼児期の栄養と食生活の特性・幼児食 10. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養・幼児食 11. 食育・ペーパーサート・幼児食 12. 幼児食の献立作成・間食・幼児食 13. 幼児期における気になる食行動・幼児食 14. 演習・弁当作り・幼児食 15. 健康と食べることのまとめ・みんなで楽しくホームパーティーメニュー		
<b>【到達目標】</b> 子どもの健康と成長のための食と栄養についての基礎・基本を離乳期から幼児期までの調理実習をすることにより習得する。生涯にわたる健康的な食習慣の重要性を理解し、実践できるようにする。			<b>【テキスト】</b> 発育期の子どもの食生活と栄養 菅原園 他著 学健書院		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 調理技術の習得と衛生的かつ年齢などによる発達段階に応じた調理方法を事前・事後に検討してみる。毎授業後には提示するレポートを提出する。			<b>【参考図書】</b> 食育基本法 保育所保育指針		
<b>【留意事項】</b> 毎回調理実習を行うので、初回からエプロン・三角布(バンダナ)を準備し、衛生面に留意した調理実習ができるようにする。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 15回の授業後、期末試験を行う 50% 授業への取り組み、提出物 50%					

授業科目名 <b>社会福祉</b>				担当者 <b>谷村 紀彰</b>	
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷についての理解を確かなものとした後、社会福祉の制度と実施体系、相談援助、利用者保護制度等、保育士として必要とされる社会福祉の基礎を修得する。また、福祉専門職である保育士の視点で社会福祉の在り方を将来的に論考できるようなるため、数回レポートを課した上で、その内容の発表とディスカッションの時間を授業内に設ける。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 社会福祉の意義と歴史の変遷①－社会福祉の理念と概念 2. 社会福祉の意義と歴史の変遷②－社会福祉の歴史の変遷 3. 社会福祉の意義と歴史の変遷③－子ども家庭支援と社会福祉 4. 社会福祉の制度と実施体系①－社会福祉の制度と法体系 5. 社会福祉の制度と実施体系②－社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設 6. 社会福祉の制度と実施体系③－社会福祉の専門職 7. 社会福祉の制度と実施体系④－社会保障及び関連制度 8. 社会福祉における相談援助①－相談援助の理論 9. 社会福祉における相談援助②－相談援助の意義と機能、相談援助の対象と過程 10. 社会福祉における相談援助③－相談援助の方法と技術 11. 社会福祉利用者の保護にかかわる仕組み 12. 社会福祉の動向と課題①－少子高齢化社会における子育て支援 13. 社会福祉の動向と課題②－共生社会の実現と障害者施策 14. 社会福祉の動向と課題③－在宅福祉・地域福祉の推進 15. 社会福祉の動向と課題④－諸外国の動向、総括		
<b>【到達目標】</b> 1.現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解し論考できる。 2.社会福祉の制度や実施体系と相談援助及び利用者保護に関わる仕組みについて理解し論考できる。 3.福祉専門職である保育士の視点で社会福祉の在り方を論考できる。			<b>【テキスト】</b> 松原康雄・坪洋一・金子充編著『社会福祉(新・基本保育シリーズ4)』中央法規出版 2019年1月		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> ・授業範囲を予習し、疑問に思う点をノートにまとめてくること。 ・指示された課題について、レポートにまとめてくること。			<b>【参考図書】</b> 随時紹介する。		
<b>【留意事項】</b> ・不明な点があれば遠慮なく質問すること。 ・課題(レポート)提出の期日を守ること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・期末試験(80%)と課題(レポート)(20%)で評価する。 ・試験や課題(レポート)のフィードバックのためのオフィスアワーを設け、問題解説や採点基準などの説明を行う。					

授業科目名 <b>保育ソーシャルワーク</b>			担当者 <b>谷村 紀彰</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 保育におけるソーシャルワークを実践するための相談援助の基礎(概要、方法と技術、具体的展開等)を修得するとともに、保育相談支援の実際を学び、その内容や方法等の理解を深める。また、虐待の予防と対応等の事例分析、障害のある子どもとその保護者等への支援の事例分析、ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析を通して対象への理解を深める。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 相談援助の概要①－相談援助の理論・相談援助の意義 2. 相談援助の概要②－相談援助の機能、相談援助とソーシャルワーク、保育とソーシャルワーク 3. 相談援助の方法と技術①－個別援助技術 4. 相談援助の方法と技術②－集団援助技術・地域援助技術 5. 相談援助の方法と技術③－間接援助技術(地域援助技術を除く)・関連援助技術 6. 相談援助の具体的展開①－計画・記録・評価 7. 相談援助の具体的展開②－関係機関との協働、多様な専門職との連携 8. 相談援助の具体的展開③－社会資源の活用、調整、開発 9. 保育相談支援の意義と基本 10. 保育相談支援の実際 11. 児童福祉施設における保育相談支援①－保育所 12. 児童福祉施設における保育相談支援②－児童養護施設(要保護児童の家庭を含む) 13. 児童福祉施設における保育相談支援③－障害児施設、母子生活支援施設等 14. 事例分析①－虐待の予防と対応・障がいのある子どもとその保護者への支援等の事例分析 15. 事例分析②－ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析		
<b>【到達目標】</b> 1. 相談援助の方法と技術の概要を理解し論考できる。 2. 相談援助の具体的な展開過程を論考できる。 3. 保育相談支援の内容や方法理解し論考できる。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> ・授業範囲を予習し、疑問に思う点をノートにまとめること。 ・指示された課題について、レポートにまとめること。					
<b>【留意事項】</b> ・配布されたプリントを紛失しないように、必ずファイリングをすること。 ・課題(レポート)提出の期日を守ること。			<b>【テキスト】</b> 毎回プリントを配布する。		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・期末試験(80%)と課題(レポート)(20%)で評価する。 ・試験やレポートのフィードバックのためのオフィスアワーを設け、問題解説や採点基準などの説明を行う。			<b>【参考図書】</b> 随時紹介する。		

授業科目名 <b>子ども家庭福祉</b>			担当者 <b>谷村 紀彰</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷についての理解を確かなものとした後、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度と実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題等、保育士として必要とされる子ども家庭福祉の基礎を修得する。また、福祉専門職である保育士の視点で子ども家庭福祉の在り方を将来的に論考できるようなるため、数回レポートを課した上で、その内容の発表とディスカッションの時間を授業内に設ける。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷①－子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷②－子ども家庭福祉の歴史の変遷 3. 子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷③－現代社会と子ども家庭福祉 4. 子どもの人権擁護 5. 子ども家庭福祉の制度と実施体系①－子ども家庭福祉の制度と法体系 6. 子ども家庭福祉の制度と実施体系②－子ども家庭福祉の実施体系 7. 子ども家庭福祉の制度と実施体系③－児童福祉施設、子ども家庭福祉の専門職 8. 子ども家庭福祉の現状と課題①－少子化と地域子育て支援 9. 子ども家庭福祉の現状と課題②－母子保健と児童の健全育成、多様な保育ニーズへの対応 10. 子ども家庭福祉の現状と課題③－児童虐待防止・ドメスティックバイオレンスとその防止 11. 子ども家庭福祉の現状と課題④－社会的養護、障がいのある子どもへの対応、非行少年等への対応 12. 子ども家庭福祉の現状と課題⑤－貧困、外国籍の子どもとその家庭への支援等 13. 子ども家庭福祉の動向と展望①－次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14. 子ども家庭福祉の動向と展望②－地域における連携・協働とネットワーク 15. 子ども家庭福祉の動向と展望③－諸外国の動向、総括		
<b>【到達目標】</b> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、子どもの人権について理解し論考できる。 2. 子ども家庭福祉の制度と実施体系を理解し論考できる。 3. 福祉専門職である保育士の視点で子ども家庭福祉の在り方を論考できる。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> ・授業範囲を予習し、疑問に思う点をノートにまとめること。 ・指示された課題について、レポートにまとめること。					
<b>【留意事項】</b> ・配布されたプリントを紛失しないように、必ずファイリングをすること。 ・課題(レポート)提出の期日を守ること。			<b>【テキスト】</b> 毎回プリントを配布する。		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・期末試験(80%)と課題(レポート)(20%)で評価する。 ・試験や課題(レポート)のフィードバックのためのオフィスアワーを設け、問題解説や採点基準などの説明を行う。			<b>【参考図書】</b> 随時紹介する。		

授業科目名 <b>保育原理</b>			担当者 <b>岡田 典子</b>				
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 保育の意義や思想、制度、内容・方法といった保育の原理を学習する。また、保育の現代的課題と制度改革などの保育を取り巻く現状、そして保育職務の全体像を理解することにより、保育について包括的に理解する。なお、授業では、個人ワークを踏まえたグループワークや討議を随時行う。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション、保育の理念と概念 2. 保育の対象としての子ども 3. 福祉としての保育 4. 就学前教育・保育の基準 5. 発達過程に応じた保育 6. 保育実践の構成原理 7. 保育のねらいと内容 8. 遊びと環境構成 9. 保育実践のPDCAサイクル 10. 保育の思想史 11. 日本の保育の制度史(戦前) 12. 日本の保育の制度史(戦後) 13. 保育における地域連携 14. 保護者支援における保育士の役割 15. 保育職務の全体像			
<b>【到達目標】</b> 保育所保育指針等における保育の基本用語を理解するとともに、保育の意義や思想、内容や方法の基本、制度について理解する。また、保育の現代的課題について保育者の立場から考察する。							
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎授業で提示する「次回授業のキーワード」をテキスト等で調べてから次回授業に臨むこと。							
<b>【留意事項】</b> 授業内で提示された課題は、期限内に提出すること。							
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験(50%)、課題(30%)、授業での学習態度(20%)で総合的に評価する。学習態度は、授業への取り組みやコメントペーパーの提出などで評価する。期末試験については、希望者には個別に問題解説を行う。				<b>【テキスト】</b> 池田隆英・上田敏夫・楠本恭之・中原朋生編『改訂 なぜからはじめる保育原理(第2版)』建帛社			
				<b>【参考図書】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』			

授業科目名 <b>社会的養護 I</b>			担当者 <b>仁木 健次</b>				
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 少子化、核家族化等子どもをめぐる社会情勢、経済状況等の変化が子ども子育ての環境に大きな影響を与えている。保護者の適切な養育を受けられない子どもに対して、公的責任で社会的に養育・支援にあたるのが社会的養護である。本授業では、社会的養護における意義、歴史、制度、実施機関等とその現状と課題について学習する。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 社会的養護とは何か ー子どもの養育環境ー 2. 社会的養護の歴史 ー子どもへの救済保護活動ー 3. 子どもの権利擁護① ー権利擁護の歴史と子ども権利条約ー 4. 子どもの権利擁護① ー児童養護施設運営指針を中心にー 5. DVD学習「石井のおとうさんありがとう」① 6. DVD学習「石井のおとうさんありがとう」② ー討論ー 7. 社会的養護の体系 ー施設養護と家庭養護・関係機関ー 8. 社会的養護の専門職と職業倫理 ー全国保育士倫理綱領等ー 9. 社会的養護の実際 ー養護系・障がい児系施設等ー 10. 社会的養護の実際 ー治療系・育成系施設等ー 11. こころの援助① ー安心と安全の保障と愛着関係の形成ー 12. こころの援助② ーコミュニケーションスキル ポリアンナ効果・ビグマリオン効果ー 13. 虐待を受けた子どもへの支援 ー治療的アプローチ 事例から学ぶー 14. 社会的養護の原理 ー施設の機能・養護の基本原則ー 15. 児童福祉施設の運営と管理			
<b>【到達目標】</b> 本授業のキーワードは「子どもの最善の利益」である。子どもの最善の利益のための支援はいかにあるべきか、養護実践の基礎について多角的・重層的に学習する。							
<b>【予習・復習準備学習の内容】</b> 準備学習は、特に必要ないが、日ごろから子どもの福祉に関するマスコミ報道に関心を寄せてもらいたい。							
<b>【留意事項】</b> 必要に応じて資料を配布、DVD等の視聴をする。適宜、レポート、リアクションペーパー等の提出を求める。授業の進捗により多少の変更はあり得る。							
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験、課題レポート、リアクションペーパー(授業意欲)等により総合的に評価する。その比率はおおむね7:2:1である。				<b>【テキスト】</b> 流王治郎・赤木正典編「社会的養護 I」(株)建帛社			
				<b>【参考図書】</b> 伊達悦子・辰己隆隆「保育士をめざす人の社会的養護」(株)みらい 辰己隆・岡本真幸編「改訂 保育士をめざす人の社会的養護内容」(株)みらい			

授業科目名 <b>教育原理</b>				担当者 <b>岡田 典子</b>	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>教育の前提となる人間形成や発達、社会化について理解した上で、教育の理念や思想、制度といった基礎的内容を理解する。また、学校経営や地域連携、学校安全について、取り組み事例を踏まえて理解することで、教育という営みの全体像をとらえる。なお、授業では、個人ワークを踏まえたグループワークや討議を随時行う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 教育の理念や思想、制度とその歴史の変遷といった基礎的内容及び教育の現代的課題を理解するとともに、学校経営の観点から教育について考える。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 毎授業で提示する「次回授業のキーワード」をテキスト等で調べてから次回授業に臨むこと。</p> <p><b>【留意事項】</b> 授業内で提示された課題は、期限内に提出すること。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験を行う。評価は、期末試験(50%)、予習課題・授業課題(40%)、授業での学習態度(10%)で総合的に行う。学習態度は、授業への取り組みやコメントペーパーの提出などで評価する。期末試験については、希望者には個別に問題解説を行う。</p>			<p>1. オリエンテーション、人間について思考する様式</p> <p>2. 人間形成の根源と価値</p> <p>3. 臨床的な理解の方法</p> <p>4. 教育制度確立の背景</p> <p>5. 教育思想の背景と系譜</p> <p>6. 学校教育の制度化</p> <p>7. 日本の学校教育制度の変遷</p> <p>8. 日本国憲法下の教育施策</p> <p>9. 就学前のカリキュラム</p> <p>10. 就学後のカリキュラム</p> <p>11. 臨床的な教育の実践</p> <p>12. 社会のなかの学校組織</p> <p>13. 生涯発達と教育機会</p> <p>14. 学校教育の問題構成</p> <p>15. 学校安全への対応</p> <p><b>【テキスト】</b> 池田隆英・楠本恭之・中原朋生編『なぜからはじめる教育原理〔第2版〕』建邦社</p> <p><b>【参考図書】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』</p>		

授業科目名 <b>教育心理学〔1年次〕</b>				担当者 <b>権田 あずさ</b>	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>適切な教育的働きかけを行うために、子どもの心身の発達や行動、学習のしくみなどについての心理学的理論を学習する。また、子ども一人一人の発達に応じた教育的対応について理解を深める。</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 子どもの心身発達と学習の課程を理解する。 2. 子どもの発達段階に応じた適切な教育的働きかけを理解する。 3. 個人差について理解を深め、適切な支援のあり方について考察を深める。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 前回までの講義内容を復習し、ノートを整理しておくこと。</p> <p><b>【留意事項】</b> 資料を配布するのでファイルに入れて整理すること。学習内容は前後する場合がある。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験50%、提出物30%、受講態度・授業参加の積極性20%</p>			<p>1. 教育心理学とはなにか</p> <p>2. 子ども観と教育・保育観</p> <p>3. 発達と教育1:遺伝と環境、発達段階と発達課題</p> <p>4. 発達と教育2:思考の発達、ことばの発達(社会情動的発達、運動機能の発達含む)</p> <p>5. 学習のしくみ1:さまざまな学習</p> <p>6. 学習のしくみ2:記憶、学習環境(記憶に関するアクティビティ及びディスカッションを含む)</p> <p>7. やる気を育てる:やる気・意欲・動機づけ</p> <p>8. 個人差の理解:知的能力、性格</p> <p>9. 対人関係の発達と教育1:親子関係、友人関係</p> <p>10. 対人関係の発達と教育2:遊びの発達、道徳性の発達</p> <p>11. 特別な支援が必要な子どもたち:気になる子ども、障がいの理解</p> <p>12. 教育を取り巻く問題:いじめ、不登校</p> <p>13. 親の理解と子育て支援1:現代の親子関係</p> <p>14. 親の理解と子育て支援2:虐待</p> <p>15. 保育者に求められる役割(乳幼児期の学びを支える保育)</p> <p><b>【テキスト】</b> なし 授業内容に関連した資料を毎回配付する</p> <p><b>【参考図書】</b> 石井正子・松尾直博編著『教育心理学 保育者をめざす人へ』樹村房 坂原明編著『保育のための教育心理学』おうふう 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館</p>		



授業科目名 <b>教育心理学〔2年次〕</b>			担当者 <b>権田 あずさ</b>					
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 適切な教育的働きかけを行うために、子どもの心身の発達や行動、学習のしくみなどについての心理学的理論を学習する。また、子ども一人一人の発達に応じた教育的対応について理解を深める。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学とはなにか</li> <li>2. 子ども観と教育観</li> <li>3. 発達と教育1: 遺伝と環境, 発達段階と発達課題</li> <li>4. 発達と教育2: 思考の発達, ことばの発達</li> <li>5. 学習のしくみ1: さまざまな学習</li> <li>6. 学習のしくみ2: 記憶, 学習環境(記憶に関するアクティビティ及びディスカッションを含む)</li> <li>7. やる気を育てる: やる気・意欲・動機づけ</li> <li>8. 個人差の理解: 知的能力, 性格</li> <li>9. 対人関係の発達と教育1: 親子関係, 友人関係</li> <li>10. 対人関係の発達と教育2: 遊びの発達, 道徳性の発達</li> <li>11. 特別な支援が必要な子どもたち: 気になる子ども, 障がいの理解</li> <li>12. 教育を取り巻く問題: いじめ, 不登校</li> <li>13. 親の理解と子育て支援1: 現代の親子関係</li> <li>14. 親の理解と子育て支援2: 虐待</li> <li>15. 保育者に求められる役割</li> </ol>					
<b>【到達目標】</b> 1. 子どもの心身発達と学習の課程を理解する。 2. 子どもの発達段階に応じた適切な教育的働きかけを理解する。 3. 個人差について理解を深め、適切な支援のあり方について考察を深める。			<b>【テキスト】</b> なし 授業内容に関連した資料を毎回配付する					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 前回までの講義内容を復習し、ノートを整理しておくこと。			<b>【参考図書】</b> 石井正子・松尾直博編著『教育心理学 保育者をめざす人へ』樹村房 坂原明編著『保育のための教育心理学』おうふう 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館					
<b>【留意事項】</b> 資料を配布するのでファイルに入れて整理すること。学習内容は前後する場合がある。								
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験50%, 提出物30%, 受講態度・授業参加の積極性20%								

授業科目名 <b>子ども家庭支援の心理学</b>			担当者 <b>権田 あずさ</b>					
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－	幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 保育実践に必要な知識として、心理学的視点から、子どもの発達にかかわる基本事項について学習する。また、生涯発達の観点から、胎児期から高齢期までの人間の発達の特徴を学ぶ。さらに、子どもとその家庭をめぐる社会的状況と課題について学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胎児期・新生児期の発達</li> <li>2. 乳児期の発達(1) 赤ちゃんの個性, 身体発達と成長, 感覚系の発達</li> <li>3. 乳児期の発達(2) 社会性の初期発達, 運動能力の発達, 感情の発達, ことばの発達, 愛着理論</li> <li>4. 幼児期の発達(1) 手足の発達, 自己理解の発達, 思考の発達, 心の発達</li> <li>5. 幼児期の発達(2) 遊びの発達, 絵の発達, 対人関係の発達</li> <li>6. 児童期・青年期の発達</li> <li>7. 成人期・高齢期の発達</li> <li>8. 家族とは: 人類進化と家族の成立</li> <li>9. 家族の意義と機能</li> <li>10. 子育てを取り巻く社会的状況の変化</li> <li>11. 子育て期のワーク・ライフ・バランス</li> <li>12. 多様な子育て家庭への支援</li> <li>13. 特別な配慮を必要とする家庭への支援</li> <li>14. 子どもを取り巻く生活環境</li> <li>15. 子どもの心の健康(本講義に関する質疑応答)</li> </ol>					
<b>【到達目標】</b> 1. 生涯発達の視点から人間の心身発達の特徴と過程を理解することができる。 2. 子どもとその家庭をめぐる現在の社会的状況と課題について理解することができる。			<b>【テキスト】</b> なし 授業内容に関連した資料を毎回配付する					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 前回までの講義内容を復習し、ノートを整理しておくこと。			<b>【参考図書】</b> 本郷一夫・神谷哲司『子ども家庭支援の心理学』建帛社 武藤安子・吉川晴美・松永あけみ『家庭支援の保育学』建帛社 繁多進『子育て支援に生きる心理学 実践のための基礎知識』新曜社					
<b>【留意事項】</b> 資料を配布するのでファイルに入れて整理すること。								
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験を実施する。期末試験50%, 小テスト・提出物・受講態度・授業参加の積極性50%								

授業科目名		発達心理学Ⅰ [2年次再履修者対象]		担当者		権田 あずさ	
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～ ※2年次再履修者対象
<b>【授業概要】</b> 保育実践に必要な知識として、心理学的視点から、子どもの発達にかかわる基本事項について学習する。また、生涯発達の観点から、胎児期から新生児期、乳児期、幼児期と進む初期発達と、学童期、思春期、青年期、成人期に至る発達、そして老年期、死に至るまでの人間の発達の特徴を学ぶ。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 発達心理学とはなにか(ディスカッション含む) 2. 胎児期:生命のはじまり, 胎児の発達 3. 新生児期:生まれたての赤ちゃんの力, 新生児の特徴 4. 乳児期1:赤ちゃんの個性, 身体発達と成長, 感覚系の発達 5. 乳児期2:社会性の初期発達, 運動能力の発達, 感情の発達, ことばの発達, 愛着理論 6. 幼児期1:手足の発達, 自己理解の発達, 思考の発達 7. 幼児期2:心の発達, 遊びの発達 8. 幼児期3:絵の発達, 対人関係の発達 9. 児童期:道徳性の発達, 社会的学習理論 10. 青年期:アイデンティティ, 性役割 11. 成人期1:恋愛と結婚 12. 成人期2:夫婦関係, 親子関係 13. 老年期:高齢者の成長発達, 死の受容・生きがい 14. 発達をつまづき1:発達障がいとは 15. 発達をつまづき2:その他の気になる子どもたち			
<b>【到達目標】</b> 1. 乳幼児期における心身発達の特徴と過程を理解することができる。2. 生涯発達の視点から人間の発達について理解することができる。							
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 前回までの講義内容を復習し、ノートを整理しておくこと。							
<b>【留意事項】</b> 資料を配布するのでファイルに入れて整理すること。							
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験を実施する。期末試験50%, 小テスト・提出物・受講態度・授業参加の積極性50%				<b>【テキスト】</b> なし 授業内容に関連した資料を毎回配付する			
				<b>【参考図書】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館			

授業科目名 <b>臨床心理学</b>			担当者 <b>岡村 幸代</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 「幼児理解の理論及び方法」ならびに「教育相談（カウンセリングに関する基本的な知識を含む。）の理論及び方法」を学ぶ。具体的には、①幼児期の子どもに関する臨床的問題、②幼児期の子どもやその保護者とのつながり方や理解の仕方、③教育相談の基礎にある理論、役割、ならびに特徴を学ぶ。授業内容への理解をより深めるため、該当部分の講義の後に学生参加の実習を行う授業形式です。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 授業の進め方の説明、臨床心理学とは何か、現代の子どもをめぐる諸問題 2. 幼児期の心の発達に関する基礎知識－ライフサイクル論 3. 幼児期の心の発達に関する基礎知識－愛着 4. 幼児期の気になる行動と発達の問題－幼児期の心理的問題（分離不安等） 5. 幼児期の気になる行動と発達の問題－知的障害、ことばの遅れ 6. 幼児期の気になる行動と発達の問題－自閉症スペクトラム 7. 幼児期の気になる行動と発達の問題－注意欠如・多動性障害、学習障害 8. 幼児期の気になる行動と発達の問題－養育環境の問題 9. 幼児期の子どもへの心理アセスメント－基本的知識及び方法 10. 幼児期の子どもを持つ親への心理臨床的関わり 11. 教育相談とは何か－教育相談の目的と内容 12. 教育相談とは何か－子ども理解の原則 13. 教育相談の技法－子ども理解の方法 14. カウンセリングに関する基礎的な知識 15. 相談の技法－保護者との面接の進め方		
<b>【到達目標】</b> 臨床心理学の立場から、幼児期の子どもや教育相談について理解を深める。基礎知識の習得にとどまらず、子どもや保護者をめぐる多様な問題に対する理解の仕方、支援の方法が理解できる。			<b>【テキスト】</b> 各回に資料を配付する。配付資料はファイルに綴じること。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 各回の配布資料をよく読み復習する。次の講義内容については、関連する身近な問題について参考図書等を参考にして、考えを深めておく。			<b>【参考図書】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館		
<b>【留意事項】</b> 授業への積極的な参加を望む。 配付資料を綴じるファイル1冊を用意しておくこと。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】</b> 15回の授業の後、期末試験を行う。書き込みをした配付資料の提出を求める。 授業への参加度(25%)、各回のミニレポート(15%)、期末試験の結果(60%)により総合的に評価する。 試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。					

授業科目名 <b>家庭支援論Ⅱ</b>			担当者 <b>能登原 英代</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 「家庭支援論Ⅰ」では、現代の日本社会における家族の問題や課題などについて学んだ。「家庭支援論Ⅱ」では、これら現代における子育て家庭の現状を踏まえ、保育者の立場からよりよい子育てのための「家庭支援」について考える。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 家庭支援が求められる背景 2. さまざまな家族とのかかわり 3. 家庭支援に取り組む心構え 4. 幼稚園入園児童の家庭への支援 5. 保育所入所児童の家庭への支援 6. 地域の子育て家庭への支援 7. 保育相談支援の実際 8. 「子育てに苦悩する母親」に関するVTR視聴 9. 地域子育て支援拠点事業の役割 10. 地域子育て支援拠点事業の実際 11. 「現代子育て」に関するVTR視聴 12. 父親の役割 13. 「ひとり親」に関するVTR視聴 14. 特別な配慮を必要とする家庭への支援 15. 家族の気持ちを理解する姿勢		
<b>【到達目標】</b> 家庭の意義と機能をふまえて、家庭生活をとりまく現代社会の問題について知識と理解を深める。そして、子育て家庭を支援するために必要な実践力を身につける。			<b>【テキスト】</b> 新保幸男・小林理 編集 基本保育シリーズ13『家庭支援論』中央法規出版 （教科書は「家庭支援論Ⅰ」と同じ）		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 書籍や新聞、TVなどを通して家族に対する関心を深めること。子育ての現状について認識するため、Eテレ「すくすく子育て」の視聴を勧める。			<b>【参考図書】</b> 小田・日浦・中橋編著『家庭支援論(新版)』北大路書房 吉田眞理著『児童の福祉を支える家庭支援論』萌文書林		
<b>【留意事項】</b> 配布プリントは、学習内容を記入した上で、もれなくファイルすること。プリントファイルの提出を求める。そして、課題としてレポートを課す予定。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】</b> レポート等の提出物30%、筆記試験70%の総合評価とする。 なお、筆記試験の平均点によっては、評価基準割合を変更する。筆記試験の解答解説を配布する。					

授業科目名 <b>教育課程総論</b>			担当者 <b>岡田 典子</b>					
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－	幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 幼稚園教育要領等を踏まえ、保育の理念や目標を実現するための道筋である教育課程や全体的な計画の意義と特徴を理解する。また、課程編成や指導計画作成のための基礎や、評価や記録の方法について理解することで、教育課程の果たす役割やカリキュラム・マネジメントを行う意義について学ぶ。なお、授業では、個人ワークを踏まえたグループワークや討議を随時行う。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 就学前のカリキュラムの特徴 2. 保育における計画の意義 3. 日本におけるカリキュラムの基礎理論 4. 子ども理解に基づく保育の循環 5. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の性格と位置付け・改定内容 6. 教育課程・全体的な計画編成の基本原理と方法 7. 指導計画作成のための基本 8. 保育における評価とカリキュラム・マネジメント 9. 小学校との連携 10. 指導計画の書き方 11. 指導計画の実際(1)ねらいと活動の導入 12. 指導計画の実際(2)活動の展開 13. 保育実践の観察と記録(1)観察及び指導案の作成 14. 保育実践の観察と記録(2)指導案の完成 15. 季節ごとの指導計画				
<b>【到達目標】</b> 幼稚園教育要領等を基準として、教育課程や全体的な計画の意義や編成の方法、評価、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解するとともに、指導案作成の基礎を身につける。				<b>【テキスト】</b> 千葉武夫・那須信樹編『保育の計画と評価(基本保育シリーズ13)』中央法規、2019年。				
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 授業で提示された課題を、次回授業までにまとめること。				<b>【参考図書】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』				
<b>【留意事項】</b> 講義や課題の内容でわからないことは、オフィスアワーなどを活用して、個別に相談にいくこと。								
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験(40%)、課題(40%)、授業での学習態度(20%)で総合的に評価する。学習態度は、授業への取り組みやコメントペーパーの提出などで評価する。期末試験については、希望者には個別に問題解説を行う。								

授業科目名 <b>保育内容総論</b>			担当者 <b>荒島 礼子</b>					
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 幼稚園・保育園・認定こども園について理解を深め、子どもにとってどのような経験が大切かを考えていきます。実際の遊びを観察したり、自分自身が経験したりする中で、保育内容をより具体的に理解していく。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 保育の基本と保育内容。園生活をイメージする 2. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育内容の考え方 3. 幼稚園・保育所の一(保育園見学) 4. 幼稚園・保育所の一(事例を通して) DVD観賞 5. 幼児理解と保育内容 6. 環境と保育内容 7. 遊びと学び 8. 保育内容と計画 9. 領域と保育内容「健康」 演習「オペレッタ」 10. 領域と保育内容「人間関係」 演習「オペレッタ」 11. 領域と保育内容「環境」 演習「オペレッタ」 12. 領域と保育内容「言葉」 演習「オペレッタ」 13. 領域と保育内容「表現」 演習「オペレッタ」 14. 保育内容における現状と課題 (オペレッタ中間発表) 15. 子育て支援と保育内容・まとめ				
<b>【到達目標】</b> 遊びを中心とした保育内容や総合的な指導の在り方について理解を深め、実践を通して具体的な保育内容について学び、総合的な保育の視点を養う。				<b>【テキスト】</b> 乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容総論				
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> グループワークや実践を行います。クラスでオペレッタを完成させ、保育園や子育て広場で発表します。				<b>【参考図書】</b> 保育所保育指針				
<b>【留意事項】</b> オペレッタはクラスでまとまって取り組むため、お互いに協力すること。								
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験を行う。試験60%、受講態度10%、オペレッタへの取り組み20パーセント、提出物10%で評価する。評価については希望者に個別に伝える。								

授業科目名 <b>表現 I A[音楽表現]</b>				担当者 <b>米倉 孝</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 幼児の音楽表現の資質・能力を理解し、その表現を実際に動いて指導できるようにする。そのためには、音楽の基礎知識(理論)、音楽リズム、音楽遊び(身体表現含む)、歌唱、即興表現など幅広く理解を深め、実践できることを想定してより良い指導方法を身に付ける。音楽における協調性、又、それによる喜びを分かち合う心を養い、自己の音楽の感性および表現力を高めることを目的とする。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 授業の説明、保育現場における音楽遊びの基本的理解について 2. 音楽表現遊びについて、器楽表現(奏でる)リズム、音楽基礎楽典 3. 手作り楽器製作方法について、器楽表現(奏でる)リズム 4. 音と動きの表現(動く)手作り楽器発表合奏演、器楽表現(奏でる)、楽典テスト① 5. 幼稚園教育と小学校との連携について、歌唱表現(歌う)、歌唱指導法 6. 幼稚園教育と小学校との連携について、キーボードテスト① 7. 総合的な音楽表現(手遊び曲練習)の理解と表現遊びの活動の工夫と評価 8. 保育の実践例(保育における情報機器・機材の活用について)楽典テスト② 9. 保育の実践例(2)(保育における情報機器・機材の活用について) 10. 歌唱表現(歌う)キーボードテスト②指導案作成の注意点について 11. 歌唱表現(歌う)、歌遊びにおける動きの理解と評価について 12. グループ歌唱テスト、保育現場の遊びの映像から実践保育の取り組みについて 13. 楽典テスト③、模擬保育の振り返りと考察 14. 指導案作成の反省及び指導案提出 15. 総復習、ノート提出チェック		
<b>【到達目標】</b> 童謡曲、その他の曲を合奏で手作りリズム楽器を取り入れて歌う。その為に、ソルフェージュ(正しい譜読み、音程、リズム感)力、音楽の基礎知識を習得する。発表の取り組みを通して、保育現場での「表現」の中での音楽の重要性を理解する。音楽における協調性、又、それによる喜びを分かち合う心を養い、自己の音楽感性、表現力を高める。(全ての授業において毎回プロジェクター使用)			<b>【テキスト】</b> 小林美実著「こどもの歌200曲 続こどもの歌200曲」チャイルド社、 桶谷弘美・熊谷新次郎・杉江正美・高橋悦枝著「やさしく学べる音楽理論」音楽之友社		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 音符を読むことが苦手な学生は毎日1時間以上の予習、復習を必要とする。 <b>【留意事項】</b> 時間外において鍵盤楽器を使用、歌の練習が必要である。毎回授業で要求される教科書、山陽学園短大指定音楽用五線ノート、筆記用具等を持参すること。			<b>【参考図書】</b> 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
<b>【留意事項】</b> ソルフェージュテストは期末試験に準ずる為、忌引、病欠、公欠等の欠席は証明書提出を必要とする。無断欠席は0点とする。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 音楽基礎楽典(30点3回の平均)、グループ歌唱テスト(20点)、ソルフェージュ(30点)、指導案作成、ノートチェック(20点)授業進行中、各個人の進捗を伝え、評価については、希望者には個別に説明を行う。授業態度等により総合評価で評価する。授業進行中、各個人の進捗を伝え、希望者には個別に説明を行う。					

授業科目名 <b>表現 I B[音楽表現]</b>				担当者 <b>大山 史子</b>	
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 保育者として音楽的知識を伴った豊かな感性が求められるので、合奏を通して音楽を心から表現することを楽しむ。ボディパーカッションやリズムアンサンブルを体験し、リズム感覚を養う。たくさんの楽器に触れ、楽器の特性や取り扱い、奏法を学び、より音楽的な合奏を目指していく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 幼児合奏教育概要 2. 楽器の取り扱い説明及び演習 3. リズムトレーニング① リズム遊び、ボディパーカッション 4. リズムトレーニング② 楽器を使ったリズムアンサンブル 5. 木製打楽器の解説・演習・合奏 6. 金属製打楽器の解説・演習・合奏 7. 皮製打楽器の解説・演習・合奏 8. 鍵盤打楽器の解説・演習・合奏 9. 合奏①パート分け・楽譜作り・個人練習 10. 合奏②パート練習・全体練習 11. 合奏指導法① 拍子の理解・総譜の理解 12. 合奏指導法② 演習・指揮 13. 合奏まとめ① 選曲・楽譜作り 14. 合奏まとめ② 個人練習・パート練習 15. 合奏まとめ③ 全体練習		
<b>【到達目標】</b> 簡単なリズムアンサンブルを体験したり、楽器の取り扱いや特性・奏法を習得する。より音楽的な合奏にするための指導法を理解する。			<b>【テキスト】</b> 「保育者のためのリズム遊び」音楽之友社		
<b>【準備学習の内容】</b> 音符、簡単なリズムを理解しておく。楽譜作り、個人練習が授業時間外に必要な場合がある。			<b>【参考図書】</b> 「創造性を育む音楽あそび・表現あそび」音楽之友社 「わくわく音遊びでかんたん発表会」すずき出版		
<b>【留意事項】</b> A4クリアファイルとHB～2Bの鉛筆を用意すること。指示のあるときには、のりとはさみを持参すること。(定員20人)					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験60%、授業態度(積極性と習得度)40%の総合評価とする。 評価については、希望者には個別に説明を行う。					

授業科目名 <b>表現ⅡA[造形表現]</b>				担当者 <b>児玉 太一</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 身近素材と用具を用いた表現技法の総合的活用による作品制作を行う。素材の持つ感触と特性、用具の使用を考察し、幼児の造形活動における支援方法について理解を深める。また、壁面装飾をはじめとした保育環境での展示を通じて、作品と鑑賞者、相互の視点について実践的に学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 幼児の造形活動における素材・材料・用具の特性と技法、支援方法の理解 2. 紙の造形(1) 幼児とはさみ、切り紙 3. 紙の造形(2) カード作り、ポップアップの手法の理解 4. 紙の造形(3) 壁面装飾デザイン案、壁面装飾マット紙選定 5. 四季の保育環境づくり(1) 壁面装飾12ヵ月 水張り・原寸大下絵作成 6. 四季の保育環境づくり(2) 壁面装飾12ヵ月 平面表現 7. 四季の保育環境づくり(3) 壁面装飾12ヵ月 平面表現・立体表現 8. 四季の保育環境づくり(4) 壁面装飾12ヵ月 平面表現・立体表現・接着材と接着方法 9. 四季の保育環境づくり(5) 壁面装飾12ヵ月 立体表現 10. 四季の保育環境づくり(6) 壁面装飾12ヵ月 立体表現・作品説明下書き 11. 四季の保育環境づくり(7) 壁面装飾12ヵ月 完成・作品説明清書 12. 壁面装飾12ヵ月展示活動、廃材・紙を素材としたおもちゃ作り 13. 見立て遊びの造形 バクバク人形制作・模擬保育の実践と考察 14. 指導案作成 作品と記録による振り返りから指導案を作成する 15. 作品の発表と鑑賞 ICT機器を用いた相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する		
<b>【到達目標】</b> 発達に伴う造形表現活動を理解し、必要な援助や適切な材料、用具などの環境構成、造形的な保育活動を考えられることを目指す。			<b>【テキスト】</b> 槇 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 各課題は、授業時間内の実践のみでは完成に至らない為、課題毎に事前の予習、授業後の復習が必要となる。配布のワークシート(感想と記録)と課題作品は授業時に提示した期限までに進行し、提出する事。			<b>【参考図書】</b> 必要に応じて適宜、プリントを配布する		
<b>【留意事項】</b> 教科書・スケッチブックは毎時必ず持参する事。その他、各課題で必要となる準備物は授業内で適宜連絡する。活動に際しては、華美な服装は避け、必要に応じ、エプロンを着用すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b>  作品評価(60%) レポート・ワークシート(20%) 課題への取り組みなど平常点(20%)					

授業科目名 <b>表現ⅡB[造形表現]</b>				担当者 <b>森 弥生</b>	
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 子どもの創造性を育む造形表現について、保育実践と関連付けながら制作を通して学ぶ。教育実習や保育現場で役立つ造形物を制作し、実地に活用する体験を通して、子どもの創造性を育むものづくりの価値と喜びを感受し、保育者としての資質を高める。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 幼児の遊びと造形活動について 2. エプロンシアターの制作① ― シナリオ作成 ― 3. エプロンシアターの制作② ― キャラクターや背景・仕掛けの型づくり ― 4. エプロンシアターの制作③ ― 切り出し・縫製 ― 5. エプロンシアターの制作④ ― 縫製 ― 6. エプロンシアターの制作⑤ ― 縫製・仕掛けづくり ― 7. エプロンシアターの制作⑥ ― 仕掛けづくり・装飾 ― 8. エプロンシアターの制作⑦ ― 装飾・仕上げ― 9. エプロンシアターの制作⑧ ― 仕上げ・BGMなどの工夫 ― 10. エプロンシアターの制作⑨ ― 制作物の追加・シナリオ修正 ― 11. エプロンシアターの上演・相互評価 12. 遊ぶおもちゃの制作① ―身近な材料を生かしたおもちゃ― 13. 遊ぶおもちゃの制作② ―動く仕組みのあるおもちゃ― 14. 遊ぶおもちゃの制作③ ―みんなで楽しめるおもちゃとゲーム作り― 15. まとめ・レポート		
<b>【到達目標】</b> 子どもの遊びや造形表現を豊かに展開するために必要な知識や造形技術を習得し、オリジナルエプロンシアターや子どもの遊びに寄与するおもちゃづくりなど、教育実践に役立つ成果物を制作することができる。			<b>【テキスト】</b> 1年次で購入した造形表現の教科書を使用します。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 劇表現のための歌やお話や絵本・BGMなどは、図書館やwebなどを活用して予め準備して授業に臨むこと。また、より効果的な表現のための材料などを自分で収集しておくこと。			<b>【参考図書】</b> 花篤 實監修 「幼児造形教育の基礎知識」 建帛社 「あそびの指導 乳幼児編」 同文書院		
<b>【留意事項】</b> エプロンシアター代 2300円に加えて、エプロンシアターに使うフェルトなどの材料を別途各自で購入する。後半の動くおもちゃ作りのための紙バックなども持参する。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ① 事前準備・調査等の意欲・態度 20% ② 創意工夫とスキル向上へのプロセス評価(アイデアスケッチ・シナリオ等を含む) 30% ③ 課題の完成と上演・実演 50%					

授業科目名 <b>表現ⅢA[身体表現]</b>				担当者 <b>岡田 吉加</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 音楽・リズムと一緒に身体を動かし、身体全体で表現することを学び、幼児へ指導できるように基礎技能を身につける。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<b>【到達目標】</b> 子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うために必要な基礎知識や技術を修得し、実践できるようにする。			1. オリエンテーション 授業説明 2. ダンスのステップ① 基本ステップ(歩く・走る・跳ぶ など) 3. ダンスのステップ② 基本から発展させたステップ 4. ダンスのステップ③ ステップの組み合わせ・二人組でのステップ 5. ダンスのステップ④ テスト 6. リトミック① 拍子・音符を身体で表現する 7. リトミック② リズムを身体で表現する 8. リトミック③ カノンを身体で表現する 9. リトミック④ テスト 10. 指あそび・手あそび① 覚えておきたい・四季・ジャンケンの手あそび 11. 指あそび・手あそび② 乳児・集会向けの手あそび、手話ソング 12. 模倣① 動物・遊び・行事 13. 模倣② 自然・乗り物・仕事 14. 模倣③ ジェスチャーゲーム 15. 模倣④ テスト		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 常に色んなことに目を向け、「観察する目」を持つことを心がけること。特に子供が興味をもつと思われる事柄は重点的に。			<b>【テキスト】</b> 「続・指あそび・手あそび123」 阿部直美(チャイルド社)		
<b>【留意事項】</b> 指定の体操服(名札を付ける)、トレーニングパンツ、体育館シューズ(もしくは素足)、髪は邪魔にならないようにまとめる。			<b>【参考図書】</b> 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」 文部科学省		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> テスト50%、授業への取り組み態度30%、レポート提出(毎回の授業内容、感想を書く)20%を総合評価する。期末試験は行わない。欠席・見学者はその時間のレポートを提出すること。実技授業であるため、欠席数が1/3未満であっても再履修の場合がある。原則遅刻は認めない。					

授業科目名 <b>表現ⅢB[身体表現]</b>				担当者 <b>岡田 吉加</b>	
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 表現ⅢAでの内容を応用し、より発展した創作活動へと繋げて行き、保育の現場で指導できるよう技能を身につける。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<b>【到達目標】</b> グループでの活動を通して、自らアイデアを出し、お互いに協力すること、あらゆる工夫をしていくことを学び、実践できるようにする。			1. オリエンテーション 授業説明 2. 身体ほぐしとコミュニケーション 3. 指あそび① 選曲・振付 4. 指あそび② 練習 5. 指あそび③ 発表 6. 指あそびの応用① 物語作り 7. 指あそびの応用② 振付 8. 指あそびの応用③ 練習 9. 指あそびの応用④ リハーサル 10. 指あそびの応用⑤ 発表 11. 創作ダンス① 選曲 12. 創作ダンス② 振付 13. 創作ダンス③ 練習 14. 創作ダンス④ リハーサル 15. 創作ダンス⑤ 発表		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 常に色んなことに目を向け、「観察する目」を持つことを心がけること。特に子供が興味を持つと思われる事柄は重点的に。			<b>【テキスト】</b> 「続・手あそび指あそび123」 阿部直美(チャイルド社)		
<b>【留意事項】</b> 指定の体操服(名札を付ける)、トレーニングパンツ、体育館シューズ、髪は邪魔にならないようにまとめる。			<b>【参考図書】</b> 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」 文部科学省		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> テスト50%、授業への取り組み態度30%、レポート提出20%を総合評価する。期末試験は行わない。実技授業であるため、欠席数が1/3未満であっても再履修の場合がある。原則遅刻は認めない。発表等終了時に講評を行う。					

授業科目名 <b>健康A</b>				担当者 <b>蟻正 博美</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 幼児の発達や学びの課程を理解し、「生きる力」を培うために必要な健康に関する望ましい活動と援助を学ぶ。さらに、「健康」における具体的な保育を構想する方法を身に付ける。  <b>【到達目標】</b> 幼稚園教育要領に示された教育の基本を踏まえ、「健康」における具体的な保育を構想する方法を理解する。  <b>【準備学習の内容】</b> 幼児の生活や遊びについて興味を深め、テキストを読んでおくこと、また、健康便りの実習、をする予定なので、事前に調べておいてください。  <b>【留意事項】</b> 幼児の運動遊びを工夫して考え、実践するため、動きやすい服装で臨んでください(事前に伝えます)。および、持ち物などの忘れ物がないようにしてください。  <b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・毎回のレポート 10% ・出席状況および取り組む姿勢 20% ・遊びのカード、健康便り、指導計画などの作成を総合的に評価 20% ・期末テスト 50%			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 保育・幼児教育の基本 2. あそびを通して総合的な保育・幼児教育方法について 3. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「健康」のねらい及び内容の理解 4. 幼児の健康 5. 運動機能の発達と心の発達 6. 幼児の発達理解とグループワーク ③ 7. 人間関係・社会性の発達と保育 8. 幼児の遊びの発達と健康及び実際 ④ 9. 幼児の発達と運動遊び及び発表 ④ 10. 幼児の体格・運動能力の現状と課題 11. 幼児の生活スタイル及び生活習慣の自立と指導 12. 幼児の体格と運動能力について(グループワーク) ③ 13. 幼児の安全管理と安全教育 14. 幼児のけがと病気の応急措置の実際 ⑤ 15. 保育計画と指導案及び小学校への接続について。まとめ ⑤  <b>【テキスト】</b> 保育内容「健康[新版]」 民秋言、穂丸武臣 北大路書房  <b>【参考図書】</b> 「事例で学ぶ保育内容 領域 健康」 無藤隆、倉持清美 編著 萌文林 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型保育要領」		

授業科目名 <b>健康B</b>				担当者 <b>中川 淳子</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 幼児の心身の発達や学びの過程を理解し、幼児のあそびについて学習する。「健康」における具体的な保育を想定した指導案の作成や保育を構想する方法を身に付ける。  <b>【到達目標】</b> 幼稚園教育要領に示された教育の基本を踏まえ、「健康」のねらい及び内容を理解する。幼児期の発達や学びの過程を踏まえて具体的な子どもの遊びを考えると共に指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。  <b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 次回の授業前までに指示された課題について学習してこよう。  <b>【留意事項】</b> 実技授業の場合は定められた体操服を着用 屋内シューズの用意  <b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 総合評価(出席、授業態度、課題テスト、レポート提出等)によって評価を行う。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. ガイダンス 乳児期における運動の意義(多様な動きの獲得の意義) 2. 子どもの育ちと領域「健康」 3. 幼児期における生活習慣の確立を考える 4. 子どもの「健康」をめぐる現状と課題 5. 幼児のあそびの発達と健康 6. 幼児の運動発達と体力・運動能力との関わり 7. 幼児期運動指針について 8. 幼児のあそび①(年間の運動あそびを考える)跳び箱あそび 9. 幼児のあそび②(年間の運動あそびを考える) 10. 幼児のあそび③(集団で楽しむ運動あそびを考える) 11. 色はこを使った運動あそびを考える 12. 幼稚園での模擬授業 13. 安全管理と安全教育を考える 14. 保育計画と指導案 15. 保育計画と指導案 とまとめ  <b>【テキスト】</b> 検討中  <b>【参考図書】</b> 倉持清美 編者 事例で学ぶ保育内容シリーズ<領域>健康 萌文書林		



授業科目名 <b>言葉B</b>			担当者 <b>仲田 輝康</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 言葉遊びの他、お話、絵本、紙芝居等の主に文学的分野の児童文化財について学習し、その面白さや子どもにとっての意味を考え、それらを実際に保育の場で実践できるように練習していく。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 幼稚園実習・保育所実習の振り返り 2. 言葉遊びの研究 3. 言葉遊びの指導案作成・模擬保育 4. お話の基礎 概論・ももたろう 5. お話の基礎練習(1)かさ地蔵 6. お話の基礎練習(2)いっすんぼうし 7. お話の実践演習(1)うらしまたろう 8. お話の実践演習(2)かちかち山 9. お話の実践演習(3)おむすびころりん 10. 子どもに読み聞かせる絵本(1)絵本リストの作成 11. 子どもに読み聞かせる絵本(2)実践演習 12. 紙芝居の基礎知識 13. 紙芝居の実践演習 14. お話の原稿作成 15. お話・紙芝居の発表 児童文化財の振り返り		
<b>【到達目標】</b> 言葉Aの学習を受け、言葉遊び、お話、絵本、紙芝居などの児童文化財を中心に、保育者として求められる実践力を身に付ける。			<b>【テキスト】</b> 福沢周亮監修『新版 保育内容・言葉』(教育出版) 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 演習・発表が続くので、授業までに必要な教材の準備をしたり発表ができるような準備をしておくこと。			<b>【参考図書】</b> 特になし		
<b>【留意事項】</b> 演習・発表が続くので、休まないようにすること。また演習・発表の様子を見て、授業の順番等は入れ替えることもある。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業中の作業等に対する意欲・態度 15% 提出課題 45% 演習・発表 40% 授業中に作成した提出課題については採点をし返却する。発表・演習についてはその時々評価の観点を示し、説明する。					

授業科目名 <b>環境A</b>			担当者 <b>荒島 礼子</b>		
単位数	1 単位	開講期	通年(前期)	区分	必修科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 子どもが身のまわりの様々な環境に触れて、好奇心や探究心をもって関わり、遊びを広げ深めていく経験について、その内容や方法を考えていく。又具体的な指導法について指導案を立案し「環境」領域におけるねらい及び内容について理解を深める。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 幼児教育の基本とは 領域「環境」について考える 2. 子どもの育ちと領域「環境」 3. 自然に親しみ、植物や生き物に触れる 4. 子どもと環境のかかわり(1)岡山市内の幼稚園児と夏野菜を植える 5. 子どもと環境のかかわり(2)岡山市内の幼稚園児と夏の花を植える 6. 生き物に親しみ命を大切にする 7. 季節の変化に気付く 8. 栽培についての観察記録をまとめフォトブックを作り発表する。		
<b>【到達目標】</b> 領域「環境」のねらい内容について理解を深めるとともに、学生自身が社会や自然の事象など身近な環境にかかわる力を育て、感性を豊かにし、保育の実践力を身につける。			<b>【テキスト】</b> 無藤隆監修：新訂「事例で学ぶ保育内容 領域環境」萌文書林		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 栽培している植物について常に観察し、記録するようにすること。どんぐりや松ぼっくり、ペットボトルなど身近な保育材料の収集に努める。			<b>【参考図書】</b> 特になし		
<b>【留意事項】</b> 当番制で植物の水やりや草取りなど世話をし、観察記録をつける。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 通年を通して後期で評価する。					

授業科目名 <b>環境A</b>				担当者 <b>荒島 礼子</b>	
単位数	1 単位	開講期	通年(後期)	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>子どもが身のまわりの様々な環境に触れて、好奇心や探究心をもってかかわり、遊びを広げ深めていく経験について、その内容や方法を考える。又、具体的な指導法について指導案を立案し「環境」領域におけるねらい及び内容について理解を深める。</p> <p><b>【到達目標】</b> 領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、学生自身が、社会や自然の事象など身近な環境にかかわる力を育て、感性を豊かにし、保育の実践力を身につける。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 栽培している植物について常に観察し、記録するようにすること。どんぐりや松ぼっくり、ペットボトルなど身近な保育材料の収集に努める。</p> <p><b>【留意事項】</b> 当番制で植物の水やりや草取りなど世話をし、観察記録をつける。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験を行う。試験70%、受講態度10%、植物の世話及び観察ノート10%、課題10% 評価については希望者に個別に伝える。</p>			<p>1. 実習を終え、園の環境について考察する。</p> <p>2. 室内の遊具・教材・設備とのかかわり</p> <p>3. 領域「環境」と指導計画。冬の野菜や球根を植える。</p> <p>4. 領域「環境」と指導計画。</p> <p>5. 文字や標識、図形に関心を持つ。</p> <p>6. 遊びや生活の情報に興味を持ち、地域に親しむ。(日本の文化を考える)</p> <p>7. 領域「環境」と保育の実際。まとめ</p>		
<b>【テキスト】</b>			無藤隆監修:新訂「事例で学ぶ保育内容 領域環境」萌文書林		
<b>【参考図書】</b>			特になし		

授業科目名 <b>環境B</b>				担当者 <b>荒島 礼子</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>「環境A」の授業を踏まえ、保育内容「環境」についてより具体的な指導の在り方を探る。動植物の世話や地域環境等を考えた授業を実施し、遊びや活動が子どもの内面にどのような影響を及ぼすか、又、より興味を引く活動とは何かを実践を含めながら学んでいく。</p> <p><b>【到達目標】</b> 領域「環境」指導について、指導案の立案、評価の観点などを実践を通して考え、子どもの育ちと指導の在り方を理解する。又、学生自身の感性を高める。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 身のまわりの様々な事象に関心を持ち、観察しておく。飼育栽培している動植物の世話をする。</p> <p><b>【留意事項】</b> 当番制で植物や飼育物の世話をし、観察記録をつけ、観察フォトブックを完成させる。作業のしやすい服装で参加すること。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験を行う。試験60%、受講態度10%、植物の世話及び観察ノート20%、課題10% 評価については希望者に個別に伝える。</p>			<p>1. 幼児教育の基本 領域「環境」と他領域の関係</p> <p>2. 子どもの育ちと領域「環境」環境とのかかわりを支える「人」</p> <p>3. 自然に親しみ植物や生き物に触れる 栽培</p> <p>4. 自然に親しみ植物や生き物に触れる 栽培</p> <p>5. 自然に親しみ植物や生き物に触れる 飼育</p> <p>6. 自然に親しみ植物や生き物に触れる 飼育</p> <p>7. 自然を取り入れた保育 指導計画作成</p> <p>8. 自然を取り入れた保育 指導計画作成</p> <p>9. 物や道具にかかわって遊ぶ 物の性質や仕組みに気づく</p> <p>10. 物や道具にかかわって遊ぶ 法則性や因果関係をとらえる</p> <p>11. 文字や標識、数量や図形に関心をもつ</p> <p>12. あそびや生活の情報に興味をもつ</p> <p>13. 地域に親しむ</p> <p>14. 幼児教育の現代的課題と領域「環境」</p> <p>15. まとめ</p>		
<b>【テキスト】</b>			無藤隆監修:新訂「事例で学ぶ保育内容 領域環境」萌文書林		
<b>【参考図書】</b>			特になし		

授業科目名 <b>人間関係A</b>				担当者 <b>森 英子</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>幼児教育において育みたい「資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解できるよう学習する。保育者として子どもたちの人とのかかわりを支える機能を意識し、保護者や岡山市内の地域、関係機関との連携も含めて、親しい人とのかかわりを築く発達の道筋や、人とのかかわりを支えるケアを考える。そして、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>領域「人間関係」のねらい及び内容について、各領域の内容との関連性も含め理解する。また、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ具体的な指導場面を想定し実践する方法を身につける。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b></p> <p>前回までの復習をして、次回の講義に臨むこと。</p> <p><b>【留意事項】</b></p> <p>授業内容は全体の流れを考え、変更することがある。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b></p> <p>期末試験50%、レポート等の提出物40%、授業への取り組み・意欲・態度等10% 試験については、特に正解率の低かった問題などについての講評を掲示する。</p>			<p>1. 領域「人間関係」におけるねらいと内容</p> <p>2. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」</p> <p>3. 人とのかかわりから見る乳幼児期の発達—人とのかかわりの始まり</p> <p>4. 人とのかかわりから見る乳幼児期の発達—仲間とのかかわりの育ち</p> <p>5. 遊びの中の人とのかかわりの育ち—人とのかかわりを支える「遊び」</p> <p>6. 遊びの中の人とのかかわりの育ち—「遊び」を通して生まれる人とのかかわり</p> <p>7. 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割</p> <p>8. 保育者に求められている人間関係</p> <p>9. 領域相互の関連性と指導計画(グループワーク)</p> <p>10. 領域相互の関連性と保育展開—指導案作成</p> <p>11. 領域相互の関連性と保育展開—遊びの実施</p> <p>12. 領域相互の関連性と保育展開—発表</p> <p>13. 人とのかかわりが難しい子どもの支援:保護者への支援とさまざまな連携</p> <p>14. 園、家庭、地域の生活と人とのかかわり</p> <p>15. 領域「人間関係」における今日的課題</p> <p><b>【テキスト】</b></p> <p>咲間まり子編者『保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」[第2版]』株式会社みらい</p> <p><b>【参考図書】</b></p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説書』、内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』</p>		

授業科目名 <b>人間関係B</b>				担当者 <b>森 英子</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>幼児教育において育みたい「資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解できるよう学習する。</p> <p>子どもたちが親しい人や仲間とのかかわりを築く発達の道筋を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定し、想定した保育を構想することを考える。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>領域「人間関係」の指導の基盤となる幼児の人とかかわる力に関する専門的事項についての知識を身につける。また、幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定し、指導案の書き方や実践する方法を身につける。</p> <p><b>【予習・復習等準備学習の内容】</b></p> <p>前回までの復習をして、次回の講義に臨むこと。また、模擬保育の準備(指導案作成、遊びの準備等)を期日までにすること。</p> <p><b>【留意事項】</b></p> <p>授業内容は全体の流れを考え、変更することがある。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b></p> <p>レポートの提出20%、指導案の提出30%、模擬保育30%、授業への取り組み・意欲・態度等20%等の総合的に評価する。</p> <p>レポートや指導案のフィードバックのため、オフィスアワーを設け、問題解決や採点基準などの説明をする。</p>			<p>1. 領域「人間関係」のねらいおよび内容</p> <p>2. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」</p> <p>3. 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割:イメージの共有と試行錯誤の課程</p> <p>4. 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割:自己主張・葛藤・育ち合い</p> <p>5. 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割:協同的な遊び</p> <p>6. 領域相互の関連性と保育展開:3歳未満児の指導案作成</p> <p>7. 領域相互の関連性と保育展開:3歳未満児対象の模擬保育</p> <p>8. 領域相互の関連性と保育展開:3歳児の指導案作成</p> <p>9. 領域相互の関連性と保育展開:3歳児対象の模擬保育</p> <p>10. 領域相互の関連性と保育展開:4歳児の指導案作成</p> <p>11. 領域相互の関連性と保育展開:4歳児対象の模擬保育</p> <p>12. 領域相互の関連性と保育展開:5歳児の指導案作成</p> <p>13. 領域相互の関連性と保育展開:5歳児対象の模擬保育</p> <p>14. 人とのかかわりが難しい子どもへの対応</p> <p>15. 領域「人間関係」における今日的課題</p> <p><b>【テキスト】</b></p> <p>特になし</p> <p>プリント等資料の配布</p> <p><b>【参考図書】</b></p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説書』、内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』</p>		

授業科目名 <b>社会的養護Ⅱ</b>			担当者 <b>仁木 健次</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～	
<b>【授業概要】</b> 子どもと家庭の福祉は、児童福祉法制定後、施設養護と家庭養護の2本柱でとらえられてきた社会的養護体系も、時代に即した対応が求められている。社会的養護の要としての保育士が常に子どもと向かい合い寄り添っていきけるよう、その基礎的知識と技法を学ぶ。なお第6回は、県中央児童相談所主宰の「里親出前講座」の受講を通して、里親及び施設職員の体験談を聞くことにより社会的養護について視野を広げる。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 社会的養護とは何か - 社会的養護の歴史と課題- 2. 社会的養護と保育士 - 児童福祉施設と里親制度- 3. 社会的養護の基本原則 - 権利の尊重・個別化・親子関係の尊重と調整等- 4. 社会的養護のプロセス - 現状と課題 事例から学ぶ- 5. 基本的な社会的養護援助・支援 - 養護系施設の日常生活援助等- 6. 基本的な社会的養護援助・支援 - 県中央児相 里親出前講座- 7. 基本的な社会的養護援助・支援 - 障がい児系・治療系・育成系施設の援助等- 8. こころの援助 - 安心と安全の保障と愛着関係の形成- 9. 子どもとのコミュニケーション - ハロー効果・ポリアナ効果・ピグマリオン効果- 10. 虐待を受けた子どもへの支援 - 治療的アプローチ 事例から学ぶ- 11. 親子関係の援助・支援 - 家族再統合への支援 事例から学ぶ- 12. 地域・学校との関係づくり - 事例から学ぶ- 13. 自立への援助・支援 - リーピングケアとアフターケア- 14. 児童福祉施設の運営 - 運営と管理・ハインリッヒの法則- 15. 児童福祉施設の援助者としての保育士 - 資質と倫理・専門性-		
<b>【到達目標】</b> 社会的養護の現場において、直面するであろう子どもの権利、日常生活支援、自立への支援、家族再統合、地域との連携等について、施設養護の基本原則に即して学習する。			<b>【テキスト】</b> 辰己隆・岡本眞幸編集「三訂 保育士をめざす人の社会的養護内容」(株)みらい		
<b>【予習・復習準備学習の内容】</b> 準備学習は特に必要ないが、日ごろから子どもの問題に関するマスコミ報道等に関心を寄せてもらいたい。			<b>【参考図書】</b> 伊達悦子・辰己隆編集「保育士をめざす人の社会的養護」(株)みらい 神戸賢次・喜多一憲編「演習児童の社会的養護内容」(株)みらい		
<b>【留意事項】</b> 必要に応じて資料を配布、DVD等の視聴をする。適宜、レポート、リアクションペーパー等の提出を求める。関係機関との調整で授業内容等の変更はあり得る。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験、課題レポート、リアクションペーパー(授業意欲)等により総合的に評価する。その比率はおおむね7:2:1である。					

授業科目名 <b>乳児保育Ⅰ</b>			担当者 <b>木下 春美</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養： 幼児教育：1年～	
<b>【授業概要】</b> 乳児保育の意義と目的、歴史的変遷を学び、保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。乳児期の発達を踏まえた保育内容と体制、職員間や保護者・地域との連携・協働の方法について理解する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2. 乳児保育の役割と機能 3. 乳児保育における養護及び教育 4. 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会状況と課題 5. 保育所における乳児保育 6. 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 7. 家庭的保育等における乳児保育 8. 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 9. 3歳未満児の生活と環境 10. 3歳未満児の遊びと環境 11. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 12. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 13. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 14. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 15. 乳児保育のまとめ(乳児保育の現状と課題についてまとめる)		
<b>【到達目標】</b> 基礎的事項(理念や現状、体制など)の理解を深めた上で具体的な保育の方法や環境を学び、保育の実践力を習得させる。			<b>【テキスト】</b> 入江慶太編著 乳児保育一子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み一 教育情報出版		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 日頃から子どもの問題に関するマスコミ報道や、乳児の生活や遊びに興味、関心を持ってもらいたい。			<b>【参考図書】</b> 厚生労働省『保育所保育指針』 田中真介『発達が分かれば子どもが見える』 ぎょうせい		
<b>【留意事項】</b> 必要に応じて資料を配布、DVD等の視聴をし、適宜レポート等の提出を求める。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・課題レポート 20% ・出席状況及び取り組む姿勢20% ・期末試験 60%					

授業科目名 <b>乳児保育</b>			担当者 <b>蟻正 博美</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 3歳児未満児の発達と保育について学びながら、具体的な場面における保育士の役割について理解する。また、乳児が安心して自分を発揮できる場となるように環境を整え、乳児の生活や遊びを大切に計画・援助の方法を学ぶ。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション「乳児保育」に関する基本を考える 2. 乳児保育とは何か(乳児とは、乳児保育の見直しなど) 3. 乳児保育の成り立ち(乳児保育の変遷、保育要領における乳児保育の位置づけ) 4. 乳児保育を支える基本(一人ひとりの発育・発達、一人ひとりへの応答的な関わり) 5. 3歳児未満児を中心に考える(職員間の連携、保護者とのよりよい関係など) 6. 3歳児未満児の成長発達と保育(0か月～6か月未満児について学び発表する)④ 7. 3歳未満児の成長発達(6か月～1歳未満児について学び発表する)④ 8. 3歳未満児の成長発達と保育(1歳児～2歳未満児について学び発表する)④ 9. 3歳未満児の成長発達と保育(2歳～3歳未満児について学び発表する)④ 10. 乳児保育の方法と実習(ディリープログラムとは)⑤ 11. 乳児保育における計画の実際(保育計画の意義と必要性について)⑤ 12. 乳児保育の記録と評価 ④ 13. これからの乳児保育に求められること(家庭・園・地域における子育て支援) 14. 乳児保育における次世代のキーワード(多様な乳児保育の展開など) 15. 乳児保育のまとめ(乳児の発達と保育を総合的にまとめる)		
<b>【到達目標】</b> 乳児のそれぞれの発達過程を正しく理解し、それを踏まえての生活や遊びなど総合的な保育および、保育士の応答的な関わりや援助の方法を学ぶ。			<b>【テキスト】</b> 『乳児保育』一子ども・家庭・保育者が紡ぐ営みー 教育情報出版		
<b>【準備学習の内容】</b> 乳児の生活や遊びについて興味を深め、テキストを読んでおくこと、また、各年齢に適した手遊びやおもちゃについて調べておきましょう。			<b>【参考図書】</b> 見る・考える・創りだす「乳児保育」 CHS子育て文化研究所 「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園・教育・保育要領」 内閣府・文部科学省・厚生労働省		
<b>【留意事項】</b> 乳児のおもちゃ作りでは、必要な材料や裁縫用具などを準備しておきましょう。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・毎回のレポート 10% ・出席状況および発表などの取り組む姿勢 20% ・おもちゃの製作など総合的に評価 20% ・期末試験 50%					

授業科目名 <b>障がい児保育</b>			担当者 <b>花房 香</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 障がいは社会環境によって作り出される側面があるという事実を念頭に、さまざまな障がいについての基礎的知識と、その支援方法等について学習する。 障がいは社会環境によって作り出される側面があるという事実を念頭に、さまざまな障がいについての基礎的知識と、その支援方法等について学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 障がいとは何か 2. 障がいのある幼児、児童及び生徒への教育の基本 3. 発達障害者支援法/障害者差別解消法/障害者権利条約 4. 障がいの理解① ー知的障がいー 5. 障がいの理解と保育② ー肢体不自由/聴覚障がい/視覚障がいー 6. 障がいの理解と保育③ ー自閉症スペクトラム障がいー 7. DVD学習「自閉症スペクトラム」等 8. 障がいの理解④ ー注意欠陥・多動性障がい/学習障がいー 9. DVD学習「発達障がい」等 10. 障がいのある生徒の理解に基づく支援計画の作成 11. 発達をうながす生活、あそび、かかわり 12. 職員間の協力 ー事例検討会のすすめ方ー 13. 保護者への支援 ー保護者会との関係などー 14. 保育関連施策 ー専門機関等との連携ー 15. 障がいはなくても特別な対応が必要な幼児、児童及び生徒の把握と支援		
<b>【到達目標】</b> 近年増加が顕著な発達障害を含めたさまざまな障がいの特性の基本的な理解と関わり方、保護者支援、機関連携等について学ぶ。			<b>【テキスト】</b> 前田泰弘編著「実践に生かす障害児保育」萌文書林		
<b>【準備学習の内容】</b> 必要に応じて資料を配布および映像資料等の視聴をする。適宜、レポート、リアクションペーパー等の提出を求めることもある。			<b>【参考図書】</b> 石部元雄 編著「特別支援教育」福村出版		
<b>【留意事項】</b> 日ごろから子どもの問題に関するマスコミ報道等に関心を寄せてもらいたい。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験、出席、課題レポート、リアクションペーパー等により総合的に評価する。					

授業科目名 <b>教育方法論</b>			担当者 <b>箭引 紀子</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：—		幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要な時期にふさわしい教育方法とはどのような方法なのだろうか。幼稚園教育(保育)の目的・目標を理解したうえで、教育要領に示された小学校以上の教育段階の方法とは異なる幼稚園教育(保育)方法について理論的に学ぶ。また、情報機器やビデオ教材等を用いて幼稚園等において、具体的にその方法がどのように実践されているのか学習する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 「オリエンテーション」 シラバス解説及び幼児期にふさわしい教育方法とは 2. 「幼児教育指導法の歴史」 歴史的展開を学習し、今日の教育方法の意義を学ぶ 3. 「幼児期の発達と教育方法」 発達の理解と幼児教育方法について 4. 「幼児期の教育の目的、目標」 学校教育の基礎を培う資質・能力を育む保育とは 5. 「幼児理解とは」 保育の出発点としての一人一人の幼児を理解することとは 6. 「幼児期にふさわしい教育の方法」 豊かな学びを保障する環境を通しての教育とは 7. 「幼児期にふさわしい教育の方法」 遊びを通しての指導と遊びのなかの学びとは 8. 「幼児の主体的な生活を基盤とする保育」 意図的・計画的な保育の在り方とは 9. 「幼児の主体的な生活を基盤として自己肯定感を育む保育」 保育者の専門性について 10. 「遊びから学びをはぐくむ保育」 遊びを支える保育者の役割(ビデオ視聴を含む) 11. 「方法としての様々な保育形態」保育形態や保育者集団のあり方について 12. 「保育計画と記録」 幼児の体験のふりかえりを情報機器を活用して効果的に行う方法とは 13. 「小学校との連携」 接続スタンダード・アプローチカリキュラムとは 14. 「保育におけるカウンセリングマインド」 特別な配慮を必要とする支援について 15. 「保育における情報機器・教材の活用」 保育指導案を作成する		
<b>【到達目標】</b> 幼児教育の方法・技術について学び「環境を通して行う教育」「遊びを通しての総合的な指導」の中で資質・能力を育む保育の方法を理解する。また、情報機器を効率的に活用、実践できるように学ぶ。			<b>【テキスト】</b> 小田豊・青井倫子 編著『幼児教育の方法』北大路書房 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 次回授業の課題については、情報機器、テキスト等を利用した事前学習を行うこと。			<b>【参考図書】</b> 小田豊・中坪史典編集・著『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法』建帛社 寺見陽子編集『子どもの未来を育む保育・教育の実践知』北大路書房		
<b>【留意事項】</b> 本講義に関心を持ち、意欲的に授業や課題に取り組む、積極的に意見交換をすること。 授業後には提示するレポートを提出すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 講義への取り組み(意欲・態度、レポート等の提出物) 40% 期末試験(60%)で評価を行う。 レポート等のフィードバックのためのオフィスアワーを設け、問題解説等を行う。					

授業科目名 <b>保育・教職実践演習(幼稚園)</b>			担当者 <b>米倉 孝・荒島 礼子・森 英子・岡田 典子</b>		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：—		幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> これまでの授業や実習を振り返り、履修カルテを用いて、幼稚園教諭や保育士として求められる資質能力がどの程度習得されているのかを確認する。その上で、保育者として何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能を補い、その定着を図るとともに、模擬保育や研究保育を通して実践力を向上させる。これらより、保育者として円滑にスタートできるような資質能力を身に付けることを目的とする。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション、履修カルテの作成(全員) 2. 保育者になるための学びと実習の振り返り(全員) 3. 模擬保育① 指導案作成(荒島・森) 4. 模擬保育② 模擬保育(前半:意見交換・講評)(荒島・森) 5. 模擬保育③ 模擬保育(後半:意見交換・講評)(荒島・森) 6. 研究保育① オペレッタ発表準備(荒島・森) 7. 研究保育② オペレッタ発表準備(荒島・森) 8. 研究保育③ オペレッタ発表 ※詳細は、後日、別途指示する。(全員) 9. 研究保育④ オペレッタ発表 ※詳細は、後日、別途指示する。(全員) 10. 課題研究:季節に関わる園行事① グループ討議・発表準備(岡田・米倉) 11. 課題研究:季節に関わる園行事② 発表資料作成(岡田・米倉) 12. 課題研究:季節に関わる園行事③ 発表と振り返り(岡田・米倉) 13. 保育内容の指導力① 幼稚園教諭による講演(岡田・米倉) 14. 保育内容の指導力② 保育士による講演(岡田・米倉) 15. まとめ 保育者としての資質能力の確認(全員)		
<b>【到達目標】</b> ①自己の資質能力を確認し、自己課題を明確にする。②保育者として必要な教科・保育内容等の指導力を習得する。③社会性や対人関係能力、表現力を向上させる。④保育者の職務や幼児児童の理解について確認し、保育現場で必要な能力を習得する。			<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 模擬保育や研究保育、プレゼンテーションについては、授業外でもリハーサルを十分にしておくこと。			<b>【参考図書】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省編『保育所保育指針解説書』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
<b>【留意事項】</b> まもなく保育者として歩み始める者として、授業目標を十分に理解し、意欲をもって授業に臨んでください。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 模擬保育・研究保育・課題研究は各20%、レポート10%、受講態度30%で評価を行う。希望者には結果を説明する。					

授業科目名 <b>教職論</b>			担当者 <b>森 英子</b>		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 幼稚園教諭をはじめ保育士、保育教諭など多様化する保育者像を見すえ、子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性について学びます。まず、法令より幼稚園教諭や保育士の定義、倫理や社会的責任について理解する。そして、保育職の専門性について、その資質・能力及び保育の自己評価について理解する。次に、保育者の協働として各関係機関、保護者、地域との連携、さらにキャリア形成についても学びます。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 保育者の役割 2. 保育者の倫理 3. 保育者の資格と責務 4. 養護と教育 5. 保育者の資質と能力 6. 専門的な知識・技術・判断 7. 保育の省察(グループディスカッション) 8. 保育課程にかかわる保育者の専門性 9. 保育者の専門性と自己評価 10. 園での協働 11. 専門機関との連携 12. 保護者および地域社会との協働 13. 家庭的保育者等との連携 14. 保育者の専門性の発達 15. 保育者のキャリア形成		
<b>【到達目標】</b> 子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性について理解する。教職の意義・役割・倫理・制度的な位置付け・資質能力の向上・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高める。			<b>【テキ】【テキスト】</b> 矢藤誠彦郎・天野珠路編『新・基本保育シリーズ⑦保育者論』中央法規出版 文部科学省『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 前回までの復習をして、次回の講義に臨むこと。			<b>【参考図書】</b> 特になし		
<b>【留意事項】</b> 授業の妨げになる行為は禁止する。また、提出物の期限を厳守する。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験50%、レポート等の提出物30%、授業への取り組み・意欲・態度等20% 試験については、特に正解率の低かった問題などについての講評を掲示する。					

授業科目名 <b>教育実習指導</b>			担当者 <b>森 英子</b>		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	食物栄養：－		幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 「教育実習指導」においては、観察実習の意義と目標、心得、実習日誌の書き方について考察する。そして、教育実習 I〔観察〕までに必要な日誌の作成をする。 また、指導案の書き方についても考察する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 2. 教育実習の意義と目的 3. 実習日誌の書き方(日誌の配布と説明) 4. 実習日誌の書き方(実習生について、意義と目的部分の清書) 5. 実習の心得 6. 幼稚園の一日の流れ 7. 実習の流れと内容 8. 実習日誌の書き方(日誌、記録の書き方) 9. 指導案の書き方 10. 部分指導案作成(グループでおもちゃの作成と遊び方研究) 11. 部分指導案作成 12. 部分指導案作成(自己評価とサンプル指導案の説明) 13. 「観察実習オリエンテーション」(附属幼稚園副園長) 14. 「観察実習オリエンテーション」の復習 15. 実習日誌の書き方、実習日誌の取扱い		
<b>【到達目標】</b> 教育実習の意義や目的、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができるよう実習の準備をする。			<b>【テキ】</b> 監修：田中亨胤、編著者：山本淳子 『0～5歳児 年齢別・実習 完全サポート 記入に役立つ 保育がわかる 実習の記録と指導案～部分実習指導案と連動した遊びつき』、ひかりのくに株式会社		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 実習までに附属幼稚園やその他の保育機関でのボランティアを体験する。			<b>【参考図書】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説書』、 内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
<b>【留意事項】</b> 提出物の期限を厳守すること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・授業態度20% ・提出物40% ・小テスト40% 提出物は、その都度、添削や必要事項の講評を行う。 小テストは、問題解説を行い、場合によりレポート課題を行い、学習内容の復習を行う。					

授業科目名 <b>教育実習Ⅰ〔観察〕</b>				担当者 <b>森 英子</b>	
単位数	1 単位	開講期	集中	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 一日の教育活動のおおよその流れを把握し、教師や幼児の具体的な様子を観察する。そして、指導教諭の補助的な立場で、指導の在り方を理解する。また、毎日の日誌や記録を書くことにより、書き方を身につけると共に学びを深める。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 附属幼稚園での観察実習を1週間実施する。  実習期間 ※土日は休みである。 2020年2月15日(土)～2月21日(金) 2020年2月22日(土)～2月28日(金) 2020年2月29日(土)～3月6日(金) 2020年3月7日(土)～3月13日(金) 上の四つの期間のうち、一つに参加する。  実習内容 実習の中で実習日誌をまとめ、学内で習得した知識・技能をもとに教育現場での経験を深めながら実践力を高め、教師としての自覚を培う。		
<b>【到達目標】</b> 保育の実際を見て、幼児や教師等の具体的な様子を観察する。また、指導教諭の補助的な役割を担うことを通して、幼児の実態と幼稚園教諭の職務内容の特色を理解する。			<b>【テキスト】</b> 監修：田中亨胤、編著者：山本淳子 『0～5歳児 年齢別・実習 完全サポート 記入に役立つ 保育がわかる 実習の記録と指導案～部分実習指導案と連動した遊びつき』、ひかりのくに株式会社		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 「教育実習指導」などの授業内容をよく理解しておくこと。また、履修の要件となっている、所定の単位を取得しておくこと。			<b>【参考図書】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
<b>【留意事項】</b> 実習事前オリエンテーションで指示されていることや実習の心得の内容を守ること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 実習園の評価表をもとに、提出物などを勘案して、総合的に評価する。 希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う。					

授業科目名 <b>教育実習Ⅱ〔総合〕</b>				担当者 <b>森 英子</b>	
単位数	3 単位	開講期	集中	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 教育実習Ⅱ〔総合〕の事前指導として6回を総合実習の意義と目的、指導上の留意点、指導案の書き方について考察する。また、実習後1回で事後指導を行う。 指導教諭の補助的な立場で、指導の在り方を理解したり、指導案を作成し、教育活動の一部、又は時間的に連続して活動を一人で担当する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 観察実習の事後指導 事前オリエンテーションについての説明。実習日誌の書き方 指導案の考え方と書き方 指導案の作成練習 総合実習の注意、礼状の書き方 総合実習に向けての準備 附属幼稚園および学外幼稚園での総合実習を3週間実施する。 実習期間 ※基本的に土日は休みである。 2019年5月27日(月)～6月16日(日) 実習内容 実習のなかで実習日誌をまとめ、指導案を作成して部分指導や全日指導に臨む。 そして学内で習得した知識・技能を基に、教育現場での経験を深めつつ実践力を高め、保育者としての資質および自覚を培う。		
<b>【到達目標】</b> 大学で履修した知識、技能技術を実際に教育者の立場に立って実習を行い体験して確認する。その中で、自身が今後努力すべき資質や技能形成の方向性を明らかにしていく。			教育実習Ⅱ〔総合〕の事後指導		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 「教育実習指導」などの授業内容をよく理解しておくこと。また、履修の要件となっている、所定の単位を取得しておくこと。			<b>【テキスト】</b> 監修：田中亨胤、編著者：山本淳子 『0～5歳児 年齢別・実習 完全サポート 記入に役立つ 保育がわかる 実習の記録と指導案～部分実習指導案と連動した遊びつき』、ひかりのくに株式会社		
<b>【留意事項】</b> 実習事前オリエンテーションで指示されていることや実習の心得の内容を守ること。			<b>【参考図書】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説書』、 内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 実習園の評価表をもとに、提出物などを勘案して、総合的に評価する。 希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う。					



授業科目名 <b>保育所実習指導Ⅰ</b>				担当者 <b>荒島 礼子</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> ・子どもの最善の利益を保證する保育について考え理解する。・保育所の役割や機能を理解し保育士が行う保育について考え、保育所実習に向けて実習生としての心得や態度を身につける。・実際の保育現場で活用するペープサートや手作り絵本などを作成したり発表したりする中で保育士としての技能を身につける。又、指導案の立て方を学び、実習準備を行う。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 保育所実習の意義目的(手遊びについて) 2. 保育所実習の基本的知識(デイリープログラム・折り紙) 3. 子どもの理解と自己課題(子どもの発達)、実習園の決定 4. 子どもの理解と自己課題(子どもの遊び) 5. 子どもの人権と最善の利益の考慮(集団遊びについて考える) 6. プライバシーの保護と守秘義務について(ペープサート作り) 7. 実習生としての心構え(ペープサート発表) 8. 保育課程の考え方捉え方(フィンガータップ) 9. 指導計画作成について(年間指導計画) 10. 指導計画作成について(月指導計画) 11. 指導計画作成について(週指導計画) 12. 指導計画作成について(日案)(あやとり) 13. 観察・指導・評価について(児童票について) 14. 自己評価について 15. 保育所実習指導のまとめ		
<b>【到達目標】</b> 保育実習の意義・目的を理解し、自己課題を明確にして知識・技能を身につけ実習に臨む態度を身につける。又、実習に当たって、計画の立て方や記録のとり方等を学び、実践に活かすようにする。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 「保育の手引き」「保育所保育指針」を熟読する。又、絵本や折り紙、幼児の歌手遊び等に親しみ、保育に活かせるようにしておく。					
<b>【留意事項】</b> 保育実習に適した靴・服装を用意する。又、色紙・はさみ・糊・カッターナイフなどを常に持参すること。			<b>【テキスト】</b> 保育実習の手引き(岡山県保育実習委員会)		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業態度20%、課題への取り組み発表態度50%、レポート等提出物30%を総合的に判断して評価する。評価については希望者に個別に伝える。			<b>【参考図書】</b> 保育所保育指針		

授業科目名 <b>保育所実習指導Ⅱ</b>				担当者 <b>荒島 礼子</b>	
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> ・子どもの最善の利益を保證する保育について考え理解する。・保育所の役割や機能を理解し保育士が行う保育について考え、保育所実習に向けて実習生としての心得や態度を身につける。・実際の保育現場で活用するペープサートや手作り絵本などを作成したり発表したりする中で保育士としての技能を身につける。又、指導案の立て方を学び、実習準備を行う。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション:保育所実習全体の流れと留意事項 2. 保育士の責務と役割について 3. 保育士の専門性[保育士倫理綱領を踏まえて] 実習日誌記入 4. 子どもの人権と最大の利益の考慮「児童虐待防止法」 手作り絵本作成 5. 保育の理解「保育の基本」 手作り絵本作成 6. 保育の内容・方法「子どもの生活への配慮」 午睡の指導案作成 7. 保育の内容・方法「あそびの捉え方」 実習生について作成 8. 保育内容・方法「保育の実施上の配慮事項」 生活習慣について理解する 9. 保育日誌の形式と書き方 園行事について考える 10. 指導計画作成について(日案部分) 11. 指導計画作成について(日案終日) 12. 指導計画作成について(まとめ) 設定保育を考える 13. 観察・記録・評価について(紙芝居) 14. 自己評価について(エプロンシアター) 15. 保育所実習指導のまとめ		
<b>【到達目標】</b> 保育実習の意義・目的を理解し、自己課題を明確にして知識・技能を身につけ実習に臨む態度を身につける。又、実習に当たって、計画の立て方や記録のとり方等を学び、実践に活かすようにする。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 「保育の手引き」「保育所保育指針」を熟読する。又、絵本や折り紙、幼児の歌手遊び等に親しみ、保育に活かせるようにしておく。					
<b>【留意事項】</b> 保育実習に適した靴・服装を用意する。又、色紙・はさみ・糊・カッターナイフなどを常に持参すること。			<b>【テキスト】</b> 保育実習の手引き(岡山県保育実習委員会)		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業態度20%、課題への取り組み発表態度50%、レポート等提出物30%を総合的に判断して評価する。評価については希望者に個別に伝える。			<b>【参考図書】</b> 「保育所保育指針」		

授業科目名 <b>保育所実習Ⅰ</b>			担当者 <b>荒島 礼子</b>		
単位数	2 単位	開講期	集中	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 学習で習得した教科全体の知識及び技能を保育所において総合的に実践し、保育についての学習を深めながら専門職としての資質能力の育成を図る。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 実習期間 平成31年8月28日(水)～9月20日(金) 実習Ⅰ 平成31年8月28日(水)～9月7日(土) 実習計画 観察実習→参加実習→部分実習→全日実習  ※事前オリエンテーション時に、担当クラス、事前準備、部分・全日等指導内容について、実習園としっかり打ち合わせを行い、実習準備をして臨むこと。		
<b>【到達目標】</b> 実習を通して、子ども・保護者・保育所への理解を深め、専門職としての資質と能力を身につける。指導案等を含めた諸帳簿の記入方法を学ぶ。			※実習期間中に、大学脅威kンによる巡回指導が行われる。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 「保育所保育指針」「実習の手引き」を熟読し、実習に臨むようにする。又、実習に必要な保育準備をしておく。			<b>【テキスト】</b> 保育実習の手引き(岡山県保育実習委員会)		
<b>【留意事項】</b> 体調管理に努め、健康な体で実習に取り組むこと。遅刻欠席については厳しく見るので留意すること。			<b>【参考図書】</b> 保育所保育指針		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 保育園の評価80%、実習巡回指導の評価5%、実習ノートの整理15%都市評価する。評価については希望者に個別に伝える。					

授業科目名 <b>保育所実習Ⅱ</b>			担当者 <b>荒島 礼子</b>		
単位数	2 単位	開講期	集中	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－	幼児教育：2年
<b>【授業概要】</b> 学習で習得した教科全体の知識及び技能を保育所において総合的に実践し、保育についての学習を深めながら専門職としての資質能力の育成を図る。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 実習期間 保育所実習Ⅱ 平成31年9月9日(月)～9月20日(金)  ※事前オリエンテーション時に、担当クラス、事前準備、部分・全日等指導内容について実習園としっかり打ち合わせを行い、実習準備をして臨むこと。		
<b>【到達目標】</b> 実習を通して、子ども・保護者・保育所への理解を深め、専門職としての資質と能力を身につける。指導案等を含めた諸帳簿の記入方法を学ぶ。			※実習期間中に、大学教員による巡回指導が行われる。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 「保育所保育指針」「実習の手引き」を熟読し、実習に臨むようにする。又、実習に必要な保育準備をしておく。実習Ⅰの評価を踏まえ、反省点は改善するようにすること。			<b>【テキスト】</b> 保育実習の手引き(岡山県保育実習委員会)		
<b>【留意事項】</b> 体調管理に努め、健康な体で実習に取り組むこと。遅刻欠席については厳しく見るので留意すること。			<b>【参考図書】</b> 保育所保育指針		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 保育園の評価80%、実習巡回指導の評価5%、実習ノートの整理15%都市評価する。評価については希望者に個別に伝える。					

授業科目名 <b>施設実習指導 I</b>				担当者 <b>谷村 紀彰</b>	
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 社会福祉系の科目で学習した内容やボランティア体験を生かし、福祉施設での子どもや障がい者への援助内容や方法について理解を深める。また、実習生としての心構えや留意事項を理解するとともに、実習目標の設定や記録の意味・書き方を習得する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・施設実習の意義と目的</li> <li>2. 実習生の心得・施設実習の基本的知識</li> <li>3. 実習施設の利用(1)施設種別と概要</li> <li>4. 実習施設の利用(2)児童福祉施設について</li> <li>5. 実習施設の利用(3)障害児・者施設について</li> <li>6. 記録の技術(1) 実習日誌の書き方(基礎編)</li> <li>7. 記録の技術(2) 実習日誌の書き方(応用編)・先輩の実習体験談</li> <li>8. 実習に向けての予備知識(1) 障害の理解</li> <li>9. 実習に向けての予備知識(2) 実習園の理解</li> <li>10. 実習の課題と課題達成のための方法</li> <li>11. 1・2年生実習交流会</li> <li>12. 記録の技術(3) 実習日誌の書き方(実践編)</li> <li>13. 実習に向けての予備知識(3) レクリエーション</li> <li>14. 記録の技術(4) お礼状・実習に向けての最終確認</li> <li>15. 事後指導・実習の振り返り</li> </ol>		
<b>【到達目標】</b> 1. 施設実習の意義・目的・内容を理解し、明確にすることができる。 2. 実習施設における実習の心構えや留意事項を理解し、実習目標の設定や記録の意味・書き方を習得することができる。 3. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や学習目標を明確にすることができる。			<b>【テキスト】</b> 岡山県保育士養成協議会編『施設実習の手引き』		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> ・積極的にボランティアに参加するなどして準備を進めること。 ・授業でケース研究を行う際は、事前にケースの内容を提示するので、地域の社会資源を調べ、自分の考えをまとめておくこと。			<b>【参考図書】</b> ・岡本幹彦 他編著『保育士養成課程 福祉施設実習ハンドブック(四訂)』株式会社みらい2013年9月 ・石橋裕子・林幸範 編著『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド(第二版)』同文書店2018年4月		
<b>【留意事項】</b> ・原則遅刻・欠席は認めない。やむを得ない理由で遅刻や欠席する場合は、必ず連絡をすること。 ・課題や提出物等の期限は守ること。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・課題への取り組み・提出物(70%)とレポート(30%)で評価する。 ・課題やレポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、再提出を求める。					

授業科目名 <b>施設実習 I</b>				担当者 <b>谷村 紀彰</b>	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 保育所以外の児童福祉施設等の生活の流れに参加し、そこで生活する子どもや利用者への理解を深めるとともに、実習施設の機能と施設保育士の職務について学ぶ。なお本実習は、原則宿泊を伴う10日間となる。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所以外の児童福祉施設等における実習(学外実習)</li> <li>2. 実習の内容 ・実習施設について理解する。</li> <li>3. ・実習施設での生活の流れを理解し、参加する。</li> <li>4. ・子どもや利用者の観察や関わりを通して、個々の状態に応じた援助の在り方について理解を深める。</li> <li>5. ・支援計画等について理解する。</li> <li>6. ・生活や遊びの一部を担当し、保育技術等を習得する。</li> <li>7. ・実習施設における保育士の職務について理解する。</li> <li>8. ・職員間の役割分担や、チームワークについて理解する。</li> <li>9. ・生活や遊びの一部を対象とした支援計画等を立案する。</li> <li>10. ・計画に基づく保育や支援を実践し、その評価を行う。</li> <li>11. ・記録に基づく省察と自己評価を行う。</li> <li>12. ・子どもや利用者の最善の利益を具体化する方法を学ぶ。</li> <li>13. ・保育士としての倫理を具体的に学ぶ。</li> <li>14. ・安全及び疾病予防への配慮について理解する。</li> <li>15. ・保育士としての自己課題を明確化する。</li> </ol>		
<b>【到達目標】</b> 1. 児童福祉施設等(保育所外)で日々営まれている保育等に参加し、保育士の業務内容や職業倫理について理解している。 2. 児童福祉施設等(保育所外)での日常生活や遊び場面を通して、保育等に必要知識や技能を習得し、実践することができる。 3. 児童福祉施設等(保育所外)の役割や機能を具体的に理解するとともに、保育士としての自己の課題を明確にすることができる。			<b>【テキスト】</b> 岡山県保育士養成協議会編『施設実習の手引き』		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> ・実習に必要な手続きを確実に行うとともに、事前のオリエンテーションは必ず実施すること。 ・実習施設から提示された課題等には必ず取り組んでおくこと。			<b>【参考図書】</b> ・岡本幹彦 他編著『保育士養成課程 福祉施設実習ハンドブック(四訂)』株式会社みらい2013年9月 ・石橋裕子・林幸範 編著『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド(第二版)』同文書店2018年4月		
<b>【留意事項】</b> ・実習には実習生としてふさわしい姿勢で臨むこと。 ・提出物などの期限は厳守すること。 ・実習を無断欠席・無断遅刻した場合には、単位を認定しないことがある。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> ・実習状況・実習記録・支援計画等(20%)と実習施設による評価(80%)で評価する。 ・希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う。					

授業科目名 <b>行事企画実践演習</b>				担当者 <b>仲田 輝康 他</b>	
単位数	1 単位	開講期	集中	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 保育・幼児教育の現場では、入学式、運動会、学修発表会など、様々な年中行事があり、保育者は行事の経験を通じて子どもの成長を促す。本授業では、中・四国保育学生研究大会や子育て支援事業などでの発表(実技発表または口頭発表)とその準備を通して、保育者として必要とされる社会性や指導力、責任感、企画力などの実践力向上をめざす。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 実技発表の場合は、発表作品と発表に向けての準備・練習を行う。口頭発表の場合は、具体的課題を設定して研究を行い、内容をまとめプレゼンテーションを行う。また、発表後には、発表内容等についての評価を行う。		
<b>【到達目標】</b> 実技発表や口頭発表に向けての取り組みを通して、保育者として必要な実践的知識や態度を向上させる。発表の機会を通して、様々な保育の実践に触れ、交流を深める中で保育所職への意欲を高める。					
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 前年度までの中・四国保育学生研究大会および子育て支援事業内で発表された演目の映像を視聴しておくこと					
<b>【留意事項】</b> 準備の段階から、主体的かつ積極的に取り組むこと					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 発表の様子、準備段階での参加態度および反省会での振り返りなどを総合的に評価する。また、反省会にて講評を行う。			<b>【テキスト】</b> なし		
			<b>【参考図書】</b> 適宜指示する		

授業科目名 <b>Sanyo子育てサポート実習</b>				担当者 <b>仲田 輝康 他</b>	
単位数	1 単位	開講期	集中	区分	選択科目
				配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 核家族化や少子化の進展に伴い、子どもと関わる機会が少なくなっている。そのような社会状況を踏まえ、この科目では本学附属幼稚園をはじめとする幼稚園、保育所・福祉施設などでの就業体験を通して、保育に関わる「学びの場」を提供する。			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 学生の自主的・主体的な参加を基本とする。 本学附属幼稚園における「こっこスクール」を始め、幼稚園・認定子ども園・保育所・社会福祉施設における就業体験や、子育て支援等の保育者の就業内容に関する活動を行う。		
<b>【到達目標】</b> 「生きた実践」を通して学ぶ中で、保育者としての子どもへの関わり方や支援の方法の理解を深め、望ましい職業観や保育観・子ども観を確立することを目標とする。			<b>【事前指導】</b> 1. オリエンテーション:履修上の注意 2. 活動記録の書き方		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 保育者としての子どもの関わり方や支援の仕方を他講義や日常生活で注意関心をもって常に臨み、身に付けておくこと。			<b>【中間指導】</b> 1. 活動状況報告会①		
<b>【留意事項】</b> 就業体験の一環のため、社会人としてのマナーと態度をもって臨むこと。			<b>【事後指導】</b> 1. 活動状況報告会②		
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 「子育て支援実習活動記録」、活動報告会等により、活動状況を把握し、それを基に単位認定を行う。 活動報告会では、子どもとの関わり方や支援方法、学生の保育観・子ども観の確立状況について講評を行い、希望者については活動記録を基に個別に説明を行う。			<b>【テキスト】</b> なし		
			<b>【参考図書】</b> 適宜指示する		

授業科目名 <b>子どもと食育</b>				担当者 <b>小野 和夫 他</b>	
単位数	1 単位	開講期	集中	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～	
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>「食育」は、食を営む力の基礎を培うことを目標として実施される。このなかで保育者には家庭や地域社会と連携を図り、保護者の協力のもと、栄養士などと連携して食育を進めることが求められる。この授業では、乳幼児の栄養や子どもの食生活について学ぶ。さらに保育現場における食育の現状と課題についても学び、保育の現場で食育に取り組める基礎力を養う。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、栄養の基礎</li> <li>2. 子どもの食をめぐる現状</li> <li>3. 栄養バランス</li> <li>4. 食物アレルギー</li> <li>5. 食の安全</li> <li>6. 食品衛生</li> <li>7. 食文化</li> <li>8. 食事とマナー</li> <li>9. 食料自給</li> <li>10. 栄養補給法</li> <li>11. 食に関する保護者への支援</li> <li>12. 保育所における食育実践事例</li> <li>13. 食育の現状と課題（幼稚園）</li> <li>14. 食育の現状と課題（栄養士）</li> <li>15. 食育の現状と課題（保育士）</li> </ol>		
<b>【到達目標】</b>			<b>【テキスト】</b>		
<p>①幼児に給食を通して栄養やそのバランスについて説明できる。②食に関する保護者への支援のあり方について理解できる。③保育現場で栄養士などと連携して食育を実践することができる。</p>			なし。必要に応じて資料を配布する。		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b>			<b>【参考図書】</b>		
各テーマについて図書館等を利用して予習する。			附属図書館の蔵書を中心に適宜紹介する。		
<b>【留意事項】</b>					
第13回～15回は食物栄養学科と合同で行う。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b>					
<p>授業態度10%、レポート90% 各授業後に提出するレポートと授業態度に基づいて評価する。希望者には、各担当者がレポートの評価について説明を行う。</p>					

授業科目名 <b>専門演習</b>				担当者 <b>村田 幸治 他</b>	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：2年	
<b>【授業概要】</b>			<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b>		
<p>新たな社会ニーズとして対応が求められている「病児保育」についての講義と演習を行う。幼児教育学科で保育士資格を取得する場合には、日本病児保育協会が認定する「認定病児保育スペシャリスト」資格の取得が可能なカリキュラムとしている。食物栄養学科の学生は認定病児保育スペシャリスト資格の取得は出来ないが、小児の食事・摂食の安全(小児の気道異物除・心肺蘇生等)についての対応力を向上させる立場から受講可能とする。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、病児保育とは何か?</li> <li>2. 病児保育の意義を知ろう</li> <li>3. あるべき病児保育のかたち</li> <li>4. 病児保育の遊びについて理解する</li> <li>5. 病児保育の1日の流れ</li> <li>6. 病児保育の心理について理解する</li> <li>7. 病児保育におけるコミュニケーション</li> <li>8. 感染予防について理解する</li> <li>9. 代表的な子どもの病気を知ろう</li> <li>10. 基本的な看病について理解する</li> <li>11. リスクマネジメントの基礎を理解する(1)</li> <li>12. リスクマネジメントの基礎を理解する(2)</li> <li>13. 心肺蘇生法・気道異物の除去</li> <li>14. 心肺蘇生法・気道異物の除去の演習</li> <li>15. まとめと期末試験(病児保育スペシャリストの修了試験を兼ねる)</li> </ol>		
<b>【到達目標】</b>			<b>【テキスト】</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病児保育について理解する。</li> <li>2. 認定病児保育スペシャリスト資格の取得に必要な内容を修得する。</li> </ol>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料(プリント)</li> <li>・認定病児保育スペシャリスト試験 公式テキスト、英知出版、2013年(※テキストは、履修が確定した学生のみ購入。詳細は、掲示等により連絡。)</li> </ul>		
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b>			<b>【参考図書】</b>		
<p>幼児教育学科の学生は、「子どもの保健Ⅰ・Ⅱ」の内容を復習しておくこと。事前にテキストの該当箇所を読み、分からない用語を調べておくこと。授業ではwebによるアクティブ・ラーニングを行うため、各自でIDを管理すること。</p>			<p>新谷まさこ著「よくある子どもの病気・ケガまぜの対応マニュアル:よくある症状への具体的な寄り添い方から保護者への伝え方まで」、ひかりのくに(2014)</p>		
<b>【留意事項】</b>					
履修者は10名以上15名程度まで(希望多数の場合は1年後期までの成績により選抜)。履修に当たり、別途に演習費用が必要(掲示等により連絡)。					
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b>					
<p>期末試験(日本病児保育協会が実施する修了試験)100%で評価する。修了試験は、原則としてweb回答(60分で100問)となっており、合格基準点は75%以上となっていることに留意すること。修了試験の解説等については、日本病児保育協会のホームページから参照すること。</p>					

授業科目名 <b>言葉A</b> [2年次]				担当者 <b>仲田輝康</b>			
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～ ※2年次対象
<b>【授業概要】</b> 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と保育所保育指針の「言葉」の領域を学ぶ。また乳幼児がどのように言葉を獲得していくのかについて学習し、保育者としての基礎的な知識と技能を身に付けていく。また「国語表現法」に続き、「絵本100冊読みノート」の作成を課題とし、絵本の世界についても考えを深める。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. オリエンテーション 子どもの言葉を考える 2. 幼稚園教育要領と保育所保育指針の領域「言葉」 3. 「こどものうた」の中の言葉 4. 子どものことばの発達:概観 5. 子どものことばの発達:新生児期・乳児期(1) 6. 子どものことばの発達:乳児期(2) 7. 子どものことばの発達:幼児期(1) 8. 子どものことばの発達:幼児期(2) 9. ことば遊びのいろいろ 10. わたしの絵本この1冊 11. 自己紹介絵本の作成・発表 12. お話基礎練習 13. お話原稿作成 14. お話発表 15. 子どもの言葉を振り返る			
<b>【到達目標】</b> 幼稚園教育要領と保育所保育指針の領域「言葉」について理解し、保育者として求められる実践力の基礎を身に付ける。							
<b>【準備学習の内容】</b> 前時に示される課題をやって次の授業に臨むこと。また、授業後には各回の授業内容を確認しておくこと。絵本ノートの作成を課題として課す。							
<b>【留意事項】</b> 『漢字ボックス』、『滴一滴書き写し学習帳』を毎時間必ず持参すること。授業の順番は変更する場合もある。				<b>【テキスト】</b> 『保育内容・言葉—乳幼児のことばを育む』(教育出版)、『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』			
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 授業中の作成物等 40% 提出課題 20% 期末試験 40% 授業中の作成物については採点をし、次時に返却する。試験については希望者に対して答案の不十分な点を説明する。				<b>【参考図書】</b> 『漢字ボックス』(浜島書店) 『滴一滴書き写し学習帳』(山陽新聞社)			

授業科目名 <b>特別支援教育・障がい児保育</b>				担当者 <b>花房 香</b>			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	食物栄養：－ 幼児教育：1年～
<b>【授業概要】</b> 障がいは社会環境によって作り出される側面があるという事実を念頭に、さまざまな障がいのある幼児、児童及び生徒が授業を受けている現状を把握するとともに、それぞれの学習困難性を理解し個別の対応について他の教員や関係機関と連携するための基礎的な知識と、その支援方法について学習する。				<b>【学習内容(各回の授業予定)】</b> 1. 障がい児保育とは —障がいとは何か— 2. 障がい児保育の基本 3. 発達障害者支援法/障害者差別解消法/障害者権利条約 4. 障がいの理解と保育① —知的障がい— 5. 障がいの理解と保育② —肢体不自由/聴覚障がい/視覚障がい— 6. 障がいの理解と保育③ —自閉症スペクトラム障がい— 7. DVD学習「自閉症スペクトラム」等 8. 障がいの理解と保育④ —注意欠陥・多動性障がい/学習障がい— 9. DVD学習「発達障がい」等 10. 子どもの理解に基づく支援計画の作成 11. 発達をうながす生活、あそび、かかわり 12. 職員間の協力 —事例検討会のすすめ方— 13. 保護者への支援 —保護者会との関係など— 14. 保育関連施策 —専門機関等との連携— 15. 障がいはなくても特別な対応が必要な幼児、児童及び生徒の把握と支援			
<b>【到達目標】</b> 近年増加が顕著な発達障害を含めたさまざまな障がいの特性の基本的な理解と関わり方、保護者支援、機関連携等について学ぶ。							
<b>【予習・復習等準備学習の内容】</b> 日ごろから子どもの問題に関するマスコミ報道等に関心を寄せてもらいたい。							
<b>【留意事項】</b> 必要に応じて資料を配布および映像資料等の視聴をする。適宜、レポート、リアクションペーパー等の提出を求めることもある。				<b>【テキスト】</b> 前田泰弘編著「実践に生かす障害児保育」萌文書林			
<b>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】</b> 期末試験、課題レポート、リアクションペーパー等により総合的に評価する。				<b>【参考図書】</b> 伊藤健次編「新・障害のある子どもの保育 第2版」(株)みらい 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			

## 実務経験のある本務教員ならびに担当授業科目一覧

## 食物栄養学科

科目担当者	授業に係る実務経験など	担当授業科目	科目区分	単位数	実践的教育の概要
岩崎由香里	倉敷市保健所・教育委員会(管理栄養士)	公衆栄養学	専門	2	対象地域や集団に属する人々の公衆栄養マネジメントの実際について学ぶ。
松井佳津子	給食受託会社(管理栄養士)	給食計画論	専門	2	特定給食施設における給食運営とその管理等について実践的な知識を養う。
		給食実務論	専門	2	特定給食施設種別に給食運営と栄養・食事管理、衛生管理を中心に実践的な知識と技能を養う。
		給食管理実習・学内	専門	2	特定給食施設種別に食事提供と栄養教育を実践する。これにより特定給食施設における栄養士の役割りと業務を理解し、体得する。
		(※2) 給食管理実習・学外	専門	2	学外の特定給食施設(学校・保育所・病院等)において給食運営の実習を行う
森 英子	保育園(保育士) (※1)	子どもと食育	専門	1	幼児に対する食育の実践力を身につける

※1 オムニバス等、多様な企業等から講師を招いて指導を行う授業

※2 学外でのインターンシップや実習、研修を中心とした授業

※3 実務経験のある教員や企業の協力を得て、実施している授業

## 幼児教育学科

科目担当者	授業に係る実務経験など	担当授業科目	科目区分	単位数	実践的教育の概要
荒島 礼子	幼稚園勤務(幼稚園教諭・園長) 保育所勤務(保育士・園長)	保育内容総論	専門	2	実際の遊びを観察したり自分自身が経験したりする。オペレッタ発表
		保育所実習指導Ⅰ	専門	1	手遊びや手作り絵本等について学び発表する。指導案を立案し保育準備を行う。
		保育所実習指導Ⅱ	専門	1	実習生としての心得を学ぶ。指導案の立案や諸帳簿の書き方を学び実習準備を行う。
		環境A	専門	1	保育内容「環境」領域の指導案の立案、夏野菜の栽培等を実践し、観察記録を作成する。
		環境B	専門	1	保育内容「環境」領域の指導案の立案、地域散策等を通して地図作りなどを実践する。
		(※2) 保育所実習Ⅰ	専門	2	指導案を立案し指導に当たる。手遊びや本の読み聞かせなど様々な保育技術を実践する。
		(※2) 保育所実習Ⅱ	専門	2	指導案を立案し指導に当たる。手遊びや本の読み聞かせなど様々な保育技術を実践する。
児玉 太一	中学校非常勤講師(美術)	工作	専門	1	幼児造形と美術科教育に関連する工作の指導
		表現ⅡA	専門	1	幼児造形と美術科教育に関連する絵と工作の指導
		図画	専門	1	幼児造形と美術科教育に関連する絵や版画の指導
		(※1) 社会人入門Ⅱ	一般	1	就職活動に必要な知識、態度、能力を身に付ける。(幼稚園園長による面接指導を含む。)
仲田 輝康	高校教員	国語	一般	2	保育の現場で必要とされる読む力、書く力を養う。
		国語表現法	専門	2	幼稚園教諭として必要な国語の基礎と子どもの言葉について学ぶ。
		言葉A	専門	1	子どもの言葉についての知識と技能を学ぶ。
		言葉B	専門	1	お話や絵本などに関する知識と技能を学ぶ。
森 英子	保育園(保育士)	教職論	専門	2	保育と子育て支援等、保育者の専門性の学び
		人間関係A	専門	1	領域「人間関係」のねらい及び内容の理解

		人間関係B	専門	1	人間関係に関わる具体的場面を想定した保育を構想
		教育実習指導	専門	1	実習の意義、目的、心得、目標、日誌作成指導
	(※2)	教育実習 I	専門	1	附属幼稚園での観察・参加を中心とした実習
	(※2)	教育実習 II	専門	3	学外幼稚園での教育実習
		保育・教職実践演習(幼稚園)	専門	2	実習の振り返りと模擬・研究保育での実践力向上
	(※1)	キャリアデザイン I	一般	2	社会人として必要な常識、マナーを学ぶ。 (保育士・幼稚園教諭の仕事に関する講話を含む。)
米倉 孝	高校教員	音楽 I	専門	1	音楽理論を学び、楽器を作り童謡を歌う。
		表現 I A	専門	1	創作リズム楽器を取り入れて童謡を歌う

※1 オムニバス等、多様な企業等から講師を招いて指導を行う授業

※2 学外でのインターンシップや実習、研修を中心とした授業

※3 実務経験のある教員や企業の協力を得て、実施している授業





**山陽学園短期大学**

〒703-8501

岡山市中区平井一丁目14番1号

TEL086(272)6254(代表)

FAX086(273)3226

**教務部**

TEL086(901)0503(直通)

kyoumu@sguc.ac.jp

**【事務受付時間】** 平日8:45~17:00